

LTE/3G 通信モジュール内蔵 IoT ゲートウェイ

MR-GM3L

ユーザーズマニュアル



変更履歴

版数	日付	内容
1.0	2016/12	新規作成
1.1	2017/5	誤記修正
2.0	2018/12	MR-GM3L-DKS に対応
2.1	2019/6	誤記修正、追記
3.0	2019/12	ファームウェア V1.03.34 に対応 MR-GM3L-M を追加
3.1	2020/2	誤記修正
3.2	2021/6	誤記修正
3.5	2021/7	ファームウェア V1.03.37 に対応
3.6	2021/10	追記
3.7	2022/1	誤記修正
3.8	2022/8	追記
3.9	2023/6	追記
3.9a	2023/9	追記、表記修正
3.9b	2024/2	追記、表記修正

はじめに

LTE/3G 通信モジュール内蔵 IoT ゲートウェイ MR-GM3L をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

本マニュアルは MR-GM3L ユーザーズマニュアルです。

本製品を正しくお使い頂くために、本書を良くお読み下さい。

また、本書は保証書とともに大切に保管して下さい。

以下の製品名は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft® Windows® 10 Operating System

Microsoft® Windows® 8 Operating System

Microsoft® Windows® 7 Operating System

Mac OS はアップルコンピュータ社の登録商標です。




その他、本書に記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

■本製品のご利用に当たって以下の項目をあらかじめご了承下さい。

- (1) 本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電等の外的要因によって通信等の機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損失、及び誤った設定を行ったために生じた純粋経済損失、通信内容の漏洩による純粋経済損失や精神的損害につきまして、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承下さい。
- (2) 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが万一不審な点、記載漏れ等お気付きの点がありましたら、当社ユーザーサポートまでご連絡下さい。
- (3) 運用した結果につきましては、上記項目にかかわらず一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。
- (4) 本書の一部または全部を無断転載することを固くお断りします。
- (5) 本書の内容は、予告無しに変更することがあります。

■本書中のマークについて

本製品を安全に正しく使用頂き、お客様や財産への損害を防ぐために、以下のマークの記されている内容を必ずお読み下さい。

 警告	本表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡あるいは重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	本表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害の発生が想定される内容を示します。
 お願い	本表示を無視して誤った取り扱いをすると、本製品の本来の性能を発揮出来なかったり、機能停止を招く内容を示します。

■本書中の表記について

●以下の文字は非常に間違いやすいので注意して下さい。


半角数字「1」(イチ)と半角アルファベット小文字「l」(エル)、半角アルファベット大文字「I」(アイ)

半角数字「0」(ゼロ)と半角アルファベット小文字「o」(オー)、半角アルファベット大文字「O」(オー)

●本書では一部の語句について略語表記している箇所があります。

本書での表記	正式な呼称
PC	パソコン、コンピュータ、端末等
Windows 10	Microsoft® Windows® 10 Operating System
Windows 8	Microsoft® Windows® 8 Operating System
Windows 7	Microsoft® Windows® 7 Operating System
Windows	上記 3 つのオペレーションシステムの総称

●以下のマークが付いている箇所は本製品をお使い頂く上で必ず確認または注意して頂きたい項目です。

 確認	ここに記載されている内容を必ず確認・注意して下さい。
---	----------------------------

注意事項

一本製品使用時の注意事項

- 高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、本製品の電源が切れる構造とすることをお奨めします。電子機器が誤動作するなど影響を与える場合があります。

【ご注意頂きたい電子機器の例】

補聴器、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器、その他医用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他の自動制御機器など

※参考:「医用電気機器への電波の影響を防止するための携帯電話端末等の使用に関する指針」(電波環境協議会[平成9年4月])



- 飛行機内や病院内等、使用を禁止された区域では、本製品の電源が切れる構造とすることをお奨めします。飛行機内や病院内等、使用を禁止された区域で本装置に電源を供給すると、医用電気機器、高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器に影響を与える可能性があります。医療機関内における使用については、各医療機関の指示に従ってください。
- 自動車内での車載電子機器の近くでは、本製品の電源が切れる構造にすることをお奨めします。自動車内で使用した場合、車載電子機器に影響を与える可能性があります。十分な対電磁波保護がされているか自動車販売店にご確認のうえ、ご使用になることをお奨めします。


安全にお使い頂くために

本製品を安全にお使い頂くために、以降の内容を必ずお読み下さい。

ご使用にあたって

 警告	<p>本製品は一般のオフィスや家庭用 OA 機器として設計されております。極めて高い信頼性を要求されるシステム(幹線通信機器、電算機システム、医療システム等)では使用しないで下さい。</p>
	<p>本製品を医療機器や、心臓ペースメーカー、植込み型除細動器を装着している人の近くで使用しないで下さい。医療機器の誤動作の原因となります。</p>
	<p>本製品を飛行機内や病院内等、電波の使用を禁止・制限された区域で使用しないで下さい。飛行機の計器類や医療機器の誤動作の原因となります。</p>
	<p>落雷の恐れがある場合は、本製品の使用を直ちに中止し、接続されているケーブルを取り外して下さい。落雷により本製品及び本製品が接続されている機器の故障、発煙、発火の可能性があります。なお、落雷等の天災による故障の場合、保証期間内であっても有償修理となりますので、あらかじめご了承下さい。</p>
	<p>本製品から煙が出たり、異臭が発生した場合等、異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。その際は電源アダプターをコンセントから外して煙が出なくなる、もしくは異臭が消えることを確認した後、当社ユーザーサポートへご連絡下さい。</p>
	<p>本製品の近くに花瓶や植木鉢、コップ、化粧品、薬品等の液体が入った容器、または小さな金属等を置かないで下さい。これらの異物が本製品の内部に混入した場合、火災、感電、故障の原因となります。</p>
	<p>本製品の内部に水や金属等の異物が混入した場合、すぐに本製品の電源アダプターをコンセントから外した後、当社ユーザーサポートへご連絡下さい。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。</p>
	<p>濡れた手で電源アダプターを抜き差ししないで下さい。火災、感電、故障の原因となります。</p>
	<p>電源アダプターのプラグにドライバ等の金属が触れないようにして下さい。火災、感電、故障の原因となります。</p>
	<p>電源アダプターは必ず付属のものを使用し、それ以外のものは絶対に使用しないで下さい。火災、故障の原因となります。</p>
	<p>電源アダプターのコードを傷つけたり、無理な力を加えたり、ものを乗せたりすることはお止め下さい。火災、感電、故障の原因となります。</p>
	<p>電源アダプターは確実に根本まで差し込んで下さい。また、電源アダプターのプラグとコンセントの間のほこりは定期的(半年に1回程度)に取り除いて下さい。そのまま放置すると火災の原因となります。</p>
	<p>電源アダプターを抜き差しするときは、必ず電源アダプター本体を持って行って下さい。電源アダプターのコードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電の原因となります。</p>
	<p>AC100V の家庭用電源以外では使用しないで下さい。また、たこ足配線をしないで下さい。火災、感電、故障の原因となります。</p>
	<p>梱包のポリ袋などは、小さいお子様の手の届く所に置かないで下さい。小さいお子様がかぶったり、飲み込んだりすると、呼吸を妨げる危険があります。</p>
	<p>ガソリンスタンドなど、引火、爆発の恐れがある場所では、使用しないで下さい。</p>
	<p>誤って本製品を落下させたり、強い衝撃を与えてしまった場合、本製品の電源アダプターをコンセントから外した後、当社ユーザーサポートへご連絡下さい。そのまま使用すると火災、故障の原因となります。</p>
	<p>本製品を分解・改造しないで下さい。火災、感電、故障の原因となります。また、故障した場合、保証期間内であっても保証を受けられなくなります。</p>
	<p>当社がご用意するオプション外部アンテナ以外のアンテナを使用しないで下さい。 当社がご用意するオプション外部アンテナ以外を使用した場合、電波法の規定に抵触する可能性があります。</p>
	<p>本製品の汚れのお手入れは、柔らかい布で軽く拭き取って下さい。 ベンジンやシンナー等の薬品を使用すると、人体に有害な気体が発生したり、本製品の変形や変色の原因となることがあります。</p>
 注意	<p>本製品を不安定な場所へ設置しないで下さい。また、本製品の上にもものを置かないで下さい。バランスが崩れて倒れたり、落下して怪我や本製品の故障の原因となります。</p>
	<p>本製品の上に乗らないで下さい。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意下さい。本製品が破損しケガや感電の原因となります。</p>
	<p>本製品を以下の環境で使用・保管・放置しないで下さい。火災、感電、故障の原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室内または製品周辺の温度や湿度が極端に高い、または低い場所 ・結露がある場所 ・ほこりが多い場所 ・腐食性ガスが発生する場所 ・不安定な場所 ・直射日光が当たる場所 ・急激な温度変化が起こる場所 ・静電気が発生しやすい場所 ・水などがかかりやすい場所 ・油煙が当たる場所 ・製品周辺に発熱する器具や燃えやすい物がある場所

 注意	<p>本製品に各種ケーブルや SIM カードを接続する・外す際は、必ず本製品及び他の機器の電源を OFF にして下さい。感電、故障の原因となります。</p>
	<p>本製品背面の各コネクタに異物を挿入しないで下さい。感電、故障の原因となります。</p>
	<p>本製品の動作中は本製品内部および外側が熱くなることがあります。 本製品の側にビニール等、熱により熔けやすいものを置かないで下さい。 また、本製品を他の機器と重ねて設置しないで下さい。変色、変形の原因となります。</p>
	<p>本製品の通気孔をふさいだり、重ねて設置しないで下さい。 本製品内部に熱がこもり加熱故障、火災の原因となります。</p>
	<p>お手入れをするときは本製品から電源アダプターを外して安全な状態で行って下さい。</p>
	<p>本製品を長期間ご使用にならないときは、本製品に接続されている各種ケーブルを外して下さい。</p>
	<p>本製品を長期間無人で使用する際は、必ず定期的に保守/点検を行って下さい。</p>
 お願い	<p>本製品は磁気を帯びている場所や磁場の発生している場所(テレビ、ラジオ、電子レンジ、携帯電話の近く等)に設置しないで下さい。他の機器や本製品の動作に影響を及ぼすことがあります。</p>
	<p>本製品が動作しているときは、本製品に接続されているケーブルに触れないで下さい。 ケーブルが外れたり動作が不安定になる等、誤動作の原因となります。</p>

その他	
 注意	<p>本製品は日本国内向けとして販売しております。 海外ではご使用にならないでください。</p>
	<p>本製品は 1 つの IP アドレスで複数台のパソコンからインターネットへ接続することが可能です。 しかし、プロバイダによっては接続するパソコン台数ごとに追加契約が必要となる場合があります。 本製品をインターネットへ接続するために使用する場合、お客様の自己責任で行って下さい。 当社はお客様とプロバイダとの契約条件等については一切関知致しません。</p>
	<p>本製品の仕様及び外観については、改良のため予告無く変更することがあります。</p>

セキュリティについて

本製品を使用するにあたり、設定画面へのログイン ID、パスワードを変更することを強く推奨します。

ログイン ID、パスワードを変更しない場合、ネットワーク上の他の機器等から MR-GM3L の設定や情報を見られたり、書き換えられる可能性があります。

(工場出荷値 ログイン ID: admin パスワード: passwd)

これは、セキュリティの面で非常に危険です。

ログイン ID、パスワードを変更することにより、安全に MR-GM3L を使用することができます。

ログイン ID、パスワードの設定方法については、「7-8.ユーザー・パスワード設定」(100 ページ)を参照して下さい。

内蔵通信モジュールについて

本製品は、電波法に基づく技術基準適合証明、および電気通信事業法に基づく技術適合認定を受けた通信機器を内蔵しております。

●MR-GM3L-D について

通信モジュール「AMP520」を内蔵しています。

NTT ドコモ LTE/3G パケット通信サービスを利用しパケット通信を行うことができます。

本書では、「AMP520」を「内蔵通信モジュール」と記載します。

本製品を LTE/3G ネットワークへ接続するためには、NTTドコモの「LTE/3G 通信サービス」のご契約と、LTE/3G 対応の SIM カードを SIM カードスロットに装着する必要があります。

●MR-GM3L-K について

通信モジュール「KYM12」を内蔵しています。

au 4G LTE 通信サービスを利用しパケット通信を行うことができます。

本書では、「KYM12」を「内蔵通信モジュール」と記載します。

本製品を au 4G LTE ネットワークへ接続するためには、KDDI のご契約が必要になります。

(契約によっては、SIM カードを SIM カードスロットに装着する必要があります)

●MR-GM3L-S について

通信モジュール「AMM5220」を内蔵しています。

ソフトバンク LTE/3G パケット通信サービスを利用しパケット通信を行うことができます。

本書では、「AMM5220」を「内蔵通信モジュール」と記載します。

本製品を LTE/3G ネットワークへ接続するためには、ソフトバンクの「LTE/3G 通信サービス」のご契約と、LTE/3G 対応の SIM カードを SIM カードスロットに装着する必要があります。

●MR-GM3L-DK について

通信モジュール「AMM570」を内蔵しています。

NTT ドコモ LTE パケット通信サービス、並びに au 4G LTE 通信サービスを利用しパケット通信を行うことができます。

本書では、「AMM570」を「内蔵通信モジュール」と記載します。

本製品を LTE ネットワークへ接続するためには、NTTドコモ、KDDI、MVNO 事業者との「LTE 通信サービス」のご契約と、LTE 対応 SIM カードを SIM カードスロットに装着する必要があります。

●MR-GM3L-DKS について

通信モジュール「AMM570」を内蔵しています。

NTT ドコモ LTE パケット通信サービス、au 4G LTE 通信サービス、ソフトバンク LTE パケット通信サービスを利用しパケット通信を行うことができます。

本書では、「AMM570」を「内蔵通信モジュール」と記載します。

本製品を LTE ネットワークへ接続するためには、NTTドコモ、KDDI、ソフトバンク、MVNO 事業者との「LTE 通信サービス」のご契約と、LTE 対応 SIM カードを SIM カードスロットに装着する必要があります。

●MR-GM3L-M について

通信モジュール「AMM570D」を内蔵しています。

NTTドコモ LTE/3G パケット通信サービス、au 4G LTE 通信サービス、ソフトバンク LTE/3G パケット通信サービスを利用しパケット通信を行うことができます。

本書では、「AMM570D」を「内蔵通信モジュール」と記載します。

本製品を LTE/3G ネットワークへ接続するためには、NTTドコモ、KDDI、ソフトバンク、MVNO 事業者との「LTE/3G 通信サービス」のご契約と、LTE/3G 対応の SIM カードを SIM カードスロットに装着する必要があります。

1.MR-GM3L の概要	1
1-1.主な特長	1
1-2.本製品の設定手順	2
1-3.各部の名称	3
2.初期設定を行う	4
2-1.各機器との接続	4
2-2.パソコンの設定	6
2-2-1.Windows 10	6
2-2-2.Windows 8 / 8.1	9
2-2-3.Windows 7	12
2-2-4.MacOS X	15
2-3.設定画面へのログオン	16
2-3-1.設定画面へのログオン	16
2-3-2.状態表示	18
2-3-3.設定画面が開かないとき	21
2-4.簡易設定を行う	22
3.ネットワーク設定	29
3-1.LAN 設定	29
3-2.WAN 設定(回線冗長化機能を使用しない)	32
3-2-1.モバイルデータカード(内蔵)	33
3-2-2.モバイルデータカード(USB)	36
3-2-3.IP アドレス固定(有線 WAN)	38
3-2-4.DHCP クライアント(有線 WAN)	39
3-2-5.PPPoE クライアント(有線 WAN)	40
3-2-6.WAN 共通設定	41
3-3.回線冗長化機能を使用する	43
3-3-1.回線冗長化機能の仕様について	43
3-3-2.プライマリ接続の設定	44
3-3-3.セカンダリ接続の設定	52
3-3-4.プライマリ接続・セカンダリ接続共通設定	62
3-3-5.回線監視の設定	63
3-4.スタティックルーティング設定	64
3-5.簡易 DNS 設定	65
4.ファイアウォール設定	66
4-1.IP フィルタリング設定	66
4-2.ドメインフィルタリング設定	69
4-3.MAC フィルタリング設定	70
4-4.ポートフォワーディング設定	71
4-5.DMZ ホスト設定	73
4-6.WAN 側から設定画面へのログオンを行う場合の設定方法	74
4-7.WAN 側からの Ping 応答を返す場合の設定方法	76
5.VPN 設定	78
6.QoS 設定	81

7.マネージメント	83
7-1.システム設定	83
7-2.時刻情報・タイマー再起動設定	84
7-3.DDNS 設定	86
7-4.メール送信設定	88
7-5.システムログ	91
7-6.ファームウェア更新	97
7-7.設定保存・読み込み	99
7-8.ユーザー・パスワード設定	100
7-9.内蔵モバイルデータカード情報(MR-GM3L-K のみ)	101
8.GPS 機能について	104
9.仕様	106
10.Q&A	107
11.ユーザーサポート	119
ユーザーサポートについて	119
お問い合わせ頂く際のお願い	119
本製品の修理について	119

1.MR-GM3L の概要

1-1.主な特長

MR-GM3L の主な特長について説明します。

●LTE/3G 対応通信モジュール内蔵

LTE/3G 対応の通信モジュールを内蔵しています。

SIM カードを挿すだけで、複数台の端末からモバイル通信網へ接続する事ができます。

※MR-GM3L-K/DK/DKS は LTE のみ対応です。

●有線 WAN 対応

有線ブロードバンド回線で利用する事ができます。

DHCP クライアント接続、PPPoE クライアント接続、IP アドレス固定接続に対応しています。

●USB ポート搭載

USB タイプのモバイルデータカードを接続して利用する事ができます。

●回線冗長化機能

プライマリ接続、セカンダリ接続を設定し、回線監視失敗時に接続を切り替える事が可能です。

回線障害発生時等に継続して通信を行う事ができます。

●VPN(IPsec)通信対応

IPsec 接続機能を搭載していますので、セキュアな拠点間通信環境を構築する事が可能です。(イニシエータ固定)

●簡易 DNS 機能

ホスト名と IP アドレスを MR-GM3L に登録することにより、MR-GM3L を簡易 DNS サーバーとして使用することが可能です。

●回線監視機能

設定した宛先に定期的に PING による応答確認や HTTP アクセスによる応答確認を行い、回線状態の監視を行うことができます。

応答が得られなかった場合に回線の再接続を行う、通信モジュールを再起動する等の動作を行い、接続状態を復旧します。

●タイマー再起動機能

設定したスケジュール(曜日・時刻指定・稼働時間)やシステム起動時間で、自動的に再起動させることができます。

無人環境などで、より安定した運用を行うことができます。

●IP フィルタリング/ドメインフィルタリング/MAC フィルタリング機能

特定の IP アドレス、プロトコル、ポート番号の通信、特定のドメイン名宛の通信、特定の MAC アドレスの通信を制限することができます。

●ポートフォワーディング機能

インターネット側 IP アドレス宛の特定の通信を、LAN 内の特定の IP アドレスへ転送することができます。

LAN 内へ転送する際、宛先ポート番号を別のポート番号へ変換することも可能です。

また、全ての通信を LAN 内の特定の IP アドレスへ転送する、DMZ ホスト機能にも対応しています。

●VPN パススルー対応(PPTP パススルー、IPsec パススルー、L2TP パススルー)

MR-GM3L を介して VPN ネットワークに接続することができます。

●UPnP(ユニバーサル・プラグ・アンド・プレイ)機能

UPnP 対応ソフトウェアを使用することができます。

●DHCP サーバー機能

LAN 内のパソコンに、IP アドレス等 TCP/IP 設定を自動的に割り当てる事ができます。

また、特定の MAC アドレスに対して特定の IP アドレスを割り当てる「固定 IP アドレス付与機能」にも対応しています。

●DDNS 機能

外部 DDNS(ダイナミック DNS) サービスを利用して、IP アドレスとドメイン名を自動的に結びつけることができます。

※本機能は外部の DDNS サービスを利用します。そのため、サービス提供元の仕様変更やサービス内容の変更により、利用できなくなる場合がありますのであらかじめご了承下さい。

●メール送信機能

GM3 の状態をメールで送信する事ができます。

WAN 側の回線接続時に送信する、定期的な送信する、特定の曜日の特定の時間に送信する等のスケジュール設定も可能です。

●QoS 機能

通信速度を制限する事ができます。

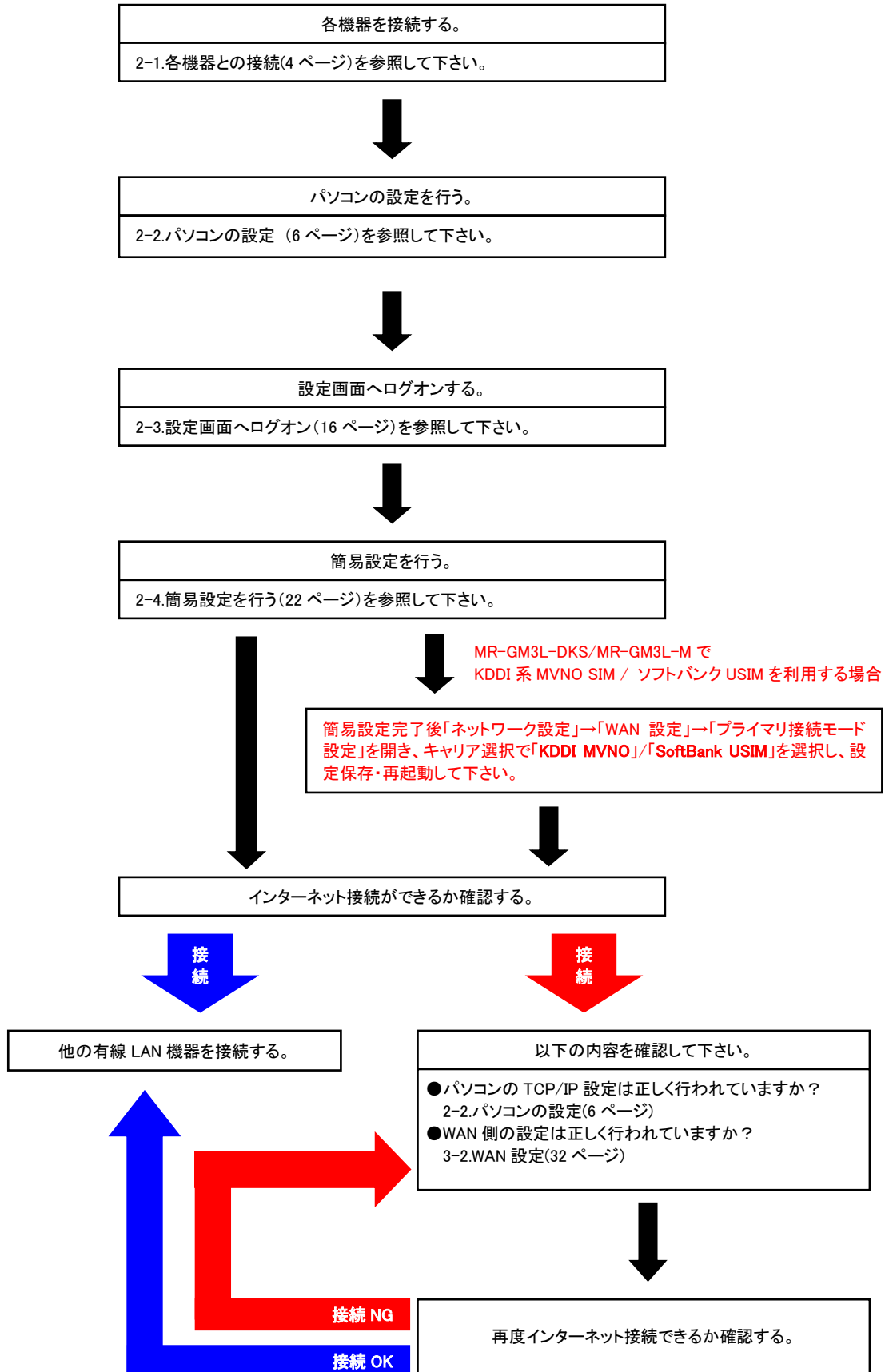
特定の IP アドレス、MAC アドレスによって速度を制限する事が可能です。

●GPS 機能

GPS 機能により、位置情報を取得する事ができます。

1-2.本製品の設定手順

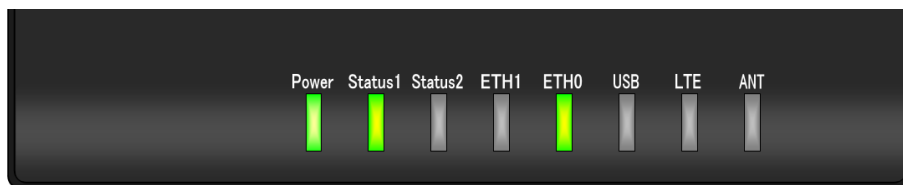
本製品の初期設定は、以下の手順で行って下さい。



1-3.各部の名称

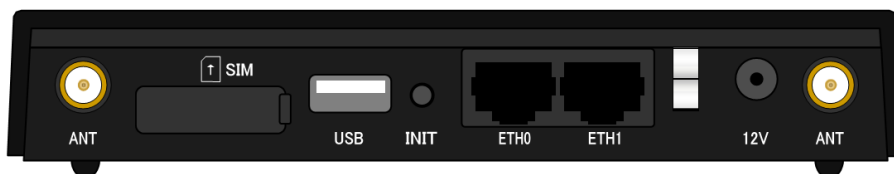
モニタランプとコネクタ類の名称について説明します。

■上面(モニタランプ)



Power	電源が ON のときに点灯します。
Status1	システム起動中に点滅します。 システム起動後に点灯します。 回線冗長化機能使用時は、プライマリ接続モードで接続中に点灯します。
Status2	システム起動中に点滅します。 システム起動後に消灯します。 回線冗長化機能使用時は、セカンダリ接続モードで接続中に点灯します。(Status1 ランプは消灯)
ETH1	有線 LAN ポート 1 のリンク状態を示します。 ※工場出荷値は有線 WAN ポートとして動作しています。
ETH0	有線 LAN ポート 0 のリンク状態を示します。
USB	USB ポートの状態を示します。 USB モバイルデータカードの初期化中、回線接続動作中に点滅します。 回線接続が完了すると点灯します。
LTE	内蔵通信モジュールの動作状態を示します。 内蔵通信モジュールの初期化中・回線接続中に点滅します。 回線接続が完了すると点灯します。
ANT	内蔵モジュールのアンテナ状態を示します。 緑点灯:LTE で通信確立中、アンテナ数 3 本以上 緑点滅:LTE で通信確立中、アンテナ数 2 本以下 赤点灯:3G で通信確立中、アンテナ数 3 本以上 赤点滅:3G で通信確立中、アンテナ数 2 本以下 ※MR-GM3L-K/MR-GM3L-DK/MR-GM3L-DKS は LTE のみ対応です。

■背面(コネクタ)



ANT	別売りの内蔵通信モジュール用外部アンテナを接続します。
SIM	SIM カードを挿入するスロットです。 MR-GM3L-D/K/DK は nano SIM カード(12.3×8.8mm)サイズです。 MR-GM3L-S/DKS/M は micro SIM カード(15mm×12mm)サイズです。
USB	USB タイプのモバイル通信カードを接続するための USB ポートです。
INIT	設定を工場出荷値に戻すためのボタンです。 本製品の電源を入れた状態で、INIT ボタンを 8 秒以上押して下さい。 8 秒以上押したら INIT ボタンを放して下さい。起動が完了すると初期化完了です。
ETH0	有線 LAN ポート 0 です。
ETH1	工場出荷値は有線 WAN ポートとして動作しています。 有線 LAN パソコンから初期設定を行う場合は、必ず ETH0 ポートに接続して行って下さい。 WAN 側接続モードを「モバイルデータカード(内蔵 orUSB)」に設定した場合、有線 LAN ポートとして使用する事ができます。 回線冗長化機能で「有線 WAN」接続モードを組み合わせで使用する場合は、有線 WAN ポート固定動作となります。(有線 LAN ポートとして使用する事はできなくなります。)
12V	電源アダプター用コネクタです。付属の専用電源アダプターを接続します。

2.初期設定を行う

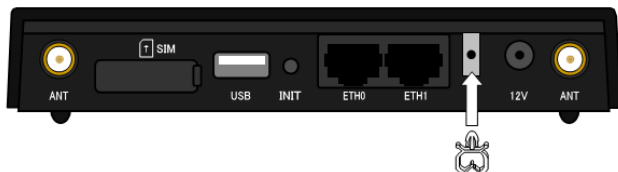
本製品の初期設定手順について説明します。

2-1.各機器との接続

本製品と各機器との接続方法を説明します。

1.電源アダプター脱落防止クランプと内蔵通信モジュール用外部アンテナ(別売り)の取り付け

電源プラグ左の穴に「電源アダプター脱落防止クランプ」を挿しこんで下さい。



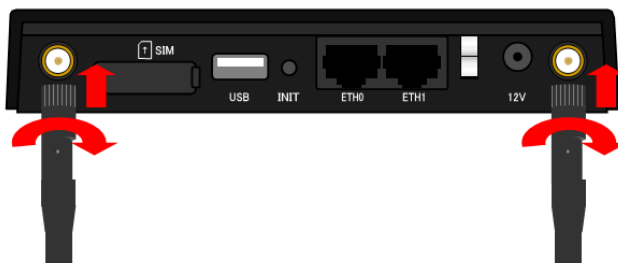
「ANT」端子に内蔵通信モジュール用外部アンテナを取り付けて下さい。

「ANT」端子にアンテナを差し込み、右に回して下さい。



注意

外部アンテナを取り付ける際は、コネクター部分を強く締めすぎないようにご注意ください。
無理な力を加えると、MR-GM3L 本体が破損する恐れがありますのでご注意ください。
お取り扱いの誤りにより発生した故障については、製品保証期間内であっても有償修理となります。



2.SIM カードの取り付け



注意

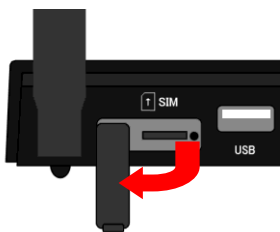
SIM カードの抜き差しを行う際は、必ず本製品の電源を落とした後 20 秒程度待ってから行って下さい。
電源を投入したまま抜き差しを行うと、SIM カードが破損する恐れがありますのでご注意ください。

SIM カードの抜き差しを行う際は、SIM カードの接点面(金属部分)に触れないように注意して下さい。
SIM カードの接点面を直接接触すると手指やほこりなどが付着し、SIM カードの接触不良が発生したり、SIM カードが破損する恐れがありますのでご注意ください。

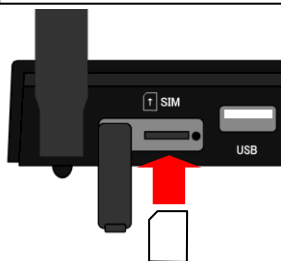
SIM カードは MR-GM3L 本体に対して水平に抜き差しして下さい。
斜めに差す等、強引に抜き差しを行うと、MR-GM3L 本体や SIM カードが破損する恐れがありますのでご注意ください。お取り扱いの誤りにより発生した故障については、製品保証期間内であっても有償修理となります。

SIM カードを利用する場合は、ゴムカバーを外し、SIM カードスロットに SIM カードを挿入して下さい。

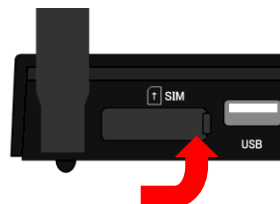
1)ゴムカバーの右側をつまみ
ゴムカバーを開けて下さい。



2) SIM カードの接点面を下に向けて差し込んで下さい。
(SIM カードの向きを間違えないようにご注意ください。)
SIM カードはカチッと音がするまで差し込んで下さい。

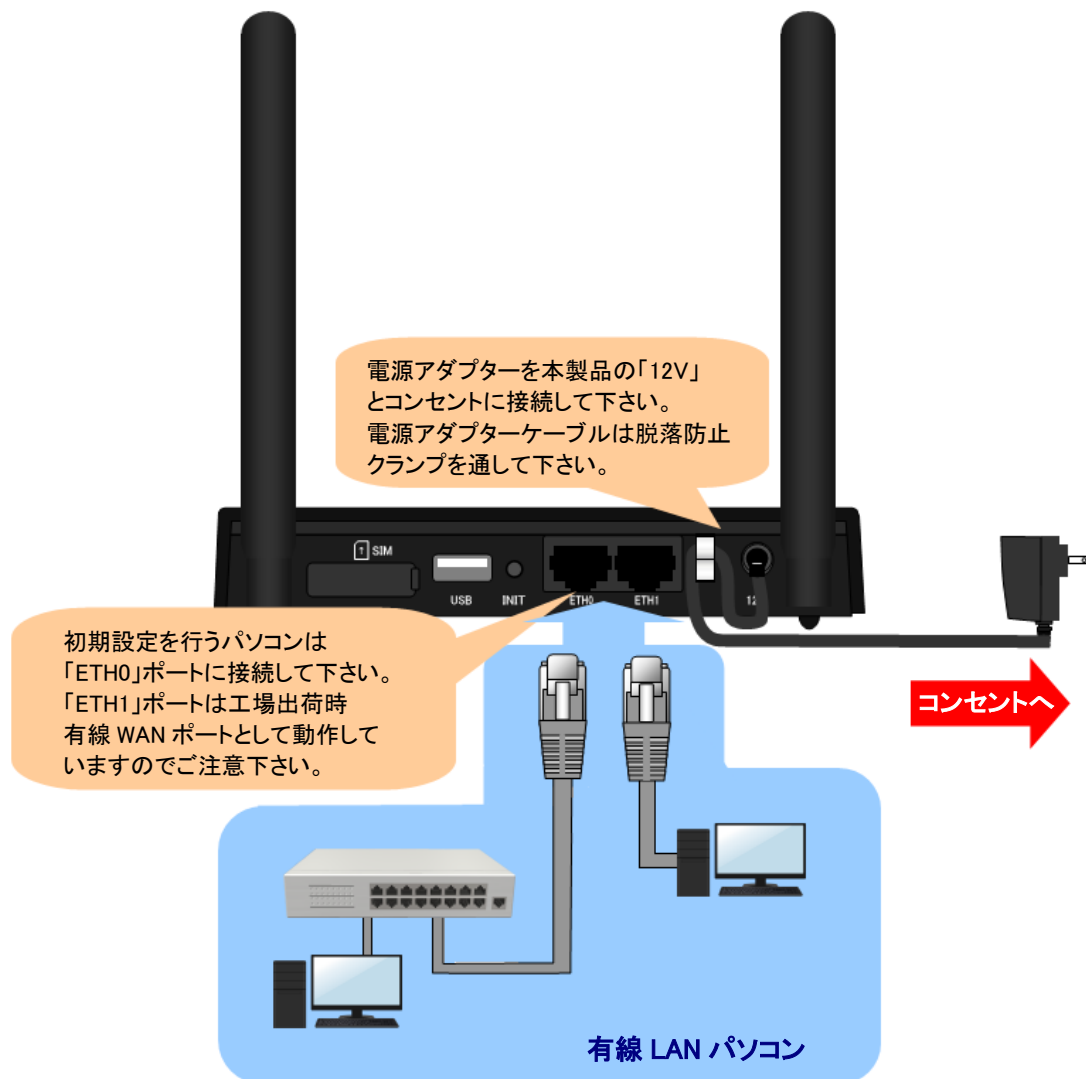


3)ゴムカバーを閉めて下さい。



3.各機器との接続

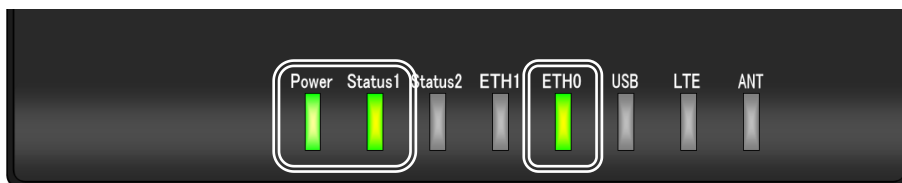
以下のように各機器と接続を行って下さい。



確認	<p>初期設定は必ず「ETH0」ポートに接続したパソコンから行って下さい。 「ETH1」ポートは工場出荷値、有線 WAN ポートとして設定されています。 WAN 側接続モードを「モバイルデータカード(内蔵)」または「モバイルデータカード(USB)」で設定した場合、 ETH1 ポートは有線 LAN ポートとして使用する事ができます。</p>
-----------	--

4.LED の確認

「Power」、「Status1」、「ETH0」の LED が点灯している事を確認して下さい。



以上で各機器との接続は完了です。

2-2.パソコンの設定(次ページ)へ進んで下さい。

2-2.パソコンの設定

パソコンの設定について説明します。

はじめに
ご利用のパソコンにイーサネットボード(ネットワークカード)が正しくセットアップされているか確認して下さい。 確認方法については、各 OS(オペレーティングシステム)のマニュアルやイーサネットボードのマニュアル等を参照して下さい。
各 OS(オペレーティングシステム)の設定画面は、バージョンアップ等により変更となる場合があります。


パソコンの OS(オペレーティングシステム)に応じて、以下を参照して下さい。

- [2-2-1. Windows 10\(本ページ\)](#)
- [2-2-2. Windows 8 / 8.1\(9 ページ\)](#)
- [2-2-3. Windows 7\(12 ページ\)](#)
- [2-2-4. MacOS X\(15 ページ\)](#)

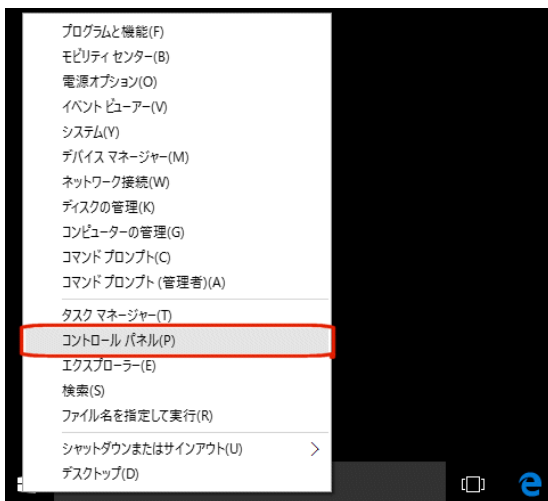
2-2-1.Windows 10

以下の手順で設定を行って下さい。

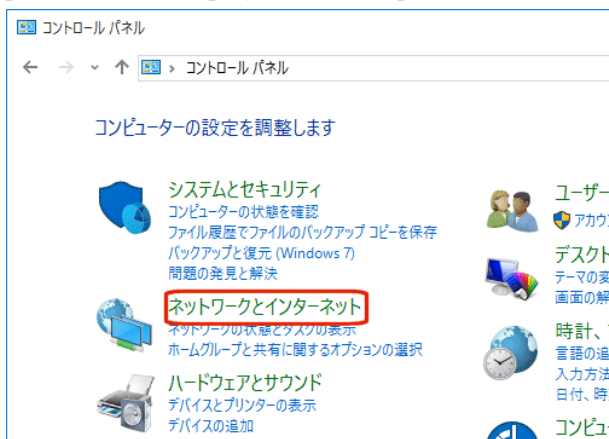
- ① Windows 10 を起動して下さい。

	Administrator(管理者)権限のあるユーザーアカウントでログオンして下さい。
---	---

- ②「デスクトップ」を表示して下さい。
- ③[スタートメニュー]を右クリックして、[コントロールパネル]をクリックして下さい。

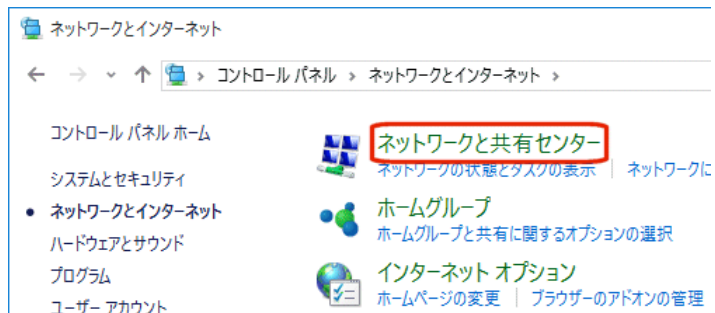


- ④[コントロールパネル]が開きますので、[ネットワークとインターネット]をクリックして下さい。



<次ページへ進んで下さい>

⑤ [ネットワークとインターネット]が開きますので、[ネットワークと共有センター]をクリックして下さい。



⑥ [ネットワークと共有センター]が開きますので、[イーサネット]をクリックして下さい。

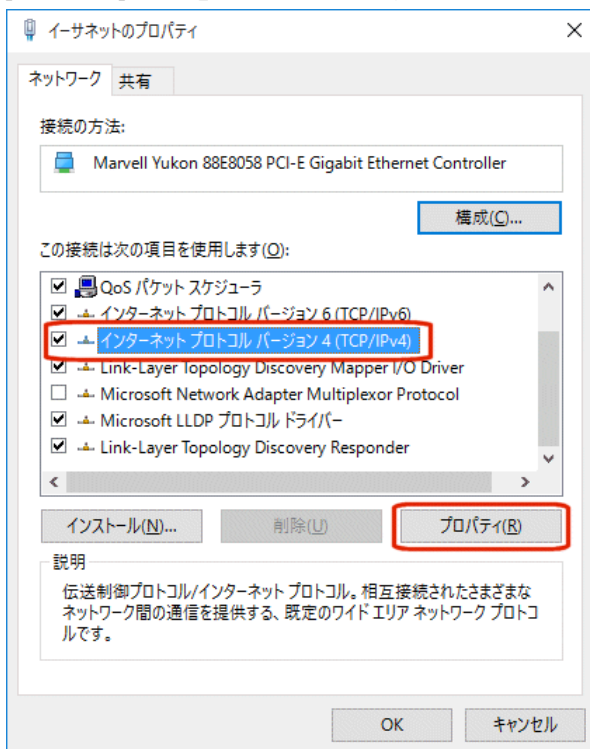


⑦ [イーサネットの状態]が開きますので、[プロパティ]ボタンをクリックして下さい。

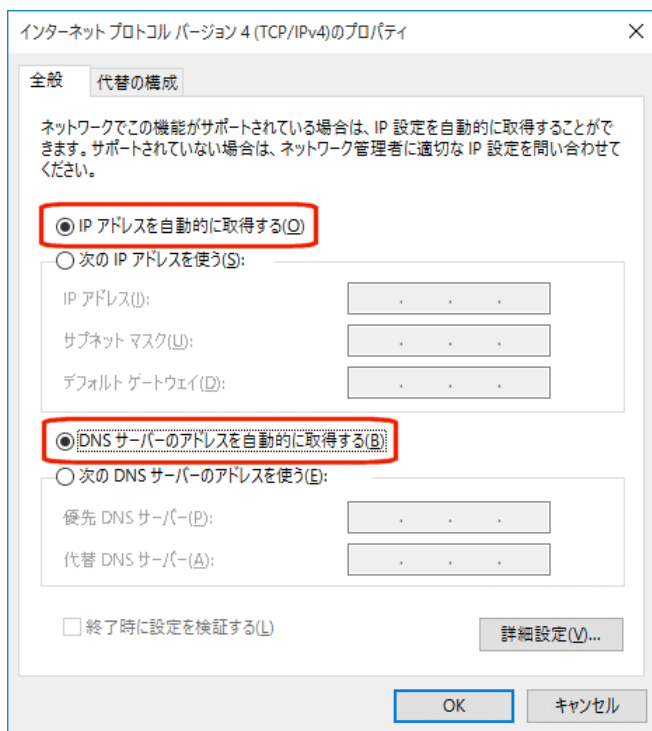


<次ページへ進んで下さい>

- ⑧ [イーサネットのプロパティ]が開きますので、一覧の中の[インターネット プロトコル バージョン 4(TCP/IPv4)]を選択して、[プロパティ]ボタンをクリックして下さい。



- ⑨ [IP アドレスを自動的に取得する]、及び[DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する]を選択して、[OK]ボタンをクリックして下さい。



各画面で[OK]ボタンをクリックして下さい。

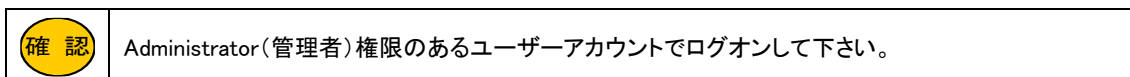
以上で設定は完了です。

「2-3.設定画面へのログオン」(16 ページ)へ進んで下さい。

2-2-2.Windows 8 / 8.1

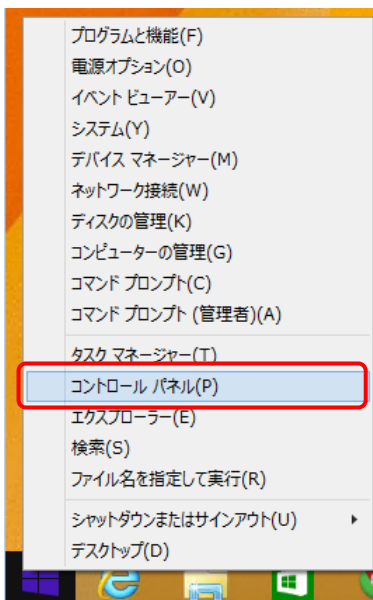
以下の手順で設定を行って下さい。

- ① Windows 8 / 8.1 を起動して下さい。



- ②「デスクトップ」を表示して下さい。

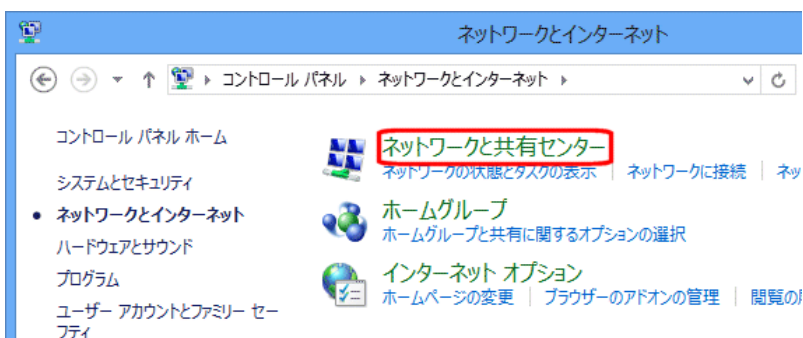
- ③[スタートメニュー]を右クリックして、[コントロールパネル]をクリックして下さい。



- ④[コントロールパネル]が開きますので、[ネットワークとインターネット]をクリックして下さい。

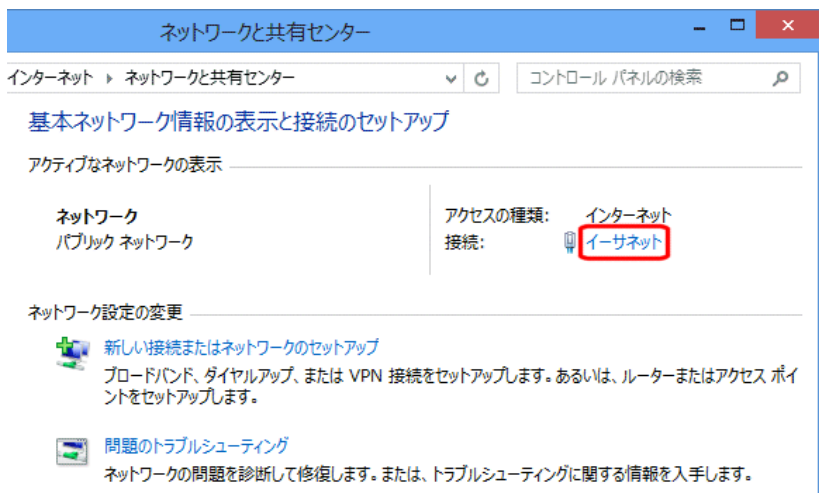


- ⑤[ネットワークとインターネット]が開きますので、[ネットワークと共有センター]をクリックして下さい。

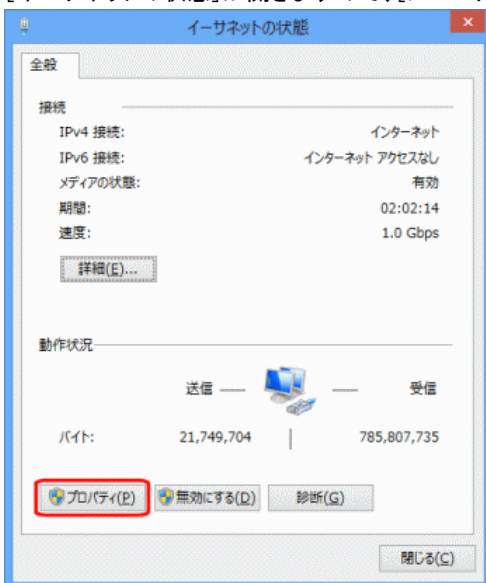


〈次ページへ進んで下さい〉

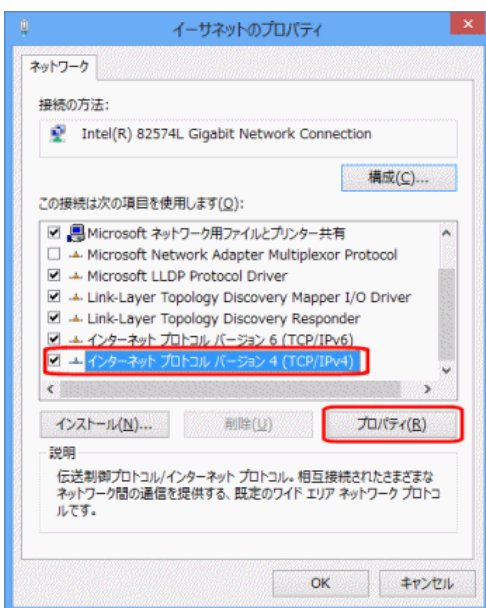
⑥ [ネットワークと共有センター]が開きますので、[イーサネット]をクリックして下さい。



⑦ [イーサネットの状態]が開きますので、[プロパティ]ボタンをクリックして下さい。

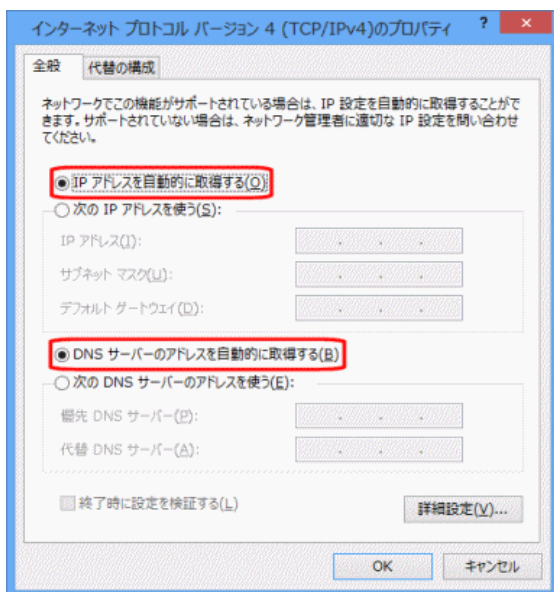


⑧ [イーサネットのプロパティ]が開きますので、一覧の中の [インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)] を選択して、[プロパティ]ボタンをクリックして下さい。



<次ページへ進んで下さい>

- ⑨ [IP アドレスを自動的に取得する]、及び [DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する] を選択して、[OK] ボタンをクリックして下さい。



各画面で [OK] ボタンをクリックして下さい。

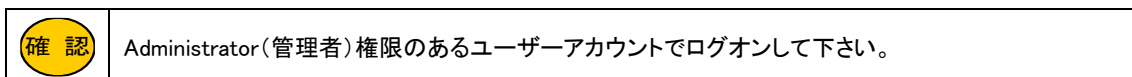
以上で設定は完了です。

「2-3.設定画面へのログオン」(16 ページ)へ進んで下さい。

2-2-3.Windows 7

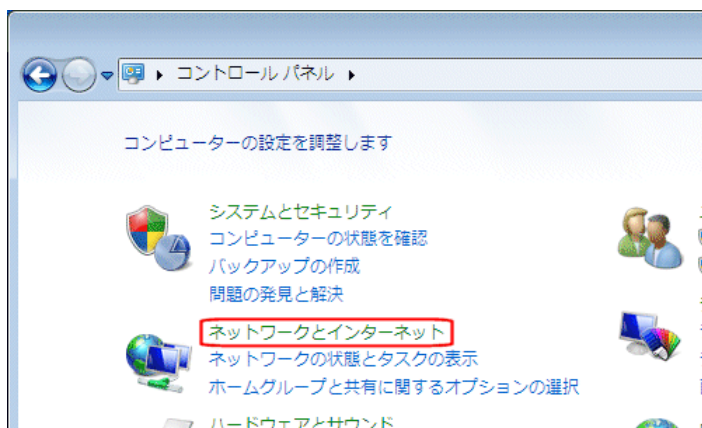
以下の手順で設定を行って下さい。

- ① Windows 7 を起動して下さい。

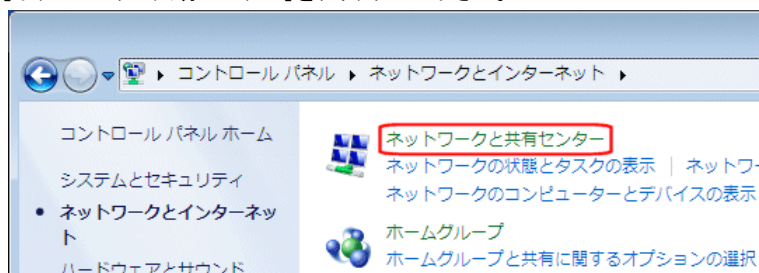


- ② [スタート]→[コントロールパネル]の順番にクリックして下さい。

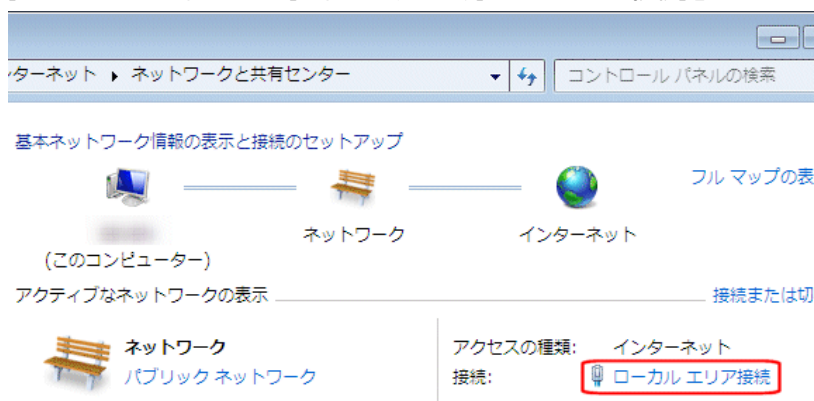
- ③ [コントロールパネル]を開いた後、[ネットワークとインターネット]をクリックして下さい。



- ④ [ネットワークと共有センター]をクリックして下さい。

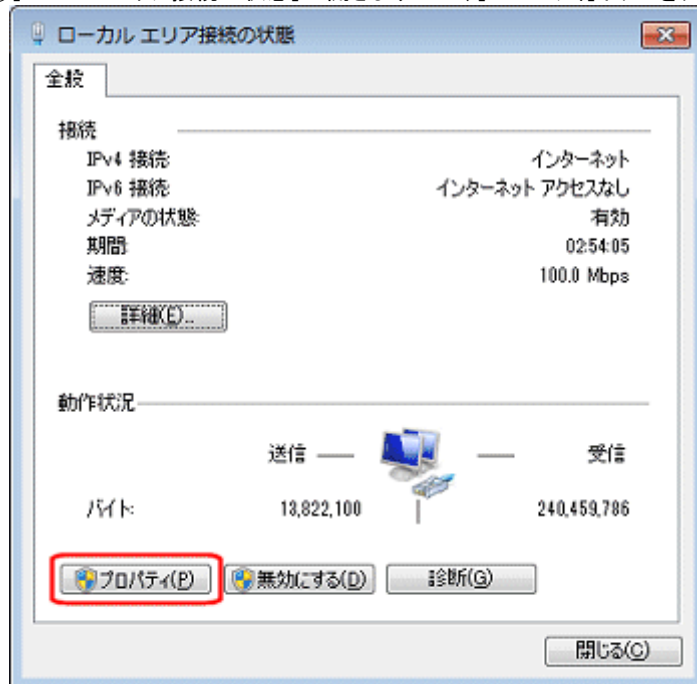


- ⑤ [ネットワークと共有センター]が開きますので、[ローカルエリア接続]をクリックして下さい。

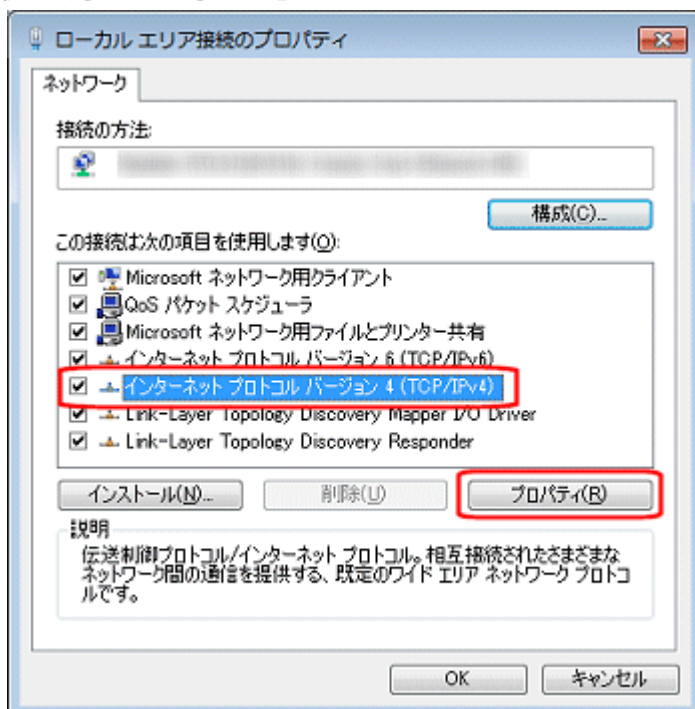


<次ページへ進んで下さい>

⑥ [ローカルエリア接続の状態]が開きますので、[プロパティ]ボタンをクリックして下さい。

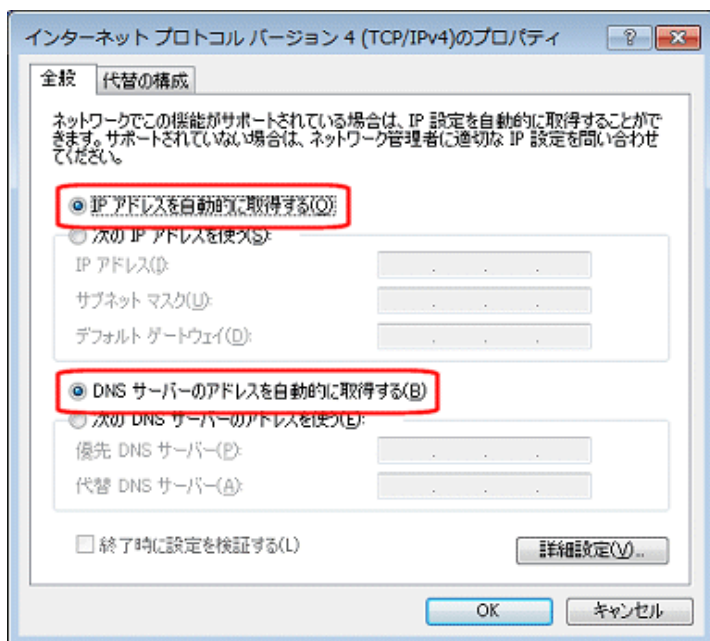


⑦ [ローカルエリア接続のプロパティ]が開きますので、一覧の中の [インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)] を選択して、[プロパティ]ボタンをクリックして下さい。



<次ページへ進んで下さい>

- ⑧ [IP アドレスを自動的に取得する]、及び [DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する] を選択して、[OK] ボタンをクリックして下さい。



各画面で [OK] ボタンをクリックして下さい。

以上で設定は完了です。

「2-3.設定画面へのログオン」(16 ページ)へ進んで下さい。

2-2-4.MacOS X

以下の手順で設定を行って下さい。

- ①Mac OS X を起動して下さい。
- ②[アップルメニュー]から[システム環境設定]を選択して下さい。
- ③[ネットワーク]をダブルクリックして下さい。
- ④[Ethernet]を選択して以下の設定項目を確認して下さい。



■ 構成

「DHCP サーバを使用」を選択して下さい。

■ IP アドレス

「192.168.0.2～192.168.0.30」の範囲内の IP アドレスが表示されていることを確認して下さい。

■ サブネットマスク

「255.255.255.0」になっていることを確認して下さい。

■ ルーター

「192.168.0.1」になっていることを確認して下さい。

■ DNS サーバ

「192.168.0.1」になっていることを確認して下さい。

- ⑤確認が完了したら[適用]ボタンをクリックするか、[×]ボタンで画面を閉じて下さい。

以上で設定は完了です。

「2-3.設定画面へのログオン」(次ページ)へ進んで下さい。

2-3.設定画面へのログオン

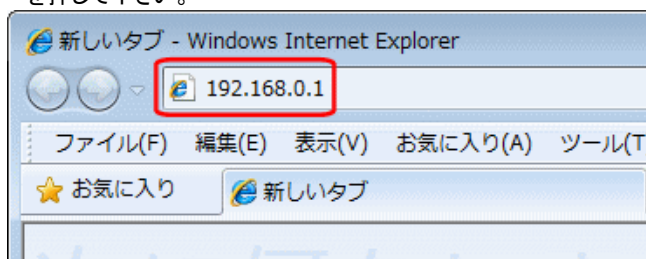
設定画面へのログオン方法について説明します。

- 2-3-1.設定画面へのログオン(本ページ)
- 2-3-2.状態表示(18 ページ)
- 2-3-3.設定画面が開かないとき(21 ページ)

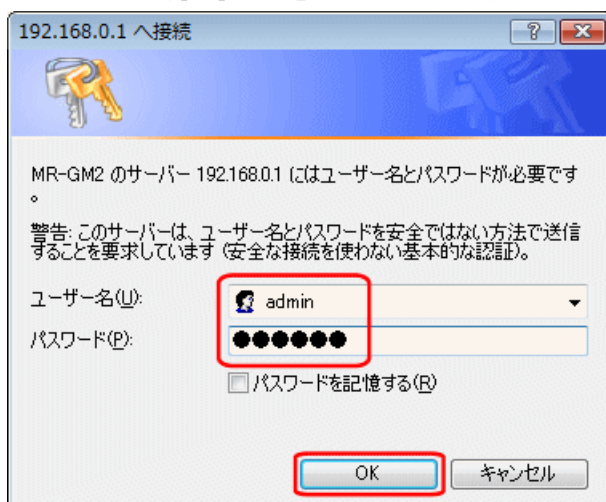
2-3-1.設定画面へのログオン



WWW ブラウザを起動し、設定画面へログオンして下さい。

- ①WWW ブラウザのアドレス入力欄に、本製品の LAN 側 IP アドレス(工場出荷値: 192.168.0.1)を入力して、Enter(Return)キーを押して下さい。



- ②ユーザー認証画面が表示されますので、「ユーザー名」に **admin** (半角英小文字)、「パスワード」に **passwd** (半角英小文字)と入力して、[OK]ボタンをクリックして下さい。



- | | |
|---|--|
|  | 「ユーザー名」と「パスワード」を入力する際、半角大文字と小文字を間違えないよう注意して下さい。
(大文字と小文字を間違えると設定画面にログオンすることができません。) |
|  | 上記のユーザー認証画面が表示されない場合は 2-3-3.設定画面が開かないとき(21 ページ) を参照して下さい。 |

③「状態表示」画面(トップ画面)が表示されます。

Wireless Router for Mobile
MR-GM3 Lite

設定項目
状態表示
簡易設定
ネットワーク設定
ファイアウォール設定
VPN設定
QoS設定
マネージメント
再起動
ログアウト

状態表示

本機の動作状態を表示します。

システム
起動経過時間
ファームウェアバージョン
コンフィグバージョン
ビルド日時
機種
装置名称

以上で設定画面へのログオン完了です。

	「ユーザー名」、「パスワード」を変更する場合は、「7-8.ユーザー・パスワード設定」(100 ページ)を参照して下さい。
--	--

「2-4.簡易設定を行う」(22 ページ) へ進んで下さい。

2-3-2.状態表示

「状態表示」画面(トップ画面)で表示される「状態表示」について説明します。

■システム

システム	
起動経過時間	Oday:0h:1m:12s
ファームウェアバージョン	v1.03.xx(MR001)
コンフィグバージョン	current v19 (default v19)
ビルド日時	Wed Dec 4 14:41:48 JST 2019
システム負荷	0.33 0.14 0.05 1/31
RAM使用量	13012 KB / 114032 KB
ROM使用量	root fs(mtd1): 3925 KB / 10240 KB mnt root(mtd2): 276 KB / 4096 KB
機種	MR-GM3-xx
装置名称	MR-GM3_MRL

起動経過時間	起動してからの経過時間が表示されます。 「##day(日)##h(時)##m(分)##s(秒)」の形式で表示されます。
ファームウェアバージョン	ファームウェアバージョンが表示されます。
コンフィグバージョン	コンフィグバージョンが表示されます。
ビルド日時	ファームウェアがリリースされた日時が表示されます。
システム負荷	システムの負荷状況が表示されます。
RAM 使用量	RAM の使用量が表示されます。
ROM 使用量	ROM の使用量が表示されます。
機種	機種名が表示されます。
装置名称	装置名称(任意設定)を表示します。 装置名称は「7-1.システム設定」(83 ページ)で設定可能です。

■有線 WAN (有線 WAN ポート使用時(工場出荷状態)に表示)

有線 WAN	
接続モード	DHCPクライアント 接続中
IPアドレス	***.***.***.111
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	***.***.***.222
MACアドレス	00:10:38:xx:xx:xx

接続モード	<p>DHCP クライアント 接続中 →DHCP クライアントにより IP アドレスを取得した状態です。</p> <p>DHCP サーバーから IP アドレス取得中 (工場出荷値) →DHCP サーバーから IP アドレスを取得中、または IP アドレスが取得できない状態です。</p> <p>PPPoE 接続中 →PPPoE により回線接続中です。</p> <p>PPPoE 切断状態 →PPPoE 接続が切断中、または PPPoE 接続ができない状態です。</p> <p>IP アドレス固定 接続中 →回線接続中です。</p> <p>IP アドレス固定 切断状態 →WAN ポートがリンクダウンしている状態です。</p>
IP アドレス	WAN ポート(ETH1 ポート)の IP アドレスが表示されます。
サブネットマスク	WAN ポート(ETH1 ポート)のサブネットマスクが表示されます。
デフォルトゲートウェイ	WAN ポート(ETH1 ポート)のデフォルトゲートウェイアドレスが表示されます。
MAC アドレス	WAN ポート(ETH1 ポート)の MAC アドレスが表示されます。

〈次ページへ進んで下さい〉

■モバイルデータカード(内蔵) (内蔵通信モジュール使用時に表示)

モバイルデータカード(内蔵)	
状態	回線接続
IPアドレス	***.***.***.*** 更新
端末識別番号	*****
SIM識別番号	*****
電話番号	080*****
LTE	圏内
電波強度(アンテナ)	4
電波強度(RSSI)	-51dBm
受信電力(RSRP)	-69dBm
受信品質(RSRQ)	-8dB
基地局番号(Cell ID)	90
BAND(ARFCN)	100
位置情報 (スタンドアロンGPS)	
モジュールファームウェアバージョン	11-18
モジュールキャリア選択値	0,2

状態	<p>モジュール起動待ち →内蔵通信モジュールが起動中です。</p> <p>接続処理中 →回線の接続処理中、または回線切断状態です。</p> <p>回線接続 →回線が接続状態です。</p>
IP アドレス	取得したインターネット側 IP アドレスが表示されます。
端末識別番号	内蔵通信モジュールの端末識別番号が表示されます。
SIM 識別番号	SIM カードの識別番号が表示されます。
電話番号	SIM カードの電話番号が表示されます。
LTE	LTE 通信網の圏内・圏外が表示されます。
電波強度(アンテナ)	内蔵通信モジュールのアンテナ状態が表示されます。 数字はアンテナの数(0~4)を表します。
電波強度(RSSI)	電波強度が表示されます。
受信電力(RSRP)	受信電力が表示されます。
受信品質(RSRQ)	受信品質が表示されます。
基地局番号(Cell ID)	基地局番号が表示されます。
BAND(ARFCN)	LTE の周波数帯 (ARFCN frequency) を表示します。
位置情報	GPS 機能が有効の場合に表示します。 位置情報を取得できた場合、経緯度を表示します。 取得できなかった場合「不明」と表示されます。 GPS 機能の設定については、「8.GPS 機能について」(104 ページ)を参照して下さい。
モジュールファームウェアバージョン	内蔵通信モジュールのファームウェアバージョンを表示します。
モジュールキャリア選択値 (MR-GM3L-DK/DKS/M で表示)	内蔵通信モジュールのキャリア選択の設定と動作状態を表示します。 0,1 : 自動判別 NTTドコモ 1,1: 手動設定 NTTドコモ 0,2 : 自動判別 KDDI 1,2: 手動設定 KDDI MNO 0,3 : 自動判別 ソフトバンク 1,3: 手動設定 ソフトバンク 0,4 : 自動判別 その他 1,5: 手動設定 KDDI MVNO 1,6: 手動設定 SoftBank USIM

〈次ページへ進んで下さい〉

■モバイルデータカード(USB) (USB モバイルデータカード使用時に表示)

モバイルデータカード(USB)	
USB状態	回線接続中
IPアドレス	***.***.***.111 更新
電話番号	080*****
電波強度(アンテナ)	4
電波強度(RSSI)	-51dBm

USB 状態	<p>未接続 →USB モバイルデータカードが接続されていない状態です。</p> <p>モバイルデータカード初期化中 →USB モバイルデータカードを初期化中です。</p> <p>回線接続待機中 →回線の接続処理中、または回線切断状態です。</p> <p>回線接続中 →回線が接続状態です。</p>
IP アドレス	取得したインターネット側 IP アドレスが表示されます。
電話番号	SIM カードの電話番号が表示されます。 情報を取得できなかった場合「不明」もしくは「取得失敗」と表示されます。
電波強度(アンテナ)	内蔵通信モジュールのアンテナ状態が表示されます。 数字はアンテナの数(0~4)を表します。 情報を取得できなかった場合「不明」もしくは「取得失敗」と表示されます。
電波強度(RSSI)	電波強度が表示されます。 情報を取得できなかった場合「不明」もしくは「取得失敗」と表示されます。

■有線 LAN

有線LAN	
IPアドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
DHCPサーバー	有効
MACアドレス	00:10:38:xx:xx:xx

IP アドレス	本製品の IP アドレスが表示されます。
サブネットマスク	本製品のサブネットマスクが表示されます。
DHCP サーバー	DHCP サーバー機能の動作状況(有効/無効)が表示されます。
MAC アドレス	本製品の有線 LAN(ETH0 ポート) MAC アドレスが表示されます。

2-3-3.設定画面が開かないとき

設定画面が開けない場合、以下の内容を確認して下さい。

●**パソコンとETH0ポートが正しく接続されていますか？**

ETH0のLEDが点灯している事を確認して下さい。

工場出荷時、ETH1ポートはWANポートとして動作しているため、ETH1ポートから設定画面は開けません。

初期設定は必ずETH0ポートから行って下さい。

●**本製品に付属の電源アダプターを接続していますか？**

他製品の電源アダプター等を接続した場合、本製品は正しく動作しません。

必ず本製品に付属の電源アダプターを接続して下さい。

●**パソコンのイーサネットポートは正常に動作していますか？**

パソコン、またはイーサネットボードのマニュアルを参照し、正常に動作していることを確認して下さい。

●**パソコンにネットワークアダプターが複数セットアップされていませんか？**

パソコンにネットワークアダプターが複数セットアップされている場合は、MR-GM3Lに接続していないネットワークアダプターを一時的に無効(未使用)にして下さい。

●**WWWブラウザが「プロキシサーバーを使用する」設定になっていませんか？**

本製品の設定を行う際は、WWWブラウザを「プロキシサーバーを使用しない」設定にする必要があります。

WWWブラウザを「プロキシサーバーを使用しない」設定にして下さい。

●**ファイアウォール・セキュリティ対策ソフトウェア等が起動・常駐していませんか？**

本製品の設定を行うパソコンにファイアウォール・セキュリティ対策ソフトウェアが起動・常駐している場合、本製品の設定を始める前に一時的に「終了」するか「無効」にして下さい。

ソフトウェアの操作方法(終了・無効にする方法、ファイアウォール機能を停止する方法等)については、ソフトウェアのマニュアルを参照して下さい。

●**WWWブラウザのキャッシュを削除してみてください。**

以下、Internet Explorer11でキャッシュを削除する例です。

1.Internet Explorerの[ツール]メニューから[インターネットオプション]をクリックして下さい。

2.「閲覧の履歴」欄にある[削除]ボタンをクリックして下さい。

3.「インターネット一時ファイルおよびWEBサイトのファイル」にのみチェックを入れ、他のチェックは外して下さい。

4.[削除]ボタンをクリックして下さい。

5.「Internet Explorerは選択された閲覧の履歴の削除を完了しました」とメッセージが表示されましたら削除は完了です。

6.[OK]ボタンをクリックして「インターネットオプション」画面を閉じて下さい。

7.Internet Explorerを再起動し、再度設定画面にログオンできるか確認して下さい。

●**Internet Explorerを使用している場合、Internet Explorerの設定の“セキュリティ”や“詳細設定”を、「既定値」に戻してみてください。**

1.Internet Explorerを起動した後、「ツール」メニューから「インターネット オプション」をクリックして下さい。

2.「セキュリティ」のタブをクリックして下さい。

3.画面右下の「既定のレベル」ボタンをクリックして下さい。(“セキュリティ”の設定内容が既定値に戻ります。)

4.「詳細設定」のタブをクリックして下さい。

5.「詳細設定を復元」ボタンをクリックして下さい。(“詳細設定”の設定内容が既定値に戻ります。)

6.「適用」ボタンをクリックした後、「OK」ボタンをクリックして下さい。

7.Internet Explorerを再起動し、再度設定画面にログオンできるか確認して下さい。

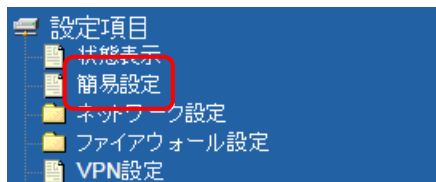
2-4.簡易設定を行う



簡易設定では、プライマリ接続モードのみ設定可能です。
回線冗長化機能を使用する場合は、「3-3.回線冗長化機能を使用する」(43 ページ)を参照して下さい。

以下の手順で簡易設定を行って下さい。

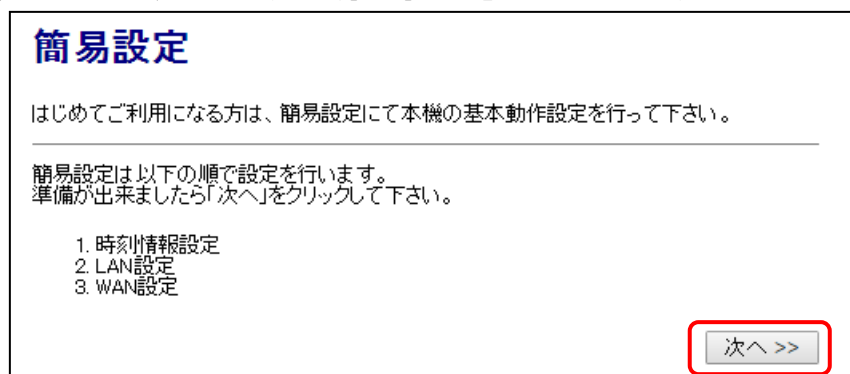
①設定画面のメニューの[簡易設定]をクリックして下さい。



状態表示

本機の動作状態を表示します。

②以下の画面が表示されますので、[次へ]ボタンをクリックして下さい。



③NTP クライアント(時刻情報取得)機能を使用する場合、「NTP クライアント機能を有効にする」にチェックを入れ、NTP サーバーを選択して下さい。



選択メニュー以外の NTP サーバーを使用する場合は、「マネージメント」→「時刻情報・タイマー再起動設定」画面で設定を行って下さい。
詳しくは「7-2.時刻情報・タイマー再起動設定」(84 ページ)を参照して下さい。

設定が完了しましたら、[次へ]ボタンをクリックして下さい。

<次ページへ進んで下さい>

④LAN 設定を行って下さい。

LAN設定

LAN側IPアドレス、サブネットマスク等の設定を行います。

IPアドレス

サブネットマスク

DHCPサーバー設定

DHCPサーバー

付与IPアドレス範囲

先頭	<input type="text" value="192.168.0.2"/>
終了	<input type="text" value="192.168.0.30"/>

■IP アドレス

→本製品の LAN 側 IP アドレスを設定します。
工場出荷状態では「192.168.0.1」が設定されています。

■サブネットマスク


→本製品のサブネットマスクを設定します。
工場出荷状態では「255.255.255.0」が設定されています。

■DHCP サーバー

→DHCP サーバー機能の有効/無効を設定します。
有効:DHCP サーバー機能を使用します。
LAN 内のパソコンに TCP/IP 設定を自動的に割り当てます。
無効:DHCP サーバー機能を使用しません。
工場出荷状態では「有効」に設定されています。

■付与 IP アドレス範囲

→DHCP サーバー機能を有効にした場合の付与 IP アドレス範囲を設定します。
先頭:付与 IP アドレス範囲の最初の IP アドレスを設定します。
終了:付与 IP アドレス範囲の最後の IP アドレスを設定します。
工場出荷状態では「192.168.0.2～192.168.0.30」の範囲が設定されています。

	最大 253 個まで付与することができます。
---	------------------------

設定が終わりましたら、[次へ]ボタンをクリックして下さい。

<次ページへ進んで下さい>

⑤WAN 設定を行って下さい。

●**内蔵通信モジュールを使用する**

→本ページを参照して下さい。

●**USB タイプのモバイルデータカードを使用する**

→25 ページを参照して下さい。

●**有線 WAN ポートを使用する(IP アドレス固定接続)**

→26 ページを参照して下さい。


●**有線 WAN ポートを使用する(DHCP クライント接続)**

→27 ページを参照して下さい。

●**有線 WAN ポートを使用する(PPPoE クライント接続)**

→28 ページを参照して下さい

●**内蔵通信モジュールを使用する**

	プロバイダとの契約資料をご用意下さい。
---	---------------------

WAN設定

WAN側（ETH1またはUSB）接続モードの設定を行います。
プロバイダ、回線事業者との契約内容などを確認の上、設定を行って下さい。

WAN側接続モード

接続先

ユーザー名

パスワード

APN

CID

発信先電話番号

■**WAN 側接続モード**

→「**モバイルデータカード(内蔵)**」を選択して下さい。

■**接続先**

→利用する契約プラン名を選択して下さい。


契約プランを選択すると、ユーザー名、パスワード、APN、CID、発信先電話番号が自動的に設定されます。

任意のユーザー名、パスワード、APN、電話番号を設定する場合は「その他」を選択して下さい。

■**ユーザー名、パスワード、APN、CID、発信先電話番号**

→接続先で契約プランを選択すると、ユーザー名、パスワード、APN、CID、発信先電話番号が自動的に設定されます。

接続先で「その他」を選択すると、任意の値が設定できます。

	接続情報に関する最新情報は以下のサイトをご参照下さい。 GM3 シリーズ内蔵通信モジュール設定情報 https://www.mrl.co.jp/product/gm3/gm_series_sim.html
---	--

設定が完了しましたら、[完了]ボタンをクリックして下さい。

「カウントダウン」画面が表示されますので、画面が切り替わるまでお待ちください。

「状態表示」画面(トップ画面)に戻りましたら、簡易設定は完了です。

「LTE」ランプが点灯状態に変わりましたら、インターネット接続が可能な事を確認して下さい。

●USB タイプのモバイルデータカードを使用する

確認

プロバイダとの契約資料をご用意下さい。

WAN設定

WAN側（ETH1またはUSB）接続モードの設定を行います。
プロバイダ、回線事業者との契約内容などを確認の上、設定を行って下さい。

WAN側接続モード	モバイルデータカード(USB) ▾
接続先	ソフトバンク 法人データ通信プランフラット(4G) ▾
ユーザー名	biz4g
パスワード	●●●●
APN	bizflat4g.softbank
CID	1 ▾
発信先電話番号	*99#
PDPタイプ	IP ▾

キャンセル << 戻る 次へ >>

■WAN 側接続モード

→「**モバイルデータカード(USB)**」を選択して下さい。

■接続先

→利用する契約プラン名を選択して下さい。

契約プランを選択すると、ユーザー名、パスワード、APN、電話番号が自動的に設定されます。
任意のユーザー名、パスワード、APN、電話番号を設定する場合は「その他」を選択して下さい。

■ユーザー名、パスワード、APN、発信先電話番号

→接続先で契約プランを選択すると、ユーザー名、パスワード、APN、発信先電話番号が自動的に設定されます。
接続先で「その他」を選択すると、任意の値が設定できます。

■CID

→プロバイダから CID を指定されている場合は変更して下さい。
特に指定が無い場合は「1」のままご利用下さい。

確認

モバイルデータカードに登録済の CID 番号を選択した場合、登録済の CID 番号に APN 設定、PDP タイプ設定が上書きされます。

■PDP タイプ

→回線事業者、または契約プロバイダから指定された PDP タイプを選択して下さい。
通常は、「IP」のままご利用下さい。

設定が完了しましたら、[完了]ボタンをクリックして下さい。
「カウントダウン」画面が表示されますので、画面が切り替わるまでお待ちください。
「状態表示」画面(トップ画面)に戻りましたら、簡易設定は完了です。

本製品の USB ポートに USB モバイルデータカードを接続して下さい。

「USB」ランプが点灯状態に変わりましたら、インターネット接続が可能な事を確認して下さい。

●有線 WAN ポートを使用する(IP アドレス固定接続)

WAN設定

WAN側(ETH1またはUSB)接続モードの設定を行います。
プロバイダ、回線事業者との契約内容などを確認の上、設定を行って下さい。

WAN側接続モード	IPアドレス固定 ▼
IPアドレス	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.254
DNS	192.168.1.254

■WAN 側接続モード

→「**IP アドレス固定**」を選択して下さい。

■IP アドレス

→WAN ポートに固定する IP アドレスを入力して下さい。

■サブネットマスク

→WAN 側ネットワークのサブネットマスクを入力して下さい。

■デフォルトゲートウェイ

→WAN 側ネットワークのデフォルトゲートウェイを入力して下さい。

■DNS

→WAN 側ネットワークの DNS サーバーIP アドレスを入力して下さい。

設定が完了しましたら、[完了]ボタンをクリックして下さい。

「カウントダウン」画面が表示されますので、画面が切り替わるまでお待ちください。

「状態表示」画面(トップ画面)に戻りましたら、簡易設定は完了です。

本製品の ETH1 ポートに WAN 側回線を接続して、インターネット接続が可能な事を確認して下さい。

●有線 WAN ポートを使用する(DHCP クライアント接続)

WAN設定

WAN側(ETH1またはUSB)接続モードの設定を行います。
プロバイダ、回線事業者との契約内容などを確認の上、設定を行って下さい。

WAN側接続モード

■WAN 側接続モード

→「**DHCP クライアント**」を選択して下さい。

設定が完了しましたら、[完了]ボタンをクリックして下さい。

「カウントダウン」画面が表示されますので、画面が切り替わるまでお待ちください。

「状態表示」画面(トップ画面)に戻りましたら、簡易設定は完了です。

本製品の ETH1 ポートに WAN 側回線を接続して、インターネット接続が可能な事を確認して下さい。

●有線 WAN ポートを使用する(PPPoEクライアント接続)

確認

プロバイダとの契約資料をご用意下さい。

WAN設定

WAN側(ETH1またはUSB)接続モードの設定を行います。
プロバイダ、回線事業者との契約内容などを確認の上、設定を行って下さい。

WAN側接続モード	PPPoEクライアント ▼
ユーザー名	<input type="text"/>
パスワード	<input type="text"/>

■WAN 側接続モード

→「**PPPoE クライアント**」を選択して下さい。

■ユーザー名

→契約資料を参照して「認証 ID(ユーザー名)」を入力して下さい。

■パスワード

→契約資料を参照して「認証パスワード」を入力して下さい。

設定が完了しましたら、[完了]ボタンをクリックして下さい。
「カウントダウン」画面が表示されますので、画面が切り替わるまでお待ちください。
「状態表示」画面(トップ画面)に戻りましたら、簡易設定は完了です。

本製品の ETH1 ポートに WAN 側回線を接続して、インターネット接続が可能な事を確認して下さい。

3.ネットワーク設定

本製品の LAN 側ネットワークの設定、WAN 側ネットワーク設定、スタティックルーティング設定、簡易 DNS 設定について説明します。

3-1.LAN 設定

本製品の IP アドレス、DHCP サーバー設定について説明します。
設定メニューの「ネットワーク設定」より「LAN 設定」をクリックして下さい。



Wireless Router for Mobile
MR-GM3

設定項目
状態表示
簡易設定
動作モード設定
無線LAN設定
ネットワーク設定
LAN設定
WAN設定
スタティックルーティング設定
ファイアウォール設定

LAN設定

本機のLAN側IPアドレス、サブネットマスク

「LAN 設定」画面が開きます。



LAN設定

本機のLAN側IPアドレス、サブネットマスク、DHCPサーバーの設定を行います。

本機のLAN側IPアドレス

サブネットマスク

DHCPサーバー設定

DHCPサーバー

付与IPアドレス範囲
先頭 終了

リース期限 時 分 (1分 - 168時間)

ドメイン名



注意

本製品の IP アドレス(工場出荷値: 192.168.0.1)を変更する場合、他のパソコン、ルーター等と IP アドレスが衝突しないように注意して下さい。
万が一、他のパソコン等と本製品の IP アドレスが衝突してしまった場合、本製品の設定画面が開けない、他のネットワーク機器に障害が発生する等、さまざまなトラブルの原因となりますので注意して下さい。

■本機の LAN 側 IP アドレス

本製品の LAN 側 IP アドレスを設定します。
工場出荷状態では「192.168.0.1」が設定されています。

■サブネットマスク

本製品のサブネットマスクを設定します。
工場出荷状態では「255.255.255.0」が設定されています。

<次ページへ進んで下さい>

■DHCP サーバー設定

●DHCP サーバー

DHCP サーバー機能の有効/無効を設定します。

●付与 IP アドレス範囲

DHCP サーバー機能を有効にした場合の付与 IP アドレス範囲を設定します。
工場出荷状態では「192.168.0.2～192.168.0.30」の範囲が設定されています。

確認 最大 253 個まで付与することができます。

●クライアント表示(ボタン)

DHCP サーバーから IP アドレスを取得しているクライアントの情報(別ウィンドウ)を表示します。

接続中のDHCPクライアント		
IPアドレス	MACアドレス	制限時間(秒)
192.168.0.2	00-10-38:xx:xx:xx	860942
192.168.0.3	00-10-38:yy:yy:yy	800171

再読み込み 閉じる

●固定 IP アドレス付与設定(ボタン)

固定 IP アドレス付与設定画面が開きます。

MAC(物理)アドレスにより、固定の IP アドレスを付与します。

DHCPサーバー 固定IPアドレス付与設定

本機のDHCPサーバーが、特定の端末に対して「常に同じIPアドレス」を付与するための設定を行います。

DHCPサーバー 固定IPアドレス付与を有効にする

IPアドレス: 192.168.0.100
MACアドレス: 001038111111
コメント: Camera1

リストへ登録・設定保存

DHCPサーバー 固定IPアドレス付与リスト

IPアドレス	MACアドレス	コメント	選択
192.168.0.100	00-10-38-11-11-11	Camera1	<input type="checkbox"/>

選択したエントリを削除 全て削除

固定 IP アドレス付与設定を行う場合は、以下の手順で行って下さい。

1. 「DHCP サーバー 固定 IP アドレス付与を有効にする」にチェックを入れて下さい。
2. 「IP アドレス」、「MAC アドレス」、「コメント」を入力して下さい。
「MAC アドレス」は「:」(コロン)無しで入力して下さい。
3. [リストへ登録・設定保存]ボタンをクリックして下さい。
4. 「設定は正常に保存されました。変更を動作に反映させるためには、本機を再起動する必要があります。」と表示されます。
すぐに 設定を反映させる場合は[今すぐ再起動]ボタンを、引き続き設定を行う場合は[後で再起動]ボタンをクリックして下さい。
5. 「DHCP サーバー 固定 IP アドレス付与リスト」に入力した内容が登録されます。

確認 固定 IP アドレス付与設定で割り当てる IP アドレスは、DHCP サーバー機能で付与する IP アドレスの範囲内の IP アドレスを設定して下さい。
固定 IP アドレス付与リストは最大 64 個まで登録可能です。

<次ページへ進んで下さい>

●リース期限

付与する IP アドレスのリース期限(時間)を設定します。
工場出荷状態では「8 時間」が設定されています。

●ドメイン名

DHCP サーバー機能で割り当てるドメイン名を設定します。
工場出荷状態では空欄です。
通常は空欄のままお使い下さい。

全ての設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

以下の画面が表示されますので、すぐに設定を反映させる場合は[今すぐ再起動]ボタンを、引き続き設定を行う場合は[後で再起動]ボタンをクリックして下さい。

設定は正常に保存されました。

変更を動作に反映させるためには、プロセスを再起動する必要があります。

今すぐ再起動を行いますか？

他の設定を行った後、再起動を行いますか？

今すぐ再起動

後で再起動

確認

「本機の LAN 側 IP アドレス」を変更して「設定保存」ボタンをクリックした場合は、上記メッセージが表示されずに即再起動を行います。

3-2.WAN 設定（回線冗長化機能を使用しない）

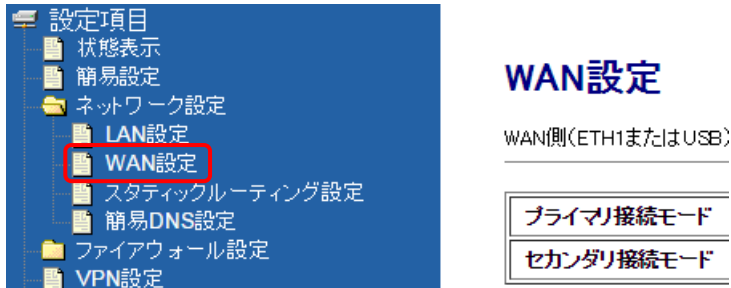
WAN 設定について説明します。



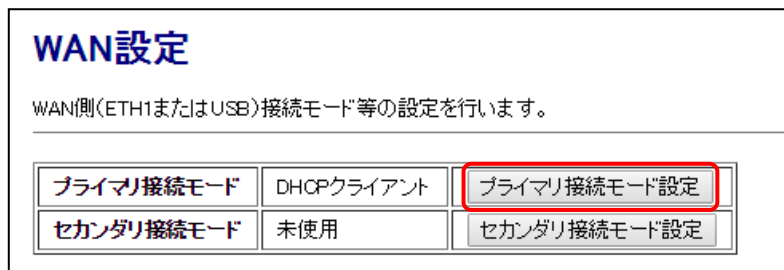
本項目では、回線冗長化機能を使用しない(プライマリ接続モードのみ使用する)場合の設定を説明していません。回線冗長化機能を使用する場合は、「3-3.回線冗長化機能を使用する」(43 ページ)を参照して下さい。

設定メニューの「ネットワーク設定」より「WAN 設定」をクリックして下さい。

「WAN 設定」画面が開きます。



「プライマリ接続モード設定」ボタンをクリックして下さい。



目的に応じて以下の設定を行って下さい。

- 内蔵通信モジュールを使用する場合
→「3-2-1.モバイルデータカード(内蔵)」(次ページ)を参照して下さい。
- USB モバイルデータカードを使用する場合
→「3-2-2.モバイルデータカード(USB)」(36 ページ)を参照して下さい。
- 有線 WAN ポートを IP アドレス固定で使用する場合
→「3-2-3.IP アドレス固定(有線 WAN)」(38 ページ)を参照して下さい。
- 有線 WAN ポートを DHCP クライアントで使用する場合
→「3-2-4.DHCP クライアント(有線 WAN)」(39 ページ)を参照して下さい。
- 有線 WAN ポートを PPPoE クライアントで使用する場合
→「3-2-5.PPPoE クライアント(有線 WAN)」(40 ページ)を参照して下さい。

3-2-1.モバイルデータカード(内蔵)

内蔵通信モジュールを使用する場合の設定について説明します。

確認 プロバイダとの契約資料をご用意下さい。

WAN 側接続モードで「**モバイルデータカード(内蔵)**」を選択し、以下の各設定を行って下さい。

WAN側接続モード	モバイルデータカード(内蔵) ▼
接続先	▼
CDCタイプ	モデム ▼
キャリア選択	自動判別 ▼
回線選択	自動判別 ▼
ユーザー名	▼
パスワード	▼
APN	▼
CID	1 ▼
発信先電話番号	*99***1#
PDPタイプ	IP ▼
接続モード	常時接続 ▼
無通信監視時間	5 (1~1000分)
MTUサイズ	1490 (128~1492/バイト)
DNS	自動取得 ▼
プライマリDNS	▼
セカンダリDNS	▼
PPP認証方式	CHAP or PAP ▼
PPP接続待ち時間	0 時 0 分 40 秒 (0~16時間) ※1
PPP接続リトライ	5 (0~9回) ※2
<input type="checkbox"/> 追加ATコマンドを使用する	
追加ATコマンド	▼ ※3
位置情報取得	行わない ▼
位置情報取得間隔	0 (0~1440分) ※4
<input type="checkbox"/> 内蔵モジュールから時刻取得を行う	
電波強度取得間隔	60 (0~3600秒) ※5
電波強度不足検出回数	3 (1~100回)
電波強度ログ出力間隔	60 (1~3600回) ※6

■接続先

利用する契約プラン名を選択して下さい。

契約プランを選択すると、キャリア選択、ユーザー名、パスワード、APN、CID、発信先電話番号が自動的に設定されます。任意のユーザー名、パスワード、APN、発信先電話番号を設定する場合は「その他」を選択して下さい。

■CDC タイプ

「モデム」を選択して下さい。

■キャリア選択 (MR-GM3L-DK/MR-GM3L-DKS/MR-GM3L-M で表示されます)

通常は「自動判別」のままご利用下さい。

KDDI 系 MVNO SIM を利用する場合は、「KDDI MVNO」を選択して下さい。


ソフトバンク USIM を利用する場合は、「SoftBank USIM」を選択して下さい。

確認 キャリア選択を変更した場合、初回起動時のみ起動完了まで約 5 分程度かかります。

〈次ページへ進んで下さい〉


■回線選択

LTE/3G 固定接続の切り替えが可能です。
通常は「自動判別」のままご利用下さい。

 確認	MR-GM3L-D/ MR-GM3L-S/ MR-GM3L-M のみ 3G 固定接続が可能です。
--	--

■ユーザー名、パスワード、APN、CID、発信先電話番号

接続先で契約プランを選択すると、ユーザー名、パスワード、APN、CID、発信先電話番号が自動的に設定されます。
接続先で「その他」を選択すると、任意の値が設定できます。

 確認	接続情報に関する最新情報は以下のサイトをご参照下さい。 GM3 シリーズ内蔵通信モジュール設定情報 https://www.mrl.co.jp/product/gm3/gm_series_sim.html
--	---


■PDP タイプ


回線事業者、または契約プロバイダから指定された PDP タイプを選択して下さい。
通常は、「IP」のままご利用下さい。

■接続モード

接続モードを選択して下さい。

- ・常時接続
→常に回線接続状態になります。
- ・自動接続・切断
→インターネットへの接続要求を検出し回線の自動接続を行います。
無通信監視時間で設定した時間、無通信状態が続くと自動切断します。

 確認	「接続モード」を「常時接続」で設定した場合でも、契約プロバイダによっては一定時間でプロバイダ側から回線を切断される場合がありますのでご注意ください。
	「接続モード」を「常時接続」で設定した場合、回線が切断されると自動再接続を行います。

 注意	通信キャリアとの契約が定額制以外の場合、通信量等に応じて課金が発生するため、通信料が高額になる恐れがあります。くれぐれもご注意ください。
--	--

■無通信監視時間

接続モードで「自動接続・切断」を選択した場合に設定可能です。
ここで設定した時間、無通信状態が続くと自動切断します。

■MTU サイズ

MTU (Maximum Transmission Unit) サイズを変更する場合、MTU サイズを入力して下さい。
通常は初期値「1490」のままご利用下さい。

■DNS

DNS サーバーIP アドレスを自動取得する場合「自動取得」を選択して下さい。
DNS サーバーIP アドレスを設定する場合「手動設定」を選択してプライマリ DNS、セカンダリ DNS に DNS サーバー IP アドレスを入力して下さい。
DNS サーバーを使用しない場合「未使用」を選択して下さい。

■PPP 認証方式

PPP 認証方式を設定します。「PAP」認証、「CHAP」認証の固定設定が可能です。
通常は初期値「CHAP or PAP」のままご利用下さい。

■PPP 接続待ち時間

ここで設定した時間内に応答が無い場合、PPP の再接続を行います。
通常は初期値「40 秒」のままご利用下さい。

■PPP 接続リトライ

ここで設定した回数連続して失敗した場合、内蔵通信モジュールの電源を OFF/ON します。
通常は初期値「5 回」のままご利用下さい。

■追加 AT コマンドを使用する

追加 AT コマンドを使用する場合、「追加 AT コマンドを使用する」チェックを入れ、AT コマンドを入力して下さい。
複数の AT コマンドを設定する場合「\n」もしくは「¥n」で区切って入力して下さい。

■位置情報取得

GPS 機能の設定です。GPS 機能については「8.GPS 機能について」(104 ページ)を参照して下さい。

<次ページへ進んで下さい>

■ **内蔵モジュールから時刻取得を行う**

内蔵通信モジュールから時刻情報を取得します。

■ **電波強度取得間隔**

ここで設定した間隔で電波強度を取得します。

■ **電波強度不足検出回数**

ここで設定した回数連続で電波強度不足 (Signal Quality 0) を検出すると再接続を行います。

■ **電波強度ログ出力間隔**

ここで設定した回数電波強度を取得するとログに出力します。

設定が終わりましたら、[設定保存] ボタンをクリックして下さい。

「3-2-6.WAN 共通設定」(41 ページ)へ進んで下さい。

3-2-2.モバイルデータカード(USB)

USB モバイルデータカードを使用する場合の設定について説明します。

WAN 側接続モードで「**モバイルデータカード(USB)**」を選択し、以下の各設定を行って下さい。

WAN側接続モード	モバイルデータカード(USB) ▼
接続デバイス名指定	未指定 ▼
接続先	▼
CDCタイプ	モデム ▼
キャリア選択	自動判別 ▼
ユーザー名	▼
パスワード	▼
APN	▼
CID	1 ▼
発信先電話番号	*99***1#
PDPタイプ	IP ▼
接続モード	常時接続 ▼
無通信監視時間	5 (1~1000分)
MTUサイズ	1490 (128~1490バイト)
DNS	自動取得 ▼
プライマリDNS	▼
セカンダリDNS	▼
PPP接続待ち時間	0 時 2 分 0 秒 (0~16時間) ※1
PPP接続リトライ	5 (0~9回) ※2
USBデータカード起動待ち時間	0 時 0 分 0 秒 (0~16時間) ※3
USBデータカード電源OFF時間	5 (1~60秒)
USBデータカード切替待ち時間	0 (0~60秒)
<input type="checkbox"/> 追加ATコマンドを使用する	
追加ATコマンド	▼ ※4

■接続デバイス名指定

「未指定」のままご利用下さい。

■接続先

利用する契約プランを選択して下さい。

契約プランを選択すると、ユーザー名、パスワード、APN、電話番号が自動的に設定されます。

任意のユーザー名、パスワード、APN、電話番号を設定する場合は「その他」を選択して下さい。

■CDC タイプ

「モデム」を選択して下さい。

■キャリア選択

通常は「自動判別」のままご利用下さい。

■ユーザー名、パスワード、APN

接続先で契約プランを選択すると、自動的に設定されます。

接続先で「その他」を選択すると、任意の値が設定できます。

■CID

プロバイダから CID を指定されている場合は変更して下さい。

特に指定が無い場合は「1」のままご利用下さい。

■発信先電話番号

接続先で契約プランを選択すると、発信先電話番号が自動的に設定されます。

接続先で「その他」を選択すると、任意の値が設定できます。

■PDP タイプ

回線事業者、または契約プロバイダから指定された PDP タイプを選択して下さい。


通常は、「IP」のままご利用下さい。


〈次ページへ進んで下さい〉

■接続モード

接続モードを選択して下さい。

- ・常時接続
→常に回線接続状態になります。
- ・自動接続・切断
→インターネットへの接続要求を検出し回線の自動接続を行います。
無通信監視時間で設定した時間、無通信状態が続くと自動切断します。

	「接続モード」を「常時接続」で設定した場合でも、契約プロバイダによっては一定時間でプロバイダ側から回線を切断される場合がありますのでご注意ください。
	「接続モード」を「常時接続」で設定した場合、回線が切断されると自動再接続を行います。

	通信キャリアとの契約が定額制以外の場合、通信量等に応じて課金が発生するため、通信料が高額になる恐れがあります。くれぐれもご注意ください。
---	--

■無通信監視時間

接続モードで「自動接続・切断」を選択した場合に設定可能です。
ここで設定した時間、無通信状態が続くと自動切断します。

■MTU サイズ

MTU(Maximum Transmission Unit)サイズを変更する場合、MTU サイズを入力して下さい。
通常は初期値「1490」のままご利用下さい。

■DNS

DNS サーバーIP アドレスを自動取得する場合「自動取得」を選択して下さい。
DNS サーバーIP アドレスを設定する場合「固定指定」を選択してプライマリ DNS、セカンダリ DNS に DNS サーバー IP アドレスを入力して下さい。
DNS サーバーを使用しない場合「未使用」を選択して下さい。

■PPP 接続待ち時間

PPP 接続の応答待ち時間を設定します。
ここで設定した時間内に応答が無い場合、PPP の再接続を行います。
通常は初期値「2 分」のままご利用下さい。

■PPP 接続リトライ

PPP 接続に失敗した場合のリトライ回数を設定します。
ここで設定した回数連続して失敗した場合、USB ポートの電源を OFF/ON します。
通常は初期値「5 回」のままご利用下さい。

■USB データカード起動待ち時間

USB データカードが応答するまでの待ち時間を設定します。
ここで設定した時間内に USB データカードが応答しない場合、USB ポートの電源を OFF/ON します。
USB ポートの電源 OFF/ON を 5 回繰り返しても応答しない場合、MR-GM3L が再起動します。
初期値「0 秒」の場合、応答するまで待ち続けます。

■USB データカード電源 OFF 時間

MR-GM3L 再起動時に USB データカードの電源を OFF にする時間を設定します。
通常は初期値「5 秒」のままご利用下さい。

■USB データカード切替待ち時間

USB データカードのモードを切り替えるまでの待ち時間を設定します。
通常は初期値「0 秒」のままご利用下さい。

■追加 AT コマンドを使用する

追加 AT コマンドを使用する場合、「追加 AT コマンドを使用する」チェックを入れ、AT コマンドを入力して下さい。
複数の AT コマンドを設定する場合「\n」もしくは「¥n」で区切って入力して下さい。

設定が完了しましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

「3-2-6.WAN 共通設定」(41 ページ)へ進んで下さい。

3-2-3.IP アドレス固定(有線 WAN)

有線 WAN ポートを使用し、WAN 側に IP アドレスを固定する場合の設定について説明します。

有線 WAN 機能について
本製品の ETH1 ポートを有線 WAN ポートとして利用します。 設定完了後、WAN 側回線を ETH1 ポートに接続して下さい。
有線 WAN 機能は、IP マスカレード(NAPT)変換固定となります。 複数 IP アドレスの設定、NAT 変換、アンナンバード接続には対応していませんのでご注意ください。

WAN 側接続モードで「**IP アドレス固定**」選択し、以下の各設定を行って下さい。

WAN側接続モード	IPアドレス固定 ▼
IPアドレス	172.1.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	172.1.1.254
MTUサイズ	1500 (1400~1500バイト)
DNS	手動設定 ▼
プライマリDNS	
セカンダリDNS	
<input type="button" value="設定保存"/>	

■IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ

WAN 側の IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力して下さい。

■MTU サイズ

MTU(Maximum Transmission Unit)サイズを変更する場合、MTU サイズを入力して下さい。
通常は初期値「1500」のままご利用下さい。

■DNS

プライマリ DNS、セカンダリ DNS に DNS サーバー IP アドレスを入力して下さい。
DNS サーバーを使用しない場合「未使用」を選択して下さい。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

「3-2-6.WAN 共通設定」(41 ページ)へ進んで下さい。

3-2-4.DHCP クライアント(有線 WAN)

有線 WAN ポートを使用し、WAN 側で IP アドレスを自動取得する場合の設定について説明します。

有線 WAN 機能について
本製品の ETH1 ポートを有線 WAN ポートとして利用します。 設定完了後、WAN 側回線を ETH1 ポートに接続して下さい。
有線 WAN 機能は、IP マスカレード(NAPT)変換固定となります。 複数 IP アドレスの設定、NAT 変換、アンナンバード接続には対応していませんのでご注意ください。

WAN 側接続モードで「**DHCP クライアント**」を選択し、以下の各設定を行って下さい。

WAN側接続モード	<input type="text" value="DHCPクライアント"/>
ホスト名	<input type="text" value="MR-GM3"/>
MTUサイズ	<input type="text" value="1500"/> (1000~1500/バイト)
DNS	<input type="text" value="自動取得"/>
プライマリDNS	<input type="text"/>
セカンダリDNS	<input type="text"/>
IP取得待ち時間	<input type="text" value="0"/> 時 <input type="text" value="0"/> 分 <input type="text" value="30"/> 秒 (0~16時間) ※1

※1：0を設定した場合、IPアドレスが取得出来るまで待ち続けます。

■ホスト名

WAN 側ネットワーク管理者から指定があった場合、ホスト名を入力して下さい。
指定が無い場合は、初期値のままご利用下さい。

■MTU サイズ

MTU(Maximum Transmission Unit)サイズを変更する場合、MTU サイズを入力して下さい。
通常は初期値「1500」のままご利用下さい。

■DNS

DNS サーバーIP アドレスを自動取得する場合「自動取得」を選択して下さい。
DNS サーバーIP アドレスを設定する場合「手動設定」を選択してプライマリ DNS、セカンダリ DNS に DNS サーバー IP アドレスを入力して下さい。
DNS サーバーを使用しない場合「未使用」を選択して下さい。

■IP 取得待ち時間

IP アドレスを取得できるまでの待ち時間を入力して下さい。
通常は初期値「30 秒」のままご利用下さい。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

「3-2-6.WAN 共通設定」(41 ページ)へ進んで下さい。

3-2-5.PPPoE クライアント(有線 WAN)

有線 WAN ポートを使用し、PPPoE クライアント接続を行う場合の設定について説明します。

有線 WAN 機能について
本製品の ETH1 ポートを有線 WAN ポートとして利用します。設定完了後、WAN 側回線を ETH1 ポートに接続して下さい。
PPPoE クライアント接続は、PPPoE シングルセッション接続、WAN 側 IP アドレス自動取得、IP マスカレード変換 (NAPT) 固定となります。PPPoE マルチセッション接続、IP アドレスの固定設定、複数 IP アドレスの設定、NAT 変換、アンナンバード接続には対応していませんのでご注意ください。

WAN 側接続モードで「PPPoE クライアント」を選択し、以下の各設定を行って下さい。

WAN側接続モード	PPPoEクライアント
ユーザー名	<input type="text"/>
パスワード	<input type="password"/>
サービス名	<input type="text"/> (プロバイダから特に指定がない場合は空欄)
接続モード	常時接続
無通信監視時間	5 (1~1000分)
MTUサイズ	1452 (1360~1492/バイト)
DNS	自動取得
プライマリDNS	<input type="text"/>
セカンダリDNS	<input type="text"/>
PPP接続待ち時間	0 時 0 分 40 秒 (0~16時間) ※1
PPP接続リトライ	5 (0~9回) ※2
※1: 0を設定した場合、PPP接続出来るまで待ち続けます。 ※2: 0を設定した場合、リトライ続けます。	
<input type="button" value="設定保存"/>	

■ユーザー名、パスワード

契約資料を参照して「認証 ID(ユーザー名)」、「認証パスワード」を入力して下さい。

■サービス名

契約プロバイダから特に指定がない場合は空欄にして下さい。

■接続モード

接続モードを選択して下さい。

- ・常時接続
→常に回線接続状態になります。回線が切断されると自動再接続を行います。
- ・自動接続・切断
→インターネットへの接続要求を検出し回線の自動接続を行います。
無通信監視時間で設定した時間、無通信状態が続くと自動切断します。

■無通信監視時間

接続モードで「自動接続・切断」を選択した場合に設定可能です。
ここで設定した時間、無通信状態が続くと自動切断します。

■MTU サイズ

MTU(Maximum Transmission Unit)サイズを変更する場合、MTU サイズを入力して下さい。
通常は初期値「1452」のままご利用下さい。

■DNS

DNS サーバーIP アドレスを自動取得する場合「自動取得」を選択して下さい。
DNS サーバーIP アドレスを設定する場合「手動設定」を選択してプライマリ DNS、セカンダリ DNS に DNS サーバー IP アドレスを入力して下さい。

■PPP 接続待ち時間

PPP 接続の応答待ち時間を設定します。
ここで設定した時間内に応答が無い場合、PPP の再接続を行います。通常は初期値「40 秒」のままご利用下さい。

■PPP 接続リトライ

PPP 接続に失敗した場合のリトライ回数を設定します。
ここで設定した回数連続して失敗した場合、PPP 接続を再起動します。通常は初期値「5 回」のままご利用下さい。

設定が完了したら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

「3-2-6.WAN 共通設定」(次ページ)へ進んで下さい。

3-2-6.WAN 共通設定

「WAN 設定」画面に戻りますので、以下の各項目を設定して下さい。

<input type="checkbox"/>	UPnPを有効にする
<input checked="" type="checkbox"/>	IPsecパススルーを有効にする
<input checked="" type="checkbox"/>	PPTPパススルーを有効にする
<input checked="" type="checkbox"/>	L2TPパススルーを有効にする
<input type="checkbox"/>	IPv6パススルーを有効にする
<input type="checkbox"/>	NetBIOS over TCP/IP、Microsoft-DSの透過を有効にする
<input checked="" type="checkbox"/>	高速パケット処理(FastPath)を有効にする
UDPセッション時間(単方向)	<input type="text" value="60"/> (0~3600秒)
UDPセッション時間(双方向)	<input type="text" value="90"/> (0~3600秒)
IP変換セッション数	<input type="text" value="2048"/> (2048~8192)
WAN側からのPing応答:有効	
アタック検出	<input type="text" value="5"/> 1秒間に許容するPingアクセス数。(0~100)
WAN側からの設定画面ログオン:有効	
アタック検出	<input type="text" value="30"/> 30秒間に許容する最大TCP/IPコネクション数。(0~100)

■UPnP を有効にする

UPnP(ユニバーサル・プラグ・アンド・プレイ)機能を使用する場合にチェックを入れて下さい。

■IPsec パススルーを有効にする

IPsec 通信プロトコルを使用して VPN 接続を行う場合、チェックを入れて下さい。

■PPTP パススルーを有効にする


PPTP 通信プロトコルを使用して VPN 接続を行う場合、チェックを入れて下さい。

■L2TP パススルーを有効にする

L2TP 通信プロトコルを使用して VPN 接続を行う場合、チェックを入れて下さい。

■IPv6 パススルーを有効にする

IPv6 での通信を行う場合、チェックを入れて下さい。

	本機能は有線 WAN 接続でのみ使用できます。
	本機能は IPv6 パケットをパススルー(ブリッジ)する機能です。

■NetBIOS over TCP/IP、Microsoft-DS の透過を有効にする

WAN 側との NetBIOS over TCP/IP、Microsoft-DS の通信 (Windows ファイル共有) を透過する場合、チェックを入れて下さい。

■高速パケット処理(FastPath)を有効にする

高速パケット処理(ファストパス)を無効にする場合、チェックを外して下さい。

■UDP セッション時間(単方向)、UDP セッション時間(双方向)

UDP パケットのセッション情報の保持時間を設定します。通常は初期値(単方向 60 秒、双方向 90 秒)のままご利用下さい。

■IP 変換セッション数

IP アドレス変換の最大セッション数を設定します。

通常は初期値(2048)のままご利用下さい。

■WAN 側からの Ping 応答

WAN 側からの Ping 応答の状態を表示します。

有効にする場合は、「4-7.WAN 側からの Ping 応答を返す場合の設定方法」(76 ページ)を参照して下さい。

・アタック検出

WAN 側からの Ping 応答が有効の時に設定が可能です。

1 秒間に許容する Ping のアクセス回数を設定します。

■WAN 側から設定画面ログオン


WAN 側から設定画面ログオンの状態を表示します。

有効にする場合は、「4-6.WAN 側から設定画面へのログオンを行う場合の設定方法」(74 ページ)を参照して下さい。

・アタック検出

WAN 側から設定画面ログオンが有効の時に設定が可能です。

30 秒間にここで設定した回数を超えて SYN フラグ(接続要求)を受信した場合、その送信元 IP アドレスからの SYN フラグを 300 秒間拒否します。

	回数が少なすぎると、正しいログオンでの操作でも拒否されてしまう可能性があります。
	通常は初期値「30」のままご利用下さい。

<次ページへ進んで下さい>

回線監視機能	使用しない
発行間隔	5分
連続失敗検出回数	1 (1~60)
<input type="checkbox"/> 回線監視通信の送信元にLAN側IPアドレスを使用する	
宛先1	
宛先2	
宛先3	

■回線監視機能

PING (ICMP パケット)、または HTTP リクエストによる回線監視が可能です。
 回線監視機能を使用する場合、「PING による監視」もしくは「HTTP による監視」のいずれかを選択して下さい。
 「PING による監視」は PING 応答があった場合に回線接続状態と判断します。
 「HTTP による監視」は HTTP リクエストに対して応答があった場合に回線接続状態と判断します。

・発行間隔

→監視間隔を設定して下さい。
 PING による監視: (10/20/30/40/50 秒、1/5/15/30/45/60 分)
 HTTP による監視: (1/5/15/30/45/60 分)

・連続失敗検出回数


→ここで設定した回数、連続して監視に失敗すると、回線切断状態と判断します。

・回線監視通信の送信元に LAN 側 IP アドレスを使用する(チェックボックス)

→回線監視通信を VPN 接続先拠点と行う場合チェックを入れて下さい。


・宛先 1~3

→監視先を FQDN(ドメイン名)もしくは IP アドレスで設定して下さい。

	設定した全ての宛先への監視に失敗した場合、回線切断状態と判断します。 いずれかの宛先への監視に成功した場合は、回線接続状態と判断します。
	モバイルデータカード(内蔵)、モバイルデータカード(USB)、PPPoE 接続の場合、「監視失敗」の連続回数が連続失敗検出回数に達すると、回線の再接続を行います。
	IPアドレス固定接続、DHCPクライアント接続の場合、回線監視に失敗してもリカバリ処理は行われません。
	回線監視機能は接続モードが「常時接続」の時のみ動作します。 接続モードが「自動接続・切断」の場合は動作しません。
	FQDN の名前解決はできるが PING や HTTP リクエストに回答しない宛先を登録した場合、応答無しと判断しますのでご注意下さい。

全ての設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。
 以下の画面が表示されますので、すぐに設定を反映させる場合は[今すぐ再起動]ボタンを、引き続き設定を行う場合は[後で再起動]ボタンをクリックして下さい。

設定は正常に保存されました。	
変更を動作に反映させるためには、プロセスを再起動する必要があります。	
今すぐ再起動を行いますか？ 他の設定を行った後、再起動を行いますか？	
<input type="button" value="今すぐ再起動"/>	<input type="button" value="後で再起動"/>

	USB モバイルデータカードの接続設定を行った場合は、再起動が完了してから本製品の USB ポートに USB モバイルデータカードを接続して下さい。
	有線 WAN 接続設定を行った場合は、再起動が完了してから本製品の ETH1 ポートに WAN 側回線を接続して下さい。

3-3.回線冗長化機能を使用する

回線冗長化の設定について説明します。

回線冗長化機能とは、プライマリ接続が不通状態となった場合に、自動的にセカンダリ接続に切り替える機能です。セカンダリ接続に切り替え後、定期的にプライマリ接続の回線状態を確認する事も可能です。

3-3-1.回線冗長化機能の仕様について

■プライマリ接続、セカンダリ接続で組み合わせ可能な接続モードは以下の通りです。

プライマリ接続(メイン)	セカンダリ接続(バックアップ)
モバイルデータカード(内蔵)	モバイルデータカード(USB)
モバイルデータカード(内蔵)	有線 WAN(DHCP/IP 固定/PPPoE クライアント)
モバイルデータカード(USB)	モバイルデータカード(内蔵)
モバイルデータカード(USB)	有線 WAN(DHCP/IP 固定/PPPoE クライアント)
有線 WAN(DHCP/IP 固定/PPPoE クライアント)	モバイルデータカード(内蔵)
有線 WAN(DHCP/IP 固定/PPPoE クライアント)	モバイルデータカード(USB)

■プライマリ接続とセカンダリ接続を同時に使用(接続)する事はできません。(接続モード切り替えによる排他使用)

■回線冗長化機能で有線 WAN を組み合わせる場合、ETH1 ポートは有線 WAN ポート固定動作となります。

ETH1 ポートは有線 LAN ポートとして使用できなくなりますのでご注意ください。

■回線冗長化機能を使用する場合、回線接続モードは常時接続で設定して下さい。

■プライマリ接続からセカンダリ接続への切り替え契機は以下の通りです。

- ・回線監視失敗時
- ・PPP 接続リトライ回数到達時(モバイルデータカード(内蔵/USB)、PPPoE クライアント使用時)
- ・DHCP クライアントによる IP アドレス取得失敗時

■セカンダリ接続からプライマリ接続への切り替え契機は以下の通りです。

- ・プライマリ通信確認間隔(時間)経過時
- ・MR-GM3L の再起動時

■セカンダリ接続に切り替え後にプライマリ接続の回線状態を確認する際は、セカンダリ接続が一度切断されますのでご注意ください。

・回線冗長化動作の流れ

プライマリ接続の回線監視失敗



セカンダリ接続へ切り替え



プライマリ接続の確認間隔(設定値)経過



セカンダリ接続を切断



プライマリ接続へ切り替え



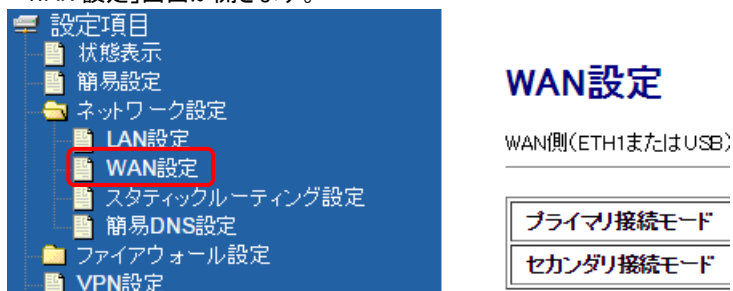
プライマリ接続の回線監視に成功すればプライマリ接続へ復帰

プライマリ接続の回線監視に失敗すればセカンダリ接続へ切り替え

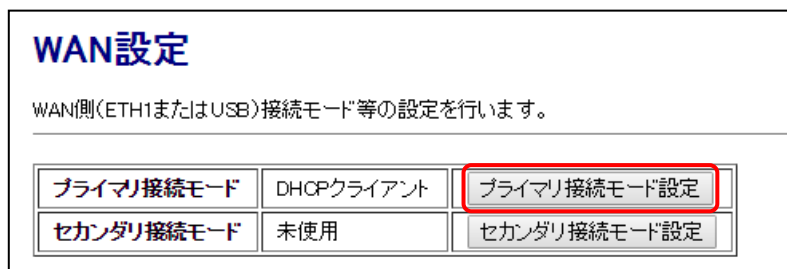
■セカンダリ接続へ切り替え後にセカンダリ接続の回線監視に失敗した場合、MR-GM3L は再起動します。

3-3-2.プライマリ接続の設定

以下の手順プライマリ接続の設定を行って下さい。
設定メニューの「ネットワーク設定」より「WAN 設定」をクリックして下さい。
「WAN 設定」画面が開きます。



「プライマリ接続モード設定」ボタンをクリックして下さい。



プライマリ接続で使用するモードに応じて以下の設定を行って下さい。

- 内蔵通信モジュールを使用する場合
→「モバイルデータカード(内蔵)」(次ページ)を参照して下さい。
- USB モバイルデータカードを使用する場合
→「モバイルデータカード(USB)」(47 ページ)を参照して下さい。
- 有線 WAN ポートを IP アドレス固定で使用する場合
→「IP アドレス固定(有線 WAN)」(49 ページ)を参照して下さい。
- 有線 WAN ポートを DHCP クライアントで使用する場合
→「DHCP クライアント(有線 WAN)」(50 ページ)を参照して下さい。
- 有線 WAN ポートを PPPoE クライアントで使用する場合
→「PPPoE クライアント(有線 WAN)」(51 ページ)を参照して下さい。

モバイルデータカード(内蔵)

プライマリ接続に内蔵通信モジュールを使用する場合の設定について説明します。

確認 プロバイダとの契約資料をご用意下さい。

WAN 側接続モードで「**モバイルデータカード(内蔵)**」を選択し、以下の各設定を行って下さい。

WAN側接続モード	モバイルデータカード(内蔵) ▼
接続先	▼
CDCタイプ	モデム ▼
キャリア選択	自動判別 ▼
回線選択	自動判別 ▼
ユーザー名	▼
パスワード	▼
APN	▼
CID	1 ▼
発信先電話番号	*99***1#
PDPタイプ	IP ▼
接続モード	常時接続 ▼
無通信監視時間	5 (1~1000分)
MTUサイズ	1490 (128~1492/バイト)
DNS	自動取得 ▼
プライマリDNS	▼
セカンダリDNS	▼
PPP認証方式	CHAP or PAP ▼
PPP接続待ち時間	0 時 0 分 40 秒 (0~16時間) ※1
PPP接続リトライ	5 (0~9回) ※2
<input type="checkbox"/> 追加ATコマンドを使用する	
追加ATコマンド	▼ ※3
位置情報取得	行わない ▼
位置情報取得間隔	0 (0~1440分) ※4
<input type="checkbox"/> 内蔵モジュールから時刻取得を行う	
電波強度取得間隔	60 (0~3600秒) ※5
電波強度不足検出回数	3 (1~100回)
電波強度ログ出力間隔	60 (1~3600回) ※6

■接続先

利用する契約プラン名を選択して下さい。

契約プランを選択すると、キャリア選択、ユーザー名、パスワード、APN、CID、発信先電話番号が自動的に設定されます。任意のユーザー名、パスワード、APN、発信先電話番号を設定する場合は「その他」を選択して下さい。

■CDCタイプ

「モデム」を選択して下さい。

■キャリア選択 (MR-GM3L-DK/MR-GM3L-DKS/MR-GM3L-M で表示されます)

通常は「自動判別」のままご利用下さい。

KDDI系MVNO SIMを利用する場合は、「KDDI MVNO」を選択して下さい。

ソフトバンク USIMを利用する場合は、「SoftBank USIM」を選択して下さい。

確認 キャリア選択を変更した場合、初回起動時のみ起動完了まで約5分程度かかります。

■回線選択

LTE/3G 固定接続の切り替えが可能です。

通常は「自動判別」のままご利用下さい。

確認 MR-GM3L-D/MR-GM3L-S/MR-GM3L-M のみ 3G 固定接続が可能です。

<次ページへ進んで下さい>

■ユーザー名、パスワード、APN、CID、発信先電話番号

接続先で契約プランを選択すると、ユーザー名、パスワード、APN、CID、発信先電話番号が自動的に設定されます。接続先で「その他」を選択すると、任意の値が設定できます。


	接続情報に関する最新情報は以下のサイトをご参照下さい。 GM3 シリーズ内蔵通信モジュール設定情報 https://www.mrl.co.jp/product/gm3/gm_series_sim.html
---	--

■PDP タイプ

回線事業者、または契約プロバイダから指定された PDP タイプを選択して下さい。通常は、「IP」のままご利用下さい。

■接続モード

「常時接続」を選択して下さい。

	回線冗長化機能は、接続モード「常時接続」時のみ使用できます。
---	--------------------------------

■無通信監視時間

接続モードが「常時接続」の場合、設定できません。

■MTU サイズ

MTU (Maximum Transmission Unit) サイズを変更する場合、MTU サイズを入力して下さい。通常は初期値「1490」のままご利用下さい。

■DNS

DNS サーバーIP アドレスを自動取得する場合「自動取得」を選択して下さい。
DNS サーバーIP アドレスを設定する場合「手動設定」を選択してプライマリ DNS、セカンダリ DNS に DNS サーバー IP アドレスを入力して下さい。DNS サーバーを使用しない場合「未使用」を選択して下さい。

■PPP 認証方式

PPP 認証方式を設定します。「PAP」認証、「CHAP」認証の固定設定が可能です。通常は初期値「CHAP or PAP」のままご利用下さい。

■PPP 接続待ち時間

ここで設定した時間内に応答が無い場合、PPP の再接続を行います。通常は初期値「40 秒」のままご利用下さい。

■PPP 接続リトライ

PPP 接続に失敗した場合のリトライ回数を設定します。ここで設定した回数連続して失敗した場合、内蔵通信モジュールの電源を OFF/ON します。通常は初期値「5 回」のままご利用下さい。

■追加 AT コマンドを使用する

追加 AT コマンドを使用する場合、「追加 AT コマンドを使用する」チェックを入れ、AT コマンドを入力して下さい。複数の AT コマンドを設定する場合「\n」もしくは「¥n」で区切って入力して下さい。

■位置情報取得

GPS 機能の設定です。GPS 機能については「8.GPS 機能について」(104 ページ)を参照して下さい。

■内蔵モジュールから時刻取得を行う

内蔵通信モジュールから時刻情報を取得します。

■電波強度取得間隔

ここで設定した間隔で電波強度を取得します。

■電波強度不足検出回数

ここで設定した回数連続で電波強度不足 (Signal Quality 0) を検出すると再接続を行います。

■電波強度ログ出力間隔

ここで設定した回数電波強度を取得するとログに出力します。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。
「3-3-3.セカンダリ接続の設定」(52 ページ)へ進んで下さい。

モバイルデータカード(USB)

プライマリ接続に USB モバイルデータカードを使用する場合の設定について説明します。

WAN 側接続モードで「**モバイルデータカード(USB)**」を選択し、以下の各設定を行って下さい。

WAN側接続モード	モバイルデータカード(USB) ▾
接続デバイス名指定	未指定 ▾
接続先	<input type="text"/>
CDCタイプ	モデム ▾
キャリア選択	自動判別 ▾
ユーザー名	<input type="text"/>
パスワード	<input type="text"/>
APN	<input type="text"/>
CID	1 ▾
発信先電話番号	*99***1# <input type="text"/>
PDPタイプ	IP ▾
接続モード	常時接続 ▾
無通信監視時間	5 <input type="text"/> (1~1000分)
MTUサイズ	1490 <input type="text"/> (128~1490バイト)
DNS	自動取得 ▾
プライマリDNS	<input type="text"/>
セカンダリDNS	<input type="text"/>
PPP接続待ち時間	0 時 2 分 0 秒 (0~16時間) ※1
PPP接続リトライ	5 (0~9回) ※2
USBデータカード起動待ち時間	0 時 0 分 0 秒 (0~16時間) ※3
USBデータカード電源OFF時間	5 (1~60秒)
USBデータカード切替待ち時間	0 (0~60秒)
<input type="checkbox"/> 追加ATコマンドを使用する	
追加ATコマンド	<input type="text"/> ※4

■接続デバイス名指定

「未指定」のままご利用下さい。

■接続先

利用する契約プランを選択して下さい。

契約プランを選択すると、ユーザー名、パスワード、APN、電話番号が自動的に設定されます。

任意のユーザー名、パスワード、APN、電話番号を設定する場合は「その他」を選択して下さい。

■CDC タイプ

「モデム」を選択して下さい。

■キャリア選択

通常は「自動判別」のままご利用下さい。

■ユーザー名、パスワード、APN

接続先で契約プランを選択すると、自動的に設定されます。

接続先で「その他」を選択すると、任意の値が設定できます。

■CID

プロバイダから CID を指定されている場合は変更して下さい。

特に指定が無い場合は「1」のままご利用下さい。

■発信先電話番号

接続先で契約プランを選択すると、発信先電話番号が自動的に設定されます。

接続先で「その他」を選択すると、任意の値が設定できます。

■PDP タイプ

回線事業者、または契約プロバイダから指定された PDP タイプを選択して下さい。

通常は、「IP」のままご利用下さい。

〈次ページへ進んで下さい〉

■接続モード

「常時接続」を選択して下さい。



回線冗長化機能は、接続モード「常時接続」時のみ使用できます。

■無通信監視時間

接続モードが「常時接続」の場合、設定できません。

■MTU サイズ

MTU (Maximum Transmission Unit) サイズを変更する場合、MTU サイズを入力して下さい。

通常は初期値「1490」のままご利用下さい。

■DNS

DNS サーバーIP アドレスを自動取得する場合「自動取得」を選択して下さい。

DNS サーバーIP アドレスを設定する場合「固定指定」を選択してプライマリ DNS、セカンダリ DNS に DNS サーバー IP アドレスを入力して下さい。

DNS サーバーを使用しない場合「未使用」を選択して下さい。

■PPP 接続待ち時間

ここで設定した時間内に応答が無い場合、PPP の再接続を行います。

通常は初期値「2 分」のままご利用下さい。

■PPP 接続リトライ

ここで設定した回数連続して失敗した場合、USB ポートの電源を OFF/ON します。

通常は初期値「5 回」のままご利用下さい。

■USB データカード起動待ち時間

USB データカードが応答するまでの待ち時間を設定します。

初期値「0 秒」の場合、USB データカードが応答するまで待ち続けます。

USB データカードが未接続の状態を障害として検知する場合は、本設定を「40 秒」以上で設定する事を推奨します。

ここで設定した時間内に USB データカードが応答しない場合、セカンダリ接続へ切り替わります。

■USB データカード電源 OFF 時間

MR-GM3L 再起動時に USB データカードの電源を OFF にする時間を設定します。

通常は初期値「5 秒」のままご利用下さい。

■USB データカード切替待ち時間

USB データカードのモードを切り替えるまでの待ち時間を設定します。

「0 秒」(初期値)の場合、USB データカードのモードが切り替わるまで待ち続けます。

SoftBank A002ZT を使用する場合は、「5 秒」で設定して下さい。

■追加 AT コマンドを使用する

追加 AT コマンドを使用する場合、「追加 AT コマンドを使用する」チェックを入れ、AT コマンドを入力して下さい。

複数の AT コマンドを設定する場合「\n」もしくは「¥n」で区切って入力して下さい。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

「3-3-3.セカンダリ接続の設定」(52 ページ)へ進んで下さい。

IP アドレス固定 (有線 WAN)

プライマリ接続に有線 WAN ポートを使用し、WAN 側に IP アドレスを固定する場合の設定について説明します。

有線 WAN 機能について
本製品の ETH1 ポートを有線 WAN ポートとして利用します。 設定完了後、WAN 側回線を ETH1 ポートに接続して下さい。
有線 WAN 機能は、IP マスカレード (NAPT) 変換固定となります。 複数 IP アドレスの設定、NAT 変換、アンナンバード接続には対応していませんのでご注意ください。

WAN 側接続モードで「IP アドレス固定」選択し、以下の各設定を行って下さい。

WAN側接続モード	IPアドレス固定 ▼
IPアドレス	172.1.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	172.1.1.254
MTUサイズ	1500 (1400~1500バイト)
DNS	手動設定 ▼
プライマリDNS	
セカンダリDNS	
設定保存	

■IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ

WAN 側の IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力して下さい。

■MTU サイズ

MTU (Maximum Transmission Unit) サイズを変更する場合、MTU サイズを入力して下さい。
通常は初期値「1500」のままご利用下さい。

■DNS

プライマリ DNS、セカンダリ DNS に DNS サーバー IP アドレスを入力して下さい。
DNS サーバーを使用しない場合「未使用」を選択して下さい。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

「3-3-3.セカンダリ接続の設定」(52 ページ)へ進んで下さい。

DHCP クライアント(有線 WAN)

プライマリ接続に有線 WAN ポートを使用し、WAN 側で IP アドレスを自動取得する場合の設定について説明します。

有線 WAN 機能について
本製品の ETH1 ポートを有線 WAN ポートとして利用します。 設定完了後、WAN 側回線を ETH1 ポートに接続して下さい。
有線 WAN 機能は、IP マスカレード(NAPT)変換固定となります。 複数 IP アドレスの設定、NAT 変換、アンナンバード接続には対応していませんのでご注意ください。

WAN 側接続モードで「**DHCP クライアント**」を選択し、以下の各設定を行って下さい。

WAN側接続モード	<input type="text" value="DHCPクライアント"/>
ホスト名	<input type="text" value="MR-GM3"/>
MTUサイズ	<input type="text" value="1500"/> (1000~1500/バイト)
DNS	<input type="text" value="自動取得"/>
プライマリDNS	<input type="text"/>
セカンダリDNS	<input type="text"/>
IP取得待ち時間	<input type="text" value="0"/> 時 <input type="text" value="0"/> 分 <input type="text" value="30"/> 秒 (0~16時間) ※1

※1: 0を設定した場合、IPアドレスが取得出来るまで待ち続けます。

■ホスト名

WAN 側ネットワーク管理者から指定があった場合、ホスト名を入力して下さい。
指定が無い場合は、初期値のままご利用下さい。

■MTU サイズ

MTU(Maximum Transmission Unit)サイズを変更する場合、MTU サイズを入力して下さい。
通常は初期値「1500」のままご利用下さい。

■DNS

DNS サーバーIP アドレスを自動取得する場合「自動取得」を選択して下さい。
DNS サーバーIP アドレスを設定する場合「手動設定」を選択してプライマリ DNS、セカンダリ DNS に DNS サーバー IP アドレスを入力して下さい。
DNS サーバーを使用しない場合「未使用」を選択して下さい。

■IP 取得待ち時間

IP アドレスを取得できるまでの待ち時間を入力して下さい。
通常は初期値「30 秒」のままご利用下さい。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。
「3-3-3.セカンダリ接続の設定」(52 ページ)へ進んで下さい。

PPPoE クライアント(有線 WAN)

プライマリ接続に有線 WAN ポートを使用し、PPPoE クライアント接続を行う場合の設定について説明します。

有線 WAN 機能について
本製品の ETH1 ポートを有線 WAN ポートとして利用します。 設定完了後、WAN 側回線を ETH1 ポートに接続して下さい。
PPPoE クライアント接続は、PPPoE シングルセッション接続、WAN 側 IP アドレス自動取得、IP マスカレード変換(NAPT)固定となります。 PPPoE マルチセッション接続、IP アドレスの固定設定、複数 IP アドレスの設定、NAT 変換、アンナンバード接続には対応していませんのでご注意ください。

WAN 側接続モードで「**PPPoE クライアント**」を選択し、以下の各設定を行って下さい。

WAN側接続モード	PPPoEクライアント
ユーザー名	<input type="text"/>
パスワード	<input type="password"/>
サービス名	<input type="text"/> <small>(プロバイダから特に指定がない場合は空欄)</small>
接続モード	常時接続
無通信監視時間	5 (1~1000分)
MTUサイズ	1452 (1360~1492バイト)
DNS	自動取得
プライマリDNS	<input type="text"/>
セカンダリDNS	<input type="text"/>
PPP接続待ち時間	0 時 0 分 40 秒 (0~16時間) ※1
PPP接続リトライ	5 (0~9回) ※2
※1: 0を設定した場合、PPP接続出来るまで待ち続けます。 ※2: 0を設定した場合、リトライし続けます。	
<input type="button" value="設定保存"/>	

■ユーザー名、パスワード

契約資料を参照して「認証 ID(ユーザー名)」、「認証パスワード」を入力して下さい。

■サービス名

契約プロバイダから特に指定がない場合は空欄にして下さい。

■接続モード

「常時接続」を選択して下さい。



回線冗長化機能は、接続モード「常時接続」時のみ使用できます。

■無通信監視時間

接続モードが「常時接続」の場合、設定できません。

■MTU サイズ

MTU(Maximum Transmission Unit)サイズを変更する場合、MTU サイズを入力して下さい。

通常は初期値「1452」のままご利用下さい。

■DNS

DNS サーバーIP アドレスを自動取得する場合「自動取得」を選択して下さい。

DNS サーバーIP アドレスを設定する場合「手動設定」を選択してプライマリ DNS、セカンダリ DNS に DNS サーバー IP アドレスを入力して下さい。

■PPP 接続待ち時間

PPP 接続の応答待ち時間を設定します。

ここで設定した時間内に応答が無い場合、PPP の再接続を行います。通常は初期値「40 秒」のままご利用下さい。

■PPP 接続リトライ

PPP 接続に失敗した場合のリトライ回数を設定します。

ここで設定した回数連続して失敗した場合、PPP 接続を再起動します。通常は初期値「5 回」のままご利用下さい。

設定が完了したら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

「3-3-3.セカンダリ接続の設定」(次ページ)へ進んで下さい。

3-3-3.セカンダリ接続の設定

以下の手順でセカンダリ接続の設定を行って下さい。
「セカンダリ接続モード設定」ボタンをクリックして下さい。

WAN設定

WAN側(ETH1またはUSB)接続モード等の設定を行います。

プライマリ接続モード	DHCPクライアント	プライマリ接続モード設定
セカンダリ接続モード	未使用	セカンダリ接続モード設定

セカンダリ接続で使用するモードに応じて以下の設定を行って下さい。

- 内蔵通信モジュールを使用する場合
→「モバイルデータカード(内蔵)」(次ページ)を参照して下さい。
- USB モバイルデータカードを使用する場合
→「モバイルデータカード(USB)」(56 ページ)を参照して下さい。
- 有線 WAN ポートを IP アドレス固定で使用する場合
→「IP アドレス固定(有線 WAN)」(58 ページ)を参照して下さい。
- 有線 WAN ポートを DHCP クライアントで使用する場合
→「DHCP クライアント(有線 WAN)」(59 ページ)を参照して下さい。
- 有線 WAN ポートを PPPoE クライアントで使用する場合
→「PPPoE クライアント(有線 WAN)」(60 ページ)を参照して下さい。

モバイルデータカード(内蔵)

セカンダリ接続に内蔵通信モジュールを使用する場合の設定について説明します。

<input checked="" type="checkbox"/> WANセカンダリ接続を有効にする	
WAN側接続モード	モバイルデータカード(内蔵) ▼
プライマリ通信確認間隔	0 (0~86400秒) ※
接続先	▼
CDCタイプ	モデム ▼
キャリア選択	自動判別 ▼
回線選択	自動判別 ▼
ユーザー名	
パスワード	
APN	
CID	1 ▼
発信先電話番号	*99***1#
PDPタイプ	IP ▼
接続モード	常時接続 ▼
無通信監視時間	5 (1~1000分)
MTUサイズ	1490 (128~1492バイト)
DNS	自動取得 ▼
プライマリDNS	
セカンダリDNS	
PPP認証方式	CHAP ▼
PPP接続待ち時間	0 時 0 分 0 秒 (0~16時間) ※1
PPP接続リトライ	5 (0~9回) ※2
<input type="checkbox"/> 追加ATコマンドを使用する	
追加ATコマンド	※3
位置情報取得	アシストGPS ▼
位置情報取得間隔	1 (0~1440分) ※4
<input checked="" type="checkbox"/> 内蔵モジュールから時刻取得を行う	
電波強度取得間隔	60 (0~3600秒) ※5
電波強度不足検出回数	3 (1~100回)
電波強度ログ出力間隔	60 (1~3600回) ※6

■WAN セカンダリ接続を有効にする(チェックボックス)

チェックを入れて下さい。

■WAN 側接続モード

「**モバイルデータカード(内蔵)**」を選択して下さい。

■プライマリ通信確認間隔

セカンダリ接続で動作中にプライマリ接続の通信を確認する場合、確認間隔を秒単位で入力して下さい。

セカンダリ接続へ切り替え後、ここで設定した秒数経過すると一度セカンダリ接続を切断してプライマリ接続へ切り替えます。

プライマリ接続へ切り替え後、回線状態監視を行い、成功すればプライマリ接続のまま動作します。

失敗した場合は、もう一度セカンダリ接続に切り替えます。

「0」を設定した場合、プライマリ接続の通信確認を行いません。

セカンダリ接続に切り替わった後は、MR-GM3L を再起動するまでセカンダリ接続のまま動作します。

■接続先

利用する契約プラン名を選択して下さい。

契約プランを選択すると、キャリア選択、ユーザー名、パスワード、APN、CID、発信先電話番号が自動的に設定されます。

任意のユーザー名、パスワード、APN、発信先電話番号を設定する場合は「その他」を選択して下さい。

■CDC タイプ

「モデム」を選択して下さい。

〈次ページへ進んで下さい〉

■キャリア選択 (MR-GM3L-DK/MR-GM3L-DKS/MR-GM3L-M で表示されます)

通常は「自動判別」のままご利用下さい。

KDDI 系 MVNO SIM を利用する場合は、「KDDI MVNO」を選択して下さい。

ソフトバンク USIM を利用する場合は、「SoftBank USIM」を選択して下さい。



キャリア選択を変更した場合、初回起動時のみ起動完了まで約 5 分程度かかります。

■回線選択

LTE/3G 固定接続の切り替えが可能です。

通常は「自動判別」のままご利用下さい。



MR-GM3L-D/MR-GM3L-S/MR-GM3L-M のみ 3G 固定接続が可能です。

■ユーザー名、パスワード、APN、CID、発信先電話番号

接続先で契約プランを選択すると、ユーザー名、パスワード、APN、CID、発信先電話番号が自動的に設定されます。

接続先で「その他」を選択すると、任意の値が設定できます。



接続情報に関する最新情報は以下のサイトをご参照下さい。

GM3 シリーズ内蔵通信モジュール設定情報

https://www.mrl.co.jp/product/gm3/gm_series_sim.html

■PDP タイプ

回線事業者、または契約プロバイダから指定された PDP タイプを選択して下さい。

通常は、「IP」のままご利用下さい。

■接続モード

「常時接続」を選択して下さい。



回線冗長化機能は、接続モード「常時接続」時のみ使用できます。

■無通信監視時間

接続モードが「常時接続」の場合、設定できません。

■MTU サイズ

MTU (Maximum Transmission Unit) サイズを変更する場合、MTU サイズを入力して下さい。

通常は初期値「1490」のままご利用下さい。

■DNS

DNS サーバー IP アドレスを自動取得する場合「自動取得」を選択して下さい。

DNS サーバー IP アドレスを設定する場合「手動設定」を選択してプライマリ DNS、セカンダリ DNS に DNS サーバー IP アドレスを入力して下さい。

DNS サーバーを使用しない場合「未使用」を選択して下さい。

■PPP 認証方式

PPP 認証方式を設定します。「PAP」認証、「CHAP」認証の固定設定が可能です。

通常は初期値「CHAP or PAP」のままご利用下さい。

■PPP 接続待ち時間

ここで設定した時間内に応答が無い場合、PPP の再接続を行います。

通常は初期値「40 秒」のままご利用下さい。

■PPP 接続リトライ

ここで設定した回数連続して失敗した場合、内蔵通信モジュールの電源を OFF/ON します。

通常は初期値「5 回」のままご利用下さい。

■追加 AT コマンドを使用する

追加 AT コマンドを使用する場合、「追加 AT コマンドを使用する」チェックを入れ、AT コマンドを入力して下さい。

複数の AT コマンドを設定する場合「\n」もしくは「¥n」で区切って入力して下さい。

■位置情報取得

GPS 機能の設定です。GPS 機能については「8.GPS 機能について」(104 ページ)を参照して下さい。

■内蔵モジュールから時刻取得を行う

内蔵通信モジュールから時刻情報を取得します。

<次ページへ進んで下さい>

■電波強度取得間隔

ここで設定した間隔で電波強度を取得します。

■電波強度不足検出回数

ここで設定した回数連続で電波強度不足 (Signal Quality 0) を検出すると再接続を行います。

■電波強度ログ出力間隔

電波強度ログ出力間隔を設定します。

ここで設定した回数電波強度を取得するとログに出力します。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

「3-3-4.プライマリ接続・セカンダリ接続共通設定」(62 ページ)へ進んで下さい。

モバイルデータカード(USB)

セカンダリ接続に USB モバイルデータカードを使用する場合の設定について説明します。

<input checked="" type="checkbox"/> WANセカンダリ接続を有効にする	
WAN側接続モード	モバイルデータカード(USB) ▾
プライマリ通信確認間隔	0 (0~86400秒) ※
接続デバイス名指定	未指定 ▾
接続先	▾
CDCタイプ	モデム ▾
キャリア選択	自動判別 ▾
ユーザー名	
パスワード	
APN	
CID	1 ▾
発信先電話番号	*99***1#
PDPタイプ	IP ▾
接続モード	常時接続 ▾
無通信監視時間	5 (1~1000分)
MTUサイズ	1490 (128~1490/バイト)
DNS	自動取得 ▾
プライマリDNS	
セカンダリDNS	
PPP接続待ち時間	0 時 2 分 0 秒 (0~16時間) ※1
PPP接続リトライ	5 (0~9回) ※2
USBデータカード起動待ち時間	0 時 0 分 0 秒 (0~16時間) ※3
USBデータカード電源OFF時間	5 (1~60秒)
USBデータカード切替待ち時間	0 (0~60秒)
<input type="checkbox"/> 追加ATコマンドを使用する	
追加ATコマンド	※4

■WAN セカンダリ接続を有効にする(チェックボックス)

チェックを入れて下さい。

■WAN 側接続モード

「**モバイルデータカード(USB)**」を選択して下さい。

■プライマリ通信確認間隔

セカンダリ接続で動作中にプライマリ接続の通信を確認する場合、確認間隔を秒単位で入力して下さい。

セカンダリ接続へ切り替え後、ここで設定した秒数経過すると一度セカンダリ接続を切断してプライマリ接続へ切り替えます。プライマリ接続へ切り替え後、回線状態監視を行い、成功すればプライマリ接続のまま動作します。失敗した場合は、もう一度セカンダリ接続に切り替えます。

「0」を設定した場合、プライマリ接続の通信確認を行いません。

セカンダリ接続に切り替わった後は、GM3L を再起動するまでセカンダリ接続のまま動作します。

■接続デバイス名指定

「未指定」のままご利用下さい。

■接続先

利用する契約プランを選択して下さい。

契約プランを選択すると、ユーザー名、パスワード、APN、発信先電話番号が自動的に設定されます。

任意のユーザー名、パスワード、APN、発信先電話番号を設定する場合は「その他」を選択して下さい。

■CDC タイプ

「モデム」を選択して下さい。

■キャリア選択

通常は「自動判別」のままご利用下さい。

■ユーザー名、パスワード、APN

接続先で契約プランを選択すると、自動的に設定されます。

接続先で「その他」を選択すると、任意の値が設定できます。

〈次ページへ進んで下さい〉

■CID

プロバイダから CID を指定されている場合は変更して下さい。
特に指定が無い場合は「1」のままご利用下さい。

■発信先電話番号

接続先で契約プランを選択すると、発信先電話番号が自動的に設定されます。
接続先で「その他」を選択すると、任意の値が設定できます。

■PDP タイプ

回線事業者、または契約プロバイダから指定された PDP タイプを選択して下さい。
通常は、「IP」のままご利用下さい。

■接続モード

「常時接続」を選択して下さい。



回線冗長化機能は、接続モード「常時接続」時のみ使用できます。

■無通信監視時間

接続モードが「常時接続」の場合、設定できません。

■MTU サイズ

MTU (Maximum Transmission Unit) サイズを変更する場合、MTU サイズを入力して下さい。
通常は初期値「1490」のままご利用下さい。

■DNS

DNS サーバーIP アドレスを自動取得する場合「自動取得」を選択して下さい。
DNS サーバーIP アドレスを設定する場合「固定指定」を選択してプライマリ DNS、セカンダリ DNS に DNS サーバー IP アドレスを入力して下さい。
DNS サーバーを使用しない場合「未使用」を選択して下さい。

■PPP 接続待ち時間

ここで設定した時間内に応答が無い場合、PPP の再接続を行います。
通常は初期値「2 分」のままご利用下さい。

■PPP 接続リトライ

ここで設定した回数連続して失敗した場合、USB ポートの電源を OFF/ON します。
通常は初期値「5 回」のままご利用下さい。

■USB データカード起動待ち時間

USB データカードが応答するまでの待ち時間を設定します。
初期値「0 秒」の場合、USB データカードが応答するまで待ち続けます。
USB データカードが未接続の状態を障害として検知する場合は、本設定を「40 秒」以上で設定する事を推奨します。
ここで設定した時間内に USB データカードが応答しない場合、MR-GM3L が再起動します。

■USB データカード電源 OFF 時間

MR-GM3 再起動時に USB データカードの電源を OFF にする時間を設定します。
通常は初期値「5 秒」のままご利用下さい。

■USB データカード切替待ち時間

USB データカードのモードを切り替えるまでの待ち時間を設定します。
「0 秒」(初期値)の場合、USB データカードのモードが切り替わるまで待ち続けます。
SoftBank A002ZT を使用する場合は、「5 秒」で設定して下さい。

■追加 AT コマンドを使用する

追加 AT コマンドを使用する場合、「追加 AT コマンドを使用する」チェックを入れ、AT コマンドを入力して下さい。
複数の AT コマンドを設定する場合「\n」もしくは「¥n」で区切って入力して下さい。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

「3-3-4.プライマリ接続・セカンダリ接続共通設定」(62 ページ)へ進んで下さい。

IP アドレス固定 (有線 WAN)

セカンダリ接続に有線 WAN ポート (IP アドレス固定) を使用する場合の設定について説明します。

有線 WAN 機能について
本製品の ETH1 ポートを有線 WAN ポートとして利用します。設定完了後、WAN 側回線を ETH1 ポートに接続して下さい。
有線 WAN 機能は、IP マスカレード (NAPT) 変換固定となります。 複数 IP アドレスの設定、NAT 変換、アンナンバード接続には対応していませんのでご注意ください。
回線冗長化機能で有線 WAN ポートを使用する場合、ETH1 ポートは有線 WAN ポート固定動作となります。 有線 LAN ポートとして使用できなくなりますのでご注意ください。

WANセカンダリ接続を有効にする

WAN側接続モード

プライマリ通信確認間隔 (0~86400秒)※

IPアドレス

サブネットマスク

デフォルトゲートウェイ

MTUサイズ (1400~1500バイト)

DNS

プライマリDNS

セカンダリDNS

※: プライマリ通信確認動作中はWAN側の通信が行えなくなります。
0を指定した場合、確認動作は行われません。

■WAN セカンダリ接続を有効にする (チェックボックス)

チェックを入れて下さい。

■WAN 側接続モード

「IP アドレス固定」を選択して下さい。

■プライマリ通信確認間隔

セカンダリ接続で動作中にプライマリ接続の通信を確認する場合、確認間隔を秒単位で入力して下さい。

セカンダリ接続へ切り替え後、ここで設定した秒数経過すると一度セカンダリ接続を切断してプライマリ接続へ切り替えます。

プライマリ接続へ切り替え後、回線状態監視を行い、成功すればプライマリ接続のまま動作します。

失敗した場合は、もう一度セカンダリ接続に切り替えます。

「0」を設定した場合、プライマリ接続の通信確認を行いません。

セカンダリ接続に切り替わった後は、GM3L を再起動するまでセカンダリ接続のまま動作します。

■IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ

WAN 側の IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力して下さい。

■DNS

プライマリ DNS、セカンダリ DNS に DNS サーバー IP アドレスを入力して下さい。

DNS サーバーを使用しない場合「未使用」を選択して下さい。

■MTU サイズ

MTU (Maximum Transmission Unit) サイズを変更する場合、MTU サイズを入力して下さい。

通常は初期値「1500」のままご利用下さい。

設定が終わりましたら、[設定保存] ボタンをクリックして下さい。

「3-3-4.プライマリ接続・セカンダリ接続共通設定」(62 ページ)へ進んで下さい。

DHCP クライアント(有線 WAN)

セカンダリ接続に有線 WAN ポート(DHCP クライアント)を使用する場合の設定について説明します。

有線 WAN 機能について
本製品の ETH1 ポートを有線 WAN ポートとして利用します。設定完了後、WAN 側回線を ETH1 ポートに接続して下さい。
有線 WAN 機能は、IP マスカレード(NAPT)変換固定となります。 複数 IP アドレスの設定、NAT 変換、アンナンバード接続には対応していませんのでご注意下さい。
回線冗長化機能で、有線 WAN ポートを使用する場合、ETH1 ポートは有線 WAN ポート固定動作となります。 有線 LAN ポートとして使用できなくなりますのでご注意下さい。

WANセカンダリ接続を有効にする

WAN側接続モード

プライマリ通信確認間隔 (0~86400秒) ※

ホスト名

MTUサイズ (1000~1500/バイト)

DNS

プライマリDNS

セカンダリDNS

IP取得待ち時間 時 分 秒 (0~16時間) ※1

※： プライマリ通信確認動作中はWAN側の通信が行えなくなります。
0を指定した場合、確認動作は行われません。

※1： 0を設定した場合、IPアドレスが取得出来るまで待ち続けます。

■WAN セカンダリ接続を有効にする(チェックボックス)

チェックを入れて下さい。

■WAN 側接続モード

「**DHCP クライアント**」を選択して下さい。

■プライマリ通信確認間隔

セカンダリ接続で動作中にプライマリ接続の通信を確認する場合、確認間隔を秒単位で入力して下さい。

セカンダリ接続へ切り替え後、ここで設定した秒数経過すると一度セカンダリ接続を切断してプライマリ接続へ切り替えます。
プライマリ接続へ切り替え後、回線状態監視を行い、成功すればプライマリ接続のまま動作します。
失敗した場合は、もう一度セカンダリ接続に切り替えます。

「0」を設定した場合、プライマリ接続の通信確認を行いません。

セカンダリ接続に切り替わった後は、GM3Lを再起動するまでセカンダリ接続のまま動作します。

■ホスト名

WAN 側ネットワーク管理者から指定があった場合、ホスト名を入力して下さい。

指定が無い場合は、初期値のままご利用下さい。

■MTU サイズ

MTU(Maximum Transmission Unit)サイズを変更する場合、MTU サイズを入力して下さい。

通常は初期値「1500」のままご利用下さい。

■DNS

DNS サーバーIP アドレスを自動取得する場合「自動取得」を選択して下さい。

DNS サーバーIP アドレスを設定する場合「手動設定」を選択してプライマリ DNS、セカンダリ DNS に DNS サーバー IP アドレスを入力して下さい。

DNS サーバーを使用しない場合「未使用」を選択して下さい。

■IP 取得待ち時間

IP アドレスを取得できるまでの待ち時間を入力して下さい。

ここで設定した時間内に IP アドレスを取得できなかった場合、MR-GM3 が再起動します。(プライマリ接続へ切り替え)

通常は初期値「30 秒」のままご利用下さい。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

「3-3-4.プライマリ接続・セカンダリ接続共通設定」(62 ページ)へ進んで下さい。

PPPoE クライアント(有線 WAN)

セカンダリ接続に有線 WAN ポート(PPPoE クライアント)を使用する場合の設定について説明します。

有線 WAN 機能について
本製品の ETH1 ポートを有線 WAN ポートとして利用します。設定完了後、WAN 側回線を ETH1 ポートに接続して下さい。
PPPoE クライアント接続は、PPPoE シングルセッション接続、WAN 側 IP アドレス自動取得、IP マスカレード変換 (NAPT) 固定となります。PPPoE マルチセッション接続、IP アドレスの固定設定、複数 IP アドレスの設定、NAT 変換、アンナンバード接続には対応していませんのでご注意ください。
回線冗長化機能で、有線 WAN ポートを使用する場合、ETH1 ポートは有線 WAN ポート固定動作となります。有線 LAN ポートとして使用できなくなりますのでご注意ください。

WANセカンダリ接続を有効にする

WAN側接続モード

プライマリ通信確認間隔 (0~86400秒) ※

ユーザー名

パスワード

サービス名
(プロバイダから特に指定がない場合は空欄)

接続モード

無通信監視時間 (1~1000分)

MTUサイズ (1360~1492バイト)

DNS

プライマリDNS

セカンダリDNS

PPP接続待ち時間 時 分 秒 (0~16時間) ※1

PPP接続リトライ (0~9回) ※2

※： プライマリ通信確認動作中はWAN側の通信が行えなくなります。
0を指定した場合、確認動作は行われません。

※1： 0を設定した場合、PPP接続出来るまで待ち続けます。

※2： 0を設定した場合、リトライし続けます。

■WAN セカンダリ接続を有効にする(チェックボックス)

チェックを入れて下さい。

■WAN 側接続モード

「PPPoE クライアント」を選択して下さい。

■プライマリ通信確認間隔

セカンダリ接続で動作中にプライマリ接続の通信を確認する場合、確認間隔を秒単位で入力して下さい。

セカンダリ接続へ切り替え後、ここで設定した秒数経過すると一度セカンダリ接続を切断してプライマリ接続へ切り替えます。プライマリ接続へ切り替え後、回線状態監視を行い、成功すればプライマリ接続のまま動作します。失敗した場合は、もう一度セカンダリ接続に切り替えます。

「0」を設定した場合、プライマリ接続の通信確認を行いません。

セカンダリ接続に切り替わった後は、GM3L を再起動するまでセカンダリ接続のまま動作します。

■ユーザー名、パスワード

契約資料を参照して「認証 ID(ユーザー名)」、「認証パスワード」を入力して下さい。

■サービス名

契約プロバイダから特に指定がない場合は空欄にして下さい。

〈次ページへ進んで下さい〉

■接続モード

「常時接続」を選択して下さい。



回線冗長化機能は、接続モード「常時接続」時のみ使用できます。

■無通信監視時間

接続モードが「常時接続」の場合、設定できません。

■MTU サイズ

MTU (Maximum Transmission Unit) サイズを変更する場合、MTU サイズを入力して下さい。

通常は初期値「1452」のままご利用下さい。

■DNS

DNS サーバーIP アドレスを自動取得する場合「自動取得」を選択して下さい。

DNS サーバーIP アドレスを設定する場合「手動設定」を選択してプライマリ DNS、セカンダリ DNS に DNS サーバー IP アドレスを入力して下さい。

DNS サーバーを使用しない場合「未使用」を選択して下さい。

■PPP 接続待ち時間

PPP 接続の応答待ち時間を設定します。

ここで設定した時間内に応答が無い場合、PPP の再接続を行います。

通常は初期値「40 秒」のままご利用下さい。

■PPP 接続リトライ

PPP 接続に失敗した場合のリトライ回数を設定します。

ここで設定した回数連続して失敗した場合、MR-GM3 が再起動します。(プライマリ接続へ切り替え)

通常は初期値「5 回」のままご利用下さい。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

「3-3-4.プライマリ接続・セカンダリ接続共通設定」(次ページ)へ進んで下さい。

3-3-4.プライマリ接続・セカンダリ接続共通設定

プライマリ接続・セカンダリ接続共通の設定項目について説明します。

<input type="checkbox"/>	UPnPを有効にする
<input checked="" type="checkbox"/>	IPsecパススルーを有効にする
<input checked="" type="checkbox"/>	PPTPパススルーを有効にする
<input checked="" type="checkbox"/>	L2TPパススルーを有効にする
<input type="checkbox"/>	IPv6パススルーを有効にする
<input type="checkbox"/>	NetBIOS over TCP/IP、Microsoft-DSの透過を有効にする
<input checked="" type="checkbox"/>	高速パケット処理(FastPath)を有効にする
UDPセッション時間(単方向)	<input type="text" value="60"/> (0~3600秒)
UDPセッション時間(双方向)	<input type="text" value="90"/> (0~3600秒)
IP変換セッション数	<input type="text" value="2048"/> (2048~8192)
WAN側からのPing応答:有効	
アタック検出	<input type="text" value="5"/> 1秒間に許容するPingアクセス数。(0~100)
WAN側からの設定画面ログオン:有効	
アタック検出	<input type="text" value="30"/> 30秒間に許容する最大TCP/IPコネクション数。(0~100)

■UPnPを有効にする

UPnP(ユニバーサル・プラグ・アンド・プレイ)機能を使用する場合にチェックを入れて下さい。

■IPsec パススルーを有効にする

IPsec 通信プロトコルを使用して VPN 接続を行う場合、チェックを入れて下さい。

■PPTP パススルーを有効にする


PPTP 通信プロトコルを使用して VPN 接続を行う場合、チェックを入れて下さい。

■L2TP パススルーを有効にする

L2TP 通信プロトコルを使用して VPN 接続を行う場合、チェックを入れて下さい。

■IPv6 パススルーを有効にする

IPv6 での通信を行う場合、チェックを入れて下さい。

	本機能は有線 WAN 接続でのみ使用できます。
	本機能は IPv6 パケットをパススルー(ブリッジ)する機能です。

■NetBIOS over TCP/IP、Microsoft-DS の透過を有効にする

WAN 側との NetBIOS over TCP/IP、Microsoft-DS の通信 (Windows ファイル共有) を透過する場合、チェックを入れて下さい。

■高速パケット処理(FastPath)を有効にする

高速パケット処理(ファストパス)を無効にする場合、チェックを外して下さい。

■UDP セッション時間(単方向)、UDP セッション時間(双方向)

UDP パケットのセッション情報の保持時間を設定します。通常は初期値(単方向 60 秒、双方向 90 秒)のままご利用下さい。

■IP 変換セッション数

IP アドレス変換の最大セッション数を設定します。通常は初期値(2048)のままご利用下さい。

■WAN 側からの Ping 応答

WAN 側からの Ping 応答の状態を表示します。

有効にする場合は、「4-7.WAN 側からの Ping 応答を返す場合の設定方法」(76 ページ)を参照して下さい。

・アタック検出

WAN 側からの Ping 応答が有効の時に設定が可能です。

1 秒間に許容する Ping のアクセス回数を設定します。

■WAN 側から設定画面ログオン

WAN 側から設定画面ログオンの状態を表示します。


有効にする場合は、「4-6.WAN 側から設定画面へのログオンを行う場合の設定方法」(74 ページ)を参照して下さい。

・アタック検出

WAN 側から設定画面ログオンが有効の時に設定が可能です。

30 秒間にここで設定した回数を超えて SYN フラグ(接続要求)を受信した場合、その送信元 IP アドレスからの SYN フラグを 300 秒間拒否します。

拒否している状態でも、送信元 IP アドレスが違う WAN 側からのログオンや LAN 側からのログオンは制限されません。

	回数が少なすぎると、正しいログオンでの操作でも拒否されてしまう可能性があります。
	通常は初期値「30」のままご利用下さい。

「3-3-5.回線監視の設定」(次ページ)へ進んで下さい。

3-3-5.回線監視の設定

回線冗長化機能を使用する場合、必ず回線監視設定を行って下さい。

確認	本項目に誤った設定を行うと回線冗長化機能が正しく動作しませんのでご注意ください。
	回線監視機能の設定はプライマリ接続・セカンダリ接続共通となります。

回線監視機能	使用しない
発行間隔	5分
連続失敗検出回数	1 (1~60)
<input type="checkbox"/> 回線監視通信の送信元にLAN側IPアドレスを使用する	
宛先1	<input type="text"/>
宛先2	<input type="text"/>
宛先3	<input type="text"/>

■回線監視機能

PING(ICMP パケット)、または HTTP リクエストによる回線監視が可能です。
「PING による監視」もしくは「HTTP による監視」のいずれかを選択して下さい。
「PING による監視」は PING 応答があった場合に回線接続状態と判断します。
「HTTP による監視」は HTTP リクエストに対して応答があった場合に回線接続状態と判断します。

・発行間隔

→監視間隔を設定して下さい。
PING による監視: (10/20/30/40/50 秒、1/5/15/30/45/60 分)
HTTP による監視: (1/5/15/30/45/60 分)

・連続失敗検出回数

→ここで設定した回数、連続して監視に失敗すると、回線切断状態と判断します。

・回線監視通信の送信元に LAN 側 IP アドレスを使用する(チェックボックス)

→回線監視通信を VPN 接続先拠点と行う場合チェックを入れて下さい。

・宛先 1~3

→監視先を FQDN(ドメイン名)もしくは IP アドレスで設定して下さい。

確認	設定した全ての宛先への監視に失敗した場合、回線切断状態と判断します。
	いずれかの宛先への監視に成功した場合は、回線接続状態と判断します。
	「監視失敗」の連続回数が連続失敗検出回数に達すると、セカンダリ接続に切り替えます。
	セカンダリ接続で回線監視に失敗した場合、MR-GM3 は再起動します。
	FQDN の名前解決はできるが PING や HTTP リクエストに応答しない宛先を登録した場合、応答無しと判断しますのでご注意ください。

全ての設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

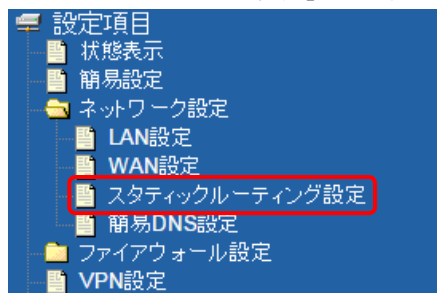
以下の画面が表示されますので、すぐに設定を反映させる場合は[今すぐ再起動]ボタンを、引き続き設定を行う場合は[後で再起動]ボタンをクリックして下さい。

<p>設定は正常に保存されました。</p> <p>変更を動作に反映させるためには、プロセスを再起動する必要があります。</p> <p>今すぐ再起動を行いますか？ 他の設定を行った後、再起動を行いますか？</p> <p><input type="button" value="今すぐ再起動"/> <input type="button" value="後で再起動"/></p>

3-4.スタティックルーティング設定

特定の宛先への通信を LAN 内の別のルーターへルーティングするための、スタティックルーティング設定について説明します。設定メニューの「ネットワーク設定」より「スタティックルーティング設定」をクリックして下さい。

「スタティックルーティング設定」画面が開きます。



スタティックルーティング設定

特定宛先へのスタティック(静的)ルーティング情報の設定を行います。

スタティックルーティングを有効にする

宛先IPアドレス

サブネットマスク

スタティックルーティング設定

特定宛先へのスタティック(静的)ルーティング情報の設定を行います。

スタティックルーティングを有効にする

宛先IPアドレス

サブネットマスク

ゲートウェイ

メトリック

スタティックルーティング 登録リスト(10エントリーまで登録可能)

宛先IPアドレス	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック	選択
192.168.1.0	255.255.255.0	192.168.0.254	1	<input type="checkbox"/>

確認

デフォルトゲートウェイは WAN 側固定となります。

■スタティックルーティングを有効にする(チェックボックス)

スタティックルーティング機能を有効にする場合、チェックを入れて下さい。

■宛先 IP アドレス、サブネットマスク

宛先(送信先)の IP アドレス/サブネットマスクを入力して下さい。

■ゲートウェイ

ルーティング先ゲートウェイ(LAN 内の別ルーター)の IP アドレスを入力して下さい。

■メトリック

メトリック(ルーティングの優先順位)を入力して下さい。

ルーティング先ゲートウェイが複数存在しない場合は、「1」を入力して下さい。

■リストへ登録・設定保存(ボタン)

入力した内容を登録リストに登録します。

[今すぐ再起動]ボタンを押すと動作に反映されます。引き続き設定を行う場合は[後で再起動]ボタンをクリックして下さい。

■選択したエントリを削除(ボタン)

スタティックルーティング登録リストの「選択」にチェックを入れたものを削除されます。

[今すぐ再起動]ボタンを押すと動作に反映されます。引き続き設定を行う場合は[後で再起動]ボタンをクリックして下さい。

■全て削除(ボタン)

スタティックルーティング登録リストの内容全てを削除します。

[今すぐ再起動]ボタンを押すと動作に反映されます。引き続き設定を行う場合は[後で再起動]ボタンをクリックして下さい。

3-5.簡易 DNS 設定

簡易 DNS 設定について説明します。

設定メニューの「ネットワーク設定」より「簡易 DNS 設定」をクリックして下さい。

「簡易 DNS 設定」画面が開きます。

設定項目

- 状態表示
- 簡易設定
- ネットワーク設定
 - LAN設定
 - WAN設定
 - スタティックルーティング設定
 - 簡易DNS設定**
 - ファイアウォール設定
- VPN設定
- QoS設定
- その他

簡易DNS設定

ローカル環境等での簡易DNSエントリ

IPアドレス

ホスト名

コメント

簡易DNS設定

ローカル環境等での簡易DNSエントリの設定を行います。

IPアドレス

ホスト名 (最大255文字)

コメント (最大63文字)

簡易DNS登録リスト (10エントリまで登録可能)

IPアドレス	ホスト名	コメント	選択
192.168.0.100	example.com	サーバー	<input type="checkbox"/>



簡易 DNS 機能を使用するためには、パソコン等端末の DNS サーバーIP アドレスに MR-GM3L の IP アドレスを設定する必要があります。

■IP アドレス

登録するホストの IP アドレスを入力して下さい。

■ホスト名

登録するホスト名を半角英数字で入力して下さい。

Windows パソコンから本機能を利用する場合は必ず「.」(ドット)を含むホスト名を設定して下さい。

■コメント

登録する設定内容が判別しやすいように、コメントを入力して下さい。

■設定保存(ボタン)

入力した内容を簡易 DNS テーブルに登録します。

[今すぐ再起動]ボタンを押すと動作に反映されます。引き続き設定を行う場合は後で[再起動]ボタンをクリックして下さい。



最大 10 エントリまで登録可能です。

■選択したエントリを削除(ボタン)

簡易 DNS テーブルの「選択」にチェックを入れたものを削除されます。

[今すぐ再起動]ボタンを押すと動作に反映されます。引き続き設定を行う場合は後で「再起動」ボタンをクリックして下さい。

■全て削除(ボタン)

簡易 DNS テーブルの内容全てを削除します。


[今すぐ再起動]ボタンを押すと動作に反映されます。引き続き設定を行う場合は後で[再起動]ボタンをクリックして下さい。

4.ファイアウォール設定

IP フィルタリング設定、ドメインフィルタリング設定、MAC フィルタリング設定、ポートフォワーディング設定、DMZ ホスト設定について説明します。

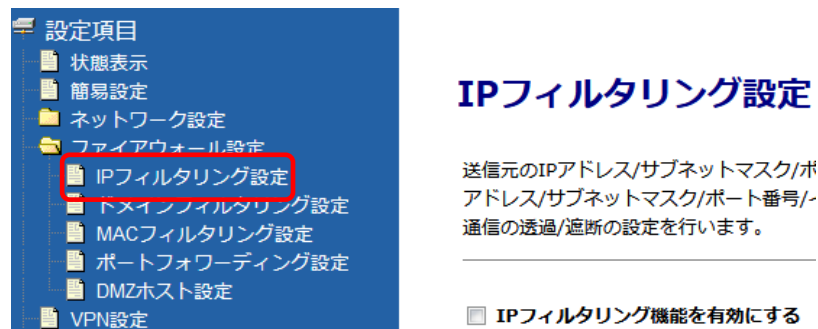
4-1.IP フィルタリング設定

IP アドレス、プロトコルを基に通信を透過する、IP フィルタリング設定について説明します。

	IP フィルタリング機能は、透過が基本動作となります。
	IP フィルタリングの対象となるのは、LAN→WAN、WAN→LAN、LAN→自機、WAN→自機方向のみです。LAN→LAN 方向を設定する事はできません。
	IP フィルタリング機能は、設定保存、登録リストの編集が即動作に反映されます。

設定メニューの「ファイアウォール設定」より「IP フィルタリング設定」をクリックして下さい。

「IP フィルタリング設定」画面が開きます。



IPフィルタリング設定

送信元のIPアドレス/サブネットマスク/ポートアドレス/サブネットマスク/ポート番号/通信の透過/遮断の設定を行います。

IPフィルタリング機能を有効にする

IPフィルタリング設定

送信元のIPアドレス/サブネットマスク/ポート番号/インターフェースと、宛先のIPアドレス/サブネットマスク/ポート番号/インターフェースの組み合わせに対して、通信の透過/遮断の設定を行います。

IPフィルタリング機能を有効にする

送信元IPアドレス/マスク / (1~32)

宛先IPアドレス/マスク / (1~32)

プロトコル ▼

送信元ポート - (0~65535)

宛先ポート - (0~65535)

送信元インターフェース ▼

宛先インターフェース ▼

フィルタ動作 ▼

コメント (半角英数字20文字以内)

■IP フィルタリング機能を有効にする(チェックボックス)

IP フィルタリング機能を有効にする場合、チェックを入れて下さい。

チェックを外した場合、登録リストに関係無く全て透過します。

■送信元 IP アドレス/マスク

送信元の IP アドレスとサブネットマスクを入力して下さい。

指定しない(any)場合は空欄にして下さい。

■宛先 IP アドレス/マスク

宛先の IP アドレスとサブネットマスクを入力して下さい。

指定しない(any)場合は空欄にして下さい。

<次ページへ進んで下さい>

■プロトコル

対象とするプロトコルを選択して下さい。

- any :全てのプロトコルを対象とします。
- TCP+UDP :TCP、UDP プロトコル両方を対象とします。
- TCP :TCP プロトコルを対象とします。
- UDP :UDP プロトコルを対象とします。
- ICMP :ICMP (PING)プロトコルを対象とします。

■送信元ポート

送信元のポート番号を入力して下さい。(範囲設定可)

単一ポートを対象とする場合は、左側の入力欄のみ設定して下さい。

ポート番号を指定しない(any)場合は、空欄にして下さい。

■宛先ポート

宛先のポート番号を入力して下さい。(範囲設定可)

単一ポートを対象とする場合は、左側の入力欄のみ設定して下さい。

ポート番号を指定しない(any)場合は、空欄にして下さい。

■送信元インターフェース、宛先インターフェース

対象とする通信の方向を選択します。

- any :WAN ポート、LAN ポート両方を対象とします。(自機は含まれません。)
- WAN :WAN ポートを対象とします。
- LAN :LAN ポートを対象とします。
- 自機 :MR-GM3L への通信を対象とします。(宛先インターフェースにのみ表示)

送信元インターフェース:LAN 宛先インターフェース:WAN とした場合、LAN→WAN 方向

送信元インターフェース:WAN 宛先インターフェース:LAN とした場合、WAN→LAN 方向

となります。



IP フィルタリングの対象となるのは、LAN→WAN、WAN→LAN、LAN→自機、WAN→自機方向のみです。
LAN→LAN 方向を設定することはできません。

■フィルタ動作

登録するフィルタの動作を選択して下さい。

■コメント

登録する設定内容が判別しやすいように、コメントを入力して下さい。

■リストへ登録・設定保存(ボタン)

入力した内容が登録リストに登録され、動作に反映されます。



最大 64 エントリまで登録可能です。

IPフィルタリング 登録リスト (64エントリまで登録可能)

送信元IP/マスク	宛先IP/マスク	プロトコル	送信元ポート	宛先ポート	送信元I/F	宛先I/F	フィルタ動作	コメント	選択
192.168.10.100/28	any	TCP	any	80 - 80	WAN	LAN	透過		<input type="checkbox"/>
any	any	TCP	any	80 - 80	WAN	LAN	遮断		<input type="checkbox"/>

選択したエントリを編集

選択したエントリを一つ上げる

選択したエントリを一つ下げる

選択したエントリを削除

全て削除



送信元 IP アドレス、宛先 IP アドレス、及び送信元ポート番号、宛先ポート番号の両方を設定した場合は「AND 条件」となります。

登録リストの順番が、そのまま処理の「優先順位」になります。

<次ページへ進んで下さい>

IPフィルタリング 登録リスト (64エントリまで登録可能)

送信元IP/マスク	宛先IP/マスク	プロトコル	送信元ポート	宛先ポート	送信元I/F	宛先I/F	フィルタ動作	コメント	選択
192.168.10.100/28	any	TCP	any	80 - 80	WAN	LAN	透過		<input type="checkbox"/>
any	any	TCP	any	80 - 80	WAN	LAN	遮断		<input type="checkbox"/>
<input type="button" value="選択したエントリを編集"/>		<input type="button" value="選択したエントリを一つ上げる"/>		<input type="button" value="選択したエントリを一つ下げる"/>					
<input type="button" value="選択したエントリを削除"/>		<input type="button" value="全て削除"/>							

■ 選択したエントリを編集(ボタン)


登録リストの「選択」にチェックを入れたものを編集します。

■ 選択したエントリを一つ上げる(ボタン)

登録リストの「選択」にチェックを入れたものを一つ上に移動します。

■ 選択したエントリを一つ下げる(ボタン)

登録リストの「選択」にチェックを入れたものを一つ下に移動します。

	複数のエントリを同時に移動する事はできません。
---	-------------------------

■ 選択したエントリを削除(ボタン)

登録リストの「選択」にチェックを入れたものを削除します。

■ 全て削除(ボタン)

登録リストの内容全てを削除します。

<設定例 1: IP アドレス「192.168.10.100/32」宛の通信のみ許可する>

送信元IP/マスク	宛先IP/マスク	プロトコル	送信元ポート	宛先ポート	送信元I/F	宛先I/F	フィルタ動作	コメント	選択
any	192.168.10.100/32	any	any	any	LAN	WAN	透過		<input type="checkbox"/>
any	any	any	any	any	LAN	WAN	遮断		<input type="checkbox"/>

<設定例 2: IP アドレス「192.168.10.100/32」からの通信のみ、LAN 内の WEB サーバーへのアクセスを許可する>

送信元IP/マスク	宛先IP/マスク	プロトコル	送信元ポート	宛先ポート	送信元I/F	宛先I/F	フィルタ動作	コメント	選択
192.168.10.100/32	any	TCP	any	80 - 80	WAN	LAN	透過		<input type="checkbox"/>
any	any	TCP	any	80 - 80	WAN	LAN	遮断		<input type="checkbox"/>

4-2.ドメインフィルタリング設定

特定のドメイン名への通信を遮断する、ドメインフィルタリング設定について説明します。

確認

ドメインフィルタリング機能は、透過が基本動作となります。

ドメインフィルタリング機能は、LAN→WAN 方向の通信に適用されます。

設定メニューの「ファイアウォール設定」より「ドメインフィルタリング設定」をクリックして下さい。

「ドメインフィルタリング設定」画面が開きます。

遮断する通信をドメイン名/プロトコル/ポート番号の組み合わせで設定を行います。

ドメインフィルタリング機能を有効にする

ドメイン名 (最大128文字)

プロトコル

宛先ポート - (0~65535)

コメント (半角英数字20文字以内)

ドメインフィルタリング 登録リスト (64エントリまで登録可能)

ドメイン名	プロトコル	宛先ポート	送信元I/F	宛先I/F	コメント	選択
example1.jp	TCP	80 - 80	WAN	any		<input type="checkbox"/>

■ドメインフィルタリング機能を有効にする(チェックボックス)

ドメインフィルタリング機能を有効にする場合、チェックを入れて下さい。

■ドメイン名

遮断するドメイン名を入力して下さい。

■プロトコル

対象とするプロトコルを選択して下さい。

- any : 全てのプロトコルを対象とします。
- TCP+UDP : TCP、UDP プロトコル両方を対象とします。
- TCP : TCP プロトコルを対象とします。
- UDP : UDP プロトコルを対象とします。
- ICMP : ICMP (PING) プロトコルを対象とします。

■宛先ポート

宛先のポート番号を入力して下さい。(範囲設定可)
単一ポートを対象とする場合は、左側の入力欄のみ設定して下さい。
ポート番号を指定しない(any)場合は、空欄にして下さい。

■コメント

登録する設定内容が判別しやすいように、コメントを入力して下さい。

■リストへ登録・設定保存(ボタン)

入力した内容が登録リストに登録され、動作に反映されます。

確認

最大 64 エントリまで登録可能です。

■選択したエントリを編集(ボタン)

登録リストの「選択」にチェックを入れたものを編集します。

■選択したエントリを削除(ボタン)

登録リストの「選択」にチェックを入れたものを削除します。

■全て削除(ボタン)

登録リストの内容全てを削除します。

4-3.MAC フィルタリング設定

送信元の MAC (物理) アドレスを基に通信を遮断する、MAC フィルタリング設定について説明します。

確認	MAC フィルタリング機能は、LAN→MR-GM3L、LAN→インターネット方向の通信に適用されます。
	MAC フィルタリング機能は、送信元 MAC アドレスにより通信を遮断します。 宛先 MAC アドレスによる通信遮断はできませんのでご注意ください。
	本設定で登録した MAC アドレスからは設定画面にアクセスできなくなります。

設定メニューの「ファイアウォール設定」より「MAC フィルタリング設定」をクリックして下さい。

「MAC フィルタリング設定」画面が開きます。

MAC フィルタリング設定

本機の LAN 側からインターネット方向の MAC フィルタリング設定を行います。
フィルタリング (遮断) の対象とする MAC アドレスを設定して下さい。

MAC フィルタリング機能を有効にする

MAC アドレス

コメント (半角英数字20文字以内)

MAC フィルタリング 登録リスト (20 エントリまで登録可能)

MAC アドレス	コメント	選択
00:10:38:11:11:11	PC2	<input type="checkbox"/>

■MAC フィルタリング機能を有効にする(チェックボックス)

MAC フィルタリング機能を有効にする場合、チェックを入れて下さい。

■MAC アドレス

遮断する送信元 MAC アドレスを入力して下さい。

MAC アドレスは「:」(コロン)無しで入力して下さい。

■コメント

登録する設定内容が判別しやすいように、コメントを入力して下さい。

■リストへ登録・設定保存(ボタン)

入力した内容が登録リストに登録され、動作に反映されます。

確認	最大 20 エントリまで登録可能です。
----	---------------------

■選択したエントリを削除(ボタン)

登録リストの「選択」にチェックを入れたものが削除され、動作に反映されます。

■全て削除(ボタン)

登録リストの内容全てが削除され、動作に反映されます。

4-4.ポートフォワーディング設定

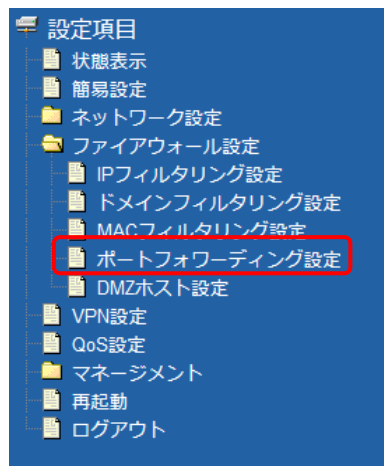
ポートフォワーディング設定について説明します。

ポートフォワーディング機能を使用することにより、WAN 側 IP アドレス宛の通信を LAN 側へフォワード(転送)することができます。

確認	ポートフォワーディング設定には、「使用するプロトコル」、「使用するポート番号」の情報がが必要です。
	ポートフォワーディング機能とDMZ ホスト機能を同時に使用した場合、DMZ ホスト機能が優先されます。
	本設定で、ICMP プロトコルを登録した場合、「WAN 側からの Ping 応答を返す」設定は無効になります。
	本設定で設定するポート番号と、「WAN 側から設定画面へのログオンを許可する」設定のポート番号が重複した場合、ポートフォワーディング設定が優先されます。
	本機能は、プロバイダから付与される IP アドレスが「グローバル IP アドレス」の場合のみ利用できます。付与される IP アドレスが「プライベート IP アドレス」の場合は、利用することはできません。

設定メニューの「ファイアウォール設定」より「ポートフォワーディング設定」をクリックして下さい。

「ポートフォワーディング設定」画面が開きます。



ポートフォワーディング設定

WAN (インターネット) 側から本機のWAN側IPアドレス(転送)するための設定を行います。

転送先のLAN側のIPアドレス、プロトコル、宛先ポートを設定して下さい。

- 「宛先ポート」をそのまま「転送先IPアドレス」へは設定不要です。
- 「宛先ポート」を別のポートへ変換して「転送先IP(変換)ポート」を設定して下さい。
- 「宛先ポート」の範囲(先頭～終了)を指定する場できません。

<input checked="" type="checkbox"/>	ポートフォワーディング機能を有効にする				
転送先IPアドレス	<input type="text" value="192.168.0.10"/>				
プロトコル	<input type="text" value="TCP"/>				
宛先ポート範囲	先頭 <input type="text" value="21"/> - 終了 <input type="text"/> (1~65535)				
転送先(変換)ポート	<input type="text"/> (1~65535)				
コメント	<input type="text" value="FTP"/> (半角英数字20文字以内)				
<input type="button" value="リストへ登録・設定保存"/>					
ポートフォワーディング 登録リスト(64エントリまで登録可能)					
転送先IPアドレス	プロトコル	宛先ポート範囲	転送先(変換)ポート	コメント	選択
192.168.0.100	ICMP	----	----	PING	<input type="checkbox"/>
192.168.0.200	TCP	80	8080	Camera	<input type="checkbox"/>
192.168.0.253	TCP+UDP	4000-5000	(宛先ポート変換無し)	Server	<input type="checkbox"/>
<input type="button" value="選択したエントリを削除"/>		<input type="button" value="全て削除"/>			

■ポートフォワーディング機能を有効にする(チェックボックス)

ポートフォワーディング機能を有効にする場合、チェックを入れて下さい。

■転送先 IP アドレス

フォワード(転送)する LAN 側端末の IP アドレスを入力して下さい。

確認	転送先の端末は IP アドレスを固定設定することを推奨します。
----	---------------------------------

<次ページへ進んで下さい>

■プロトコル

対象とするプロトコルを選択して下さい。

- TCP+UDP :TCP、UDP プロトコル両方を対象とします。
- TCP :TCP プロトコルを対象とします。
- UDP :UDP プロトコルを対象とします。
- ICMP :ICMP (PING)プロトコルを対象とします。

■宛先ポート範囲(先頭、終了)

フォワード(転送)するポート番号を入力して下さい。

ポート番号を範囲で指定する事も可能です。

ポート番号を1つだけ指定する場合は、先頭のみ入力して下さい。

確認

宛先ポートを範囲で指定する場合は、ポートを変換することはできません

■転送先(変換)ポート

LAN 側端末へ転送する際の転送先ポート番号を設定します。

宛先ポート番号を別のポート番号へ変換して転送することができます。

■コメント

登録する設定内容が判別しやすいように、コメントを入力して下さい。

■リストへ登録・設定保存(ボタン)

入力した内容が登録リストに登録され、動作に反映されます。

確認

最大 64 エントリまで登録可能です。

■選択したエントリを削除(ボタン)

登録リストの「選択」にチェックを入れたものが削除され、動作に反映されます。

■全て削除(ボタン)

登録リストの内容全てが削除され、動作に反映されます。

確認


WAN 側からアクセスする場合、本製品の WAN 側の IP アドレスを指定して下さい。


WAN 側の IP アドレスは、設定画面トップの状態表示(18 ページ)の「IP アドレス」欄で調べることができます。

4-5.DMZ ホスト設定

DMZ ホスト設定について説明します。

DMZ ホスト機能を使用することにより、WAN 側 IP アドレス宛の全ての通信を、LAN 内の特定の IP アドレスへ転送することができます。

 注意	転送先 IP アドレスに設定した端末は、セキュリティが低下しますので注意して下さい。 (必要に応じて、端末側でセキュリティ対策を行って下さい。)
---	---

 確認	DMZ ホスト機能とポートフォワーディング機能を同時に使用した場合、DMZ ホスト機能が優先されます。 DMZ ホスト機能を有効にした場合、「WAN 側からの Ping 応答を返す」設定と「WAN 側から設定画面へのログオンを許可する」設定は無効になります。 本機能は、プロバイダから付与される IP アドレスが「グローバル IP アドレス」の場合のみ利用できます。 付与される IP アドレスが「プライベート IP アドレス」の場合は、利用することはできません。
---	---

設定メニューの「ファイアウォール設定」より「DMZ ホスト設定」をクリックして下さい。

「DMZ ホスト設定」画面が開きます。




■DMZ ホスト機能を有効にする

DMZ ホスト機能を使用する場合、チェックを入れて下さい。


■転送先 IP アドレス

フォワード(転送)する LAN 側端末の IP アドレスを入力して下さい。

 確認	転送先の端末は IP アドレスを固定設定することを推奨します。
---	---------------------------------

■設定保存(ボタン)

設定内容を保存し、動作に反映させます。

 確認	WAN 側からアクセスする場合、本製品の WAN 側の IP アドレスを指定して下さい。 WAN 側の IP アドレスは、設定画面トップの 状態表示(18 ページ)の「IP アドレス」欄で調べることができます。
---	--

4-6.WAN 側から設定画面へのログオンを行う場合の設定方法

WAN 側から設定画面へのログオンを行う場合の設定方法について説明します。



「WAN 側から設定画面へのログオンを許可する」設定にする場合、必ずユーザー名、パスワードを変更して下さい。変更方法は「7-8.ユーザー・パスワード設定」(100 ページ)を参照して下さい。

設定メニューの「ファイアウォール設定」より「IPフィルタリング設定」をクリックして下さい。

「IPフィルタリング設定」画面が開きます。

設定項目

- 状態表示
- 簡易設定
- ネットワーク設定
- ファイアウォール設定
 - IPフィルタリング設定**
 - ドメインフィルタリング設定
 - MACフィルタリング設定
 - ポートフォワーディング設定
 - DMZホスト設定
- VPN設定

IPフィルタリング設定

送信元のIPアドレス/サブネットマスク/ポートアドレス/サブネットマスク/ポート番号/通信の透過/遮断の設定を行います。

IPフィルタリング機能を有効にする

「IP フィルタリング機能を有効にする」にチェックを入れ、以下のテーブルを追加して下さい。

<input checked="" type="checkbox"/> IPフィルタリング機能を有効にする	
送信元IPアドレス/マスク	<input type="text"/> / <input type="text"/> (1~32)
宛先IPアドレス/マスク	<input type="text"/> / <input type="text"/> (1~32)
プロトコル	TCP ▼
送信元ポート	<input type="text"/> - <input type="text"/> (0~65535)
宛先ポート	80 - 80 (0~65535)
送信元インターフェース	WAN ▼
宛先インターフェース	自機 ▼
フィルタ動作	透過 ▼
コメント	<input type="text"/> (半角英数字20文字以内)
<input type="button" value="リストへ登録・設定保存"/>	

■送信元IP アドレス/マスク

特定の IP アドレスからのみ設定画面へのログオンを許可する場合、対象のIPアドレスとサブネットマスクを入力して下さい。指定しない場合は空欄にして下さい。

■宛先IP アドレス/マスク

空欄にして下さい。

■プロトコル

「TCP」を選択して下さい。

■送信元ポート番号

空欄にして下さい。

■宛先ポート番号

「80」を入力して下さい。

Web ポート(アクセスポート番号)を変更した場合は、変更したポート番号を入力して下さい。

Web ポート(アクセスポート番号)の変更方法は、「7-1.システム設定」(83 ページ)を参照して下さい。

■送信元インターフェース

「WAN」を選択して下さい。

■宛先インターフェース

「自機」を選択して下さい。

■フィルタ動作

「透過」を選択して下さい。

設定が完了しましたら、[リストへ登録・設定保存]ボタンをクリックして下さい。

〈次ページへ進んで下さい〉

IP フィルタリング登録リストに登録されます。

IPフィルタリング 登録リスト(64エントリまで登録可能)									
送信元P/マスク	宛先P/マスク	プロトコル	送信元ポート	宛先ポート	送信元I/F	宛先I/F	フィルタ動作	コメント	選択
any	any	TCP	any	80 - 80	WAN	自機	透過		<input type="checkbox"/>
選択したエントリを編集		選択したエントリを一つ上げる			選択したエントリを一つ下げる				
選択したエントリを削除		全て削除							

登録が完了すると、WAN 側から設定画面にログインする事が可能になります。

	アタック検出設定は、「ネットワーク設定」→「WAN 設定」画面内で設定して下さい。
---	---

●設定例:IP アドレス「192.168.10.100/32」からの設定画面へのログオンのみ許可する

送信元IP/マスク	宛先IP/マスク	プロトコル	送信元ポート	宛先ポート	送信元I/F	宛先I/F	フィルタ動作	コメント	選択
192.168.10.100/32	any	TCP	any	80 - 80	WAN	自機	透過		<input type="checkbox"/>

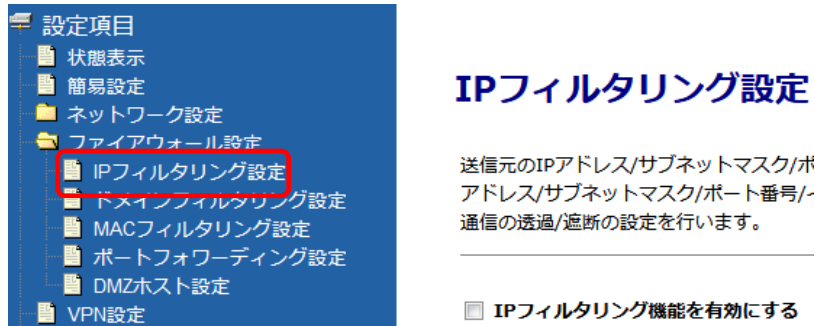
※複数の IP アドレスからの設定画面へのログオンを許可する場合、上記フィルタを複数登録して下さい。

4-7.WAN 側からの Ping 応答を返す場合の設定方法

WAN 側からの PING に応答を返す場合の設定方法について説明します。

設定メニューの「ファイアウォール設定」より「IPフィルタリング設定」をクリックして下さい。

「IPフィルタリング設定」画面が開きます。



「IP フィルタリング機能を有効にする」にチェックを入れ、以下のテーブルを追加して下さい。

<input checked="" type="checkbox"/>	IPフィルタリング機能を有効にする
送信元IPアドレス/マスク	<input type="text"/> / <input type="text"/> (1~32)
宛先IPアドレス/マスク	<input type="text"/> / <input type="text"/> (1~32)
プロトコル	ICMP ▼
送信元ポート	<input type="text"/> - <input type="text"/> (0~65535)
宛先ポート	<input type="text"/> - <input type="text"/> (0~65535)
送信元インターフェース	WAN ▼
宛先インターフェース	自機 ▼
フィルタ動作	透過 ▼
コメント	<input type="text"/> (半角英数字20文字以内)
<input type="button" value="リストへ登録・設定保存"/>	

■送信元IP アドレス/マスク

特定の IP アドレスからの PING にのみ応答する場合、対象のIPアドレスとサブネットマスクを入力して下さい。
指定しない場合は空欄にして下さい。

■宛先IP アドレス/マスク

空欄にして下さい。

■プロトコル

「ICMP」を選択して下さい。

■送信元ポート番号

空欄にして下さい。

■宛先ポート番号

空欄にして下さい。

■送信元インターフェース

「WAN」を選択して下さい。

■宛先インターフェース

「自機」を選択して下さい。

■フィルタ動作

「透過」を選択して下さい。

設定が完了しましたら、[リストへ登録・設定保存]ボタンをクリックして下さい。

<次ページへ進んで下さい>

IP フィルタリング登録リストに登録されます。

IPフィルタリング 登録リスト(64エントリまで登録可能)									
送信元IP/マスク	宛先IP/マスク	プロトコル	送信元ポート	宛先ポート	送信元I/F	宛先I/F	フィルタ動作	コメント	選択
any	any	ICMP	any	any	WAN	自機	透過		<input type="checkbox"/>
選択したエントリを編集		選択したエントリを一つ上げる			選択したエントリを一つ下げる				
選択したエントリを削除		全て削除							

登録が完了すると、WAN 側からの PING に応答します。

	アタック検出設定は、「ネットワーク設定」→「WAN 設定」画面内で設定して下さい。
---	---

●設定例:IP アドレス「192.168.10.100/32」からの PING にのみ応答を返す

送信元IP/マスク	宛先IP/マスク	プロトコル	送信元ポート	宛先ポート	送信元I/F	宛先I/F	フィルタ動作	コメント	選択
192.168.10.100/32	any	ICMP	any	any	WAN	自機	透過		<input type="checkbox"/>

※複数の IP アドレスからの PING に応答を返す場合、上記フィルタを複数登録して下さい。

5.VPN 設定

VPN(IPsec)接続設定について説明します。



本製品はインシエータ固定となります。
レスポンスとして動作しません。

設定メニューの「VPN 設定」をクリックして下さい。

「VPN 設定」画面が開きます。

設定項目

- 状態表示
- 簡易設定
- ネットワーク設定
- ファイアウォール設定
- VPN設定**
- QoS設定
- マネージメント
- 再起動
- ログアウト

VPN設定

IPsec VPN機能の設定を行います。

IPsec VPN機能を有効にする

トンネル接続先をデフォルトゲートウェイとし

5-1.VPN 設定画面

VPN設定

IPsec VPN機能の設定を行います。

IPsec VPN機能を有効にする

トンネル接続先をデフォルトゲートウェイとしない

VPN接続情報 WAN側IPアドレス: ***.***.***.***

選択	No	接続名	有効 無効	ローカル (LAN) 側 IPアドレス	リモート側1 IPアドレス	リモート側2 IPアドレス	リモート側3 IPアドレス	リモート側 ゲートウェイ	接続状態
<input checked="" type="radio"/>	1	IPsecVPN	有効	192.168.0.0/24	192.168.1.0/24	-	-	192.168.10.254	接続状態
<input type="radio"/>	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<input type="radio"/>	3	-	-	-	-	-	-	-	-

■IPsec VPN 機能を有効にする(チェックボックス)

IPsec VPN 機能を有効にする場合、チェックを入れて下さい。

■No.x のトンネル接続先をデフォルトゲートウェイとする(プルダウンメニュー)

VPN トンネルをデフォルトゲートウェイとして使用する場合に選択して下さい。

■設定保存(ボタン)

IPsec VPN 機能の有効/無効を切り替えた際に動作に反映させます。

■VPN 接続情報

登録されている VPN 接続情報と接続状態を表示します。

接続情報は 3 つまで登録できます。

■WAN 側 IP アドレス

WAN 側の IP アドレスを表示します。

■選択(ラジオボタン)

「編集」「削除」を行う VPN 接続情報を選択します。

■編集(ボタン)

選択した VPN 接続情報を編集します。

■削除(ボタン)

選択した接続情報を削除します。

■再読み込み(ボタン)

画面を再読み込みします。

5-2.VPN 接続先の設定画面

VPN 設定画面で接続先情報を選択し、[編集]ボタンをクリックすると「VPN 接続先の設定」画面が開きます。

接続先 No.1 を有効にする

接続名

ローカル (本機) 側 識別ID

IDタイプ

FQDN

NATトラバーサル

ローカル (LAN) 側 通信対象

アドレス種別

IPアドレス

サブネットマスク

リモート側 通信対象

通信対象1 アドレス種別

通信対象1 IPアドレス

通信対象1 サブネットマスク

通信対象2 アドレス種別

通信対象2 IPアドレス

通信対象2 サブネットマスク

通信対象3 アドレス種別

通信対象3 IPアドレス

通信対象3 サブネットマスク

ゲートウェイIPアドレス (接続先VPN機器)

接続先 No.1 を有効にする	本画面で設定する VPN 接続情報を有効にする場合、チェックを入れて下さい。
接続先名	接続先名称を任意で設定して下さい。 半角英数字 30 文字まで入力可能です。
ローカル(本機)側識別 ID	
ID タイプ FQDN	接続先 VPN 機器の識別方法に合わせて選択して下さい。 IP アドレス: 本製品の WAN 側 IP アドレスを入力して下さい。 FQDN: 識別名を入力して下さい。 ユーザーFQDN: 識別名を入力して下さい。
NATトラバーサル	NATトラバーサル機能の有効・無効を切り替えます。
ローカル(LAN)側通信対象	
アドレス種別	ローカル(LAN)側通信対象のアドレス種別を選択します。 ネットワークアドレス : ネットワークアドレスを対象とします。 単一ホスト : 単一 IP アドレスを対象とします。
IP アドレス	アドレス種別に合わせて、ネットワークアドレス(もしくは IP アドレス)を入力して下さい。
サブネットマスク	アドレス種別でネットワークアドレスを選択した場合、サブネットマスクを入力して下さい。
リモート側通信対象	
通信対象 1~3 アドレス種別	接続先 VPN 機器の LAN 側のアドレス種別を選択して下さい。 ネットワークアドレス : ネットワークアドレスを対象とします。 単一ホスト : 単一 IP アドレスを対象とします。
通信対象 1~3 IP アドレス	アドレス種別に合わせて、ネットワークアドレス(もしくは IP アドレス)を入力して下さい。
通信対象 1~3 サブネットマスク	アドレス種別でネットワークアドレスを選択した場合、サブネットマスクを入力して下さい。
ゲートウェイ IP アドレス	接続先 VPN 機器の WAN 側 IP アドレスを入力して下さい。

<次ページへ進んで下さい>

認証鍵

鍵交換 アグレッシブモード(固定)
 動作モード トンネルモード(固定)

事前共有鍵 (Pre-shared key)

IKE 暗号アルゴリズム

IKE 認証アルゴリズム

IKE ライフタイム (300-86400秒)

IKE キープアライブ (DPD) 有効にする
 発行間隔 (1-600秒) 再送間隔 (1-600秒) 発行回数 (1-50回)

DHグループ

ESP 暗号アルゴリズム

ESP 認証アルゴリズム

PFSグループ

IPsec ライフタイム (300-28800秒)

鍵交換	アグレッシブモード固定です。
動作モード	トンネルモード固定です。
事前共有鍵	事前共有キーを入力して下さい。 半角英数字 30 文字まで入力可能です。
IKE 暗号アルゴリズム	IKE の暗号化方式を選択して下さい。 (DES/3DES/AES 128/AES 192/AES 256)
IKE 認証アルゴリズム	IKE の認証方式を選択して下さい。 (MD5/SHA1/SHA256)
IKE ライフタイム	ISAKMP SA の生存時間を入力して下さい。
IKE キープアライブ (DPD)	DPD (Dead Peer Detection)メッセージによる IPsec トンネルの通信断を検出する場合、チェックを入れて下さい。 DPD メッセージの発行間隔、再送間隔、発行回数を入力して下さい。 DPD 設定は、レスポンド側と一致する値を設定して下さい。
DH グループ	DH (Diffie-Hellman) のパラメータを選択して下さい。 (DH1/DH2/DH5)
ESP 暗号アルゴリズム	ESP の暗号化方式を選択して下さい。 (DES/3DES/AES 128/AES 192/AES 256)
ESP 認証アルゴリズム	ESP の認証方式を選択して下さい。 (HMAC-MD5/HMAC-SHA1/HMAC-SHA256)
PFS グループ	PFS (Perfect Forward Security) のパラメータを選択して下さい。 (未指定/DH1/DH2/DH5)
IPsec ライフタイム	IPsec SA の生存時間を入力して下さい。

全ての設定が完了しましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。
 以下の画面が表示されますので、すぐに設定を反映させる場合は[今すぐ再起動]ボタンを、引き続き設定を行う場合は[後で再起動]ボタンをクリックして下さい。

設定は正常に保存されました。

変更を動作に反映させるためには、プロセスを再起動する必要があります。

今すぐ再起動を行いますか？
 他の設定を行った後、再起動を行いますか？

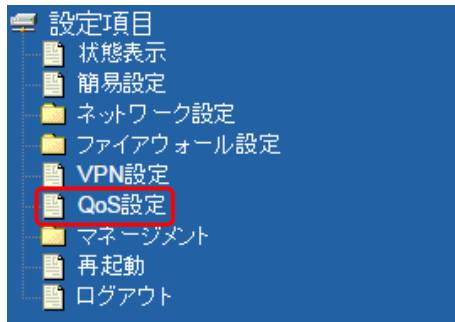
再起動が完了すると、VPN 設定画面に設定した VPN 接続情報が追加されます。

VPN接続情報 WAN側IPアドレス: *.*.*.*.*.*.*.*

選択	No	接続名	有効 無効	ローカル (LAN) 側 IPアドレス	リモート側1 IPアドレス	リモート側2 IPアドレス	リモート側3 IPアドレス	リモート側 ゲートウェイ	接続状態
<input checked="" type="radio"/>	1	IPsecVPN	有効	192.168.0.0/24	192.168.1.0/24	-	-	192.168.10.254	接続状態
<input type="radio"/>	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<input type="radio"/>	3	-	-	-	-	-	-	-	-

6.QoS 設定

通信速度を制限する QoS 設定について説明します。
設定メニューの「QoS 設定」をクリックして下さい。



QoS設定

QoS設定を行います。

- QoSを有効にする
 - 自動上り速度制
 - 手動上り速度制

「QoS 設定」画面が開きます。

QoS設定

QoS設定を行います。

- QoSを有効にする
 - 自動上り速度制限を有効にする
手動上り速度制限を指定(Kbps):
 - 自動下り速度制限を有効にする
手動下り速度制限を指定(Kbps):

QoSルール登録

アドレス タイプ IP MAC

IPアドレス(範囲) -

MACアドレス

モード

上り帯域(Kbps):

下り帯域(Kbps):

コメント

■ QoS を有効にする(チェックボックス)

QoS 機能を有効にする場合、チェックを入れて下さい。

■ 自動上り速度制限を有効にする(チェックボックス)

QoS ルールに基づいて上り帯域を制限します。

QoS ルールに合致しない通信の上り帯域は 100Mbps(制限無し)になります。

■ 自動下り速度制限を有効にする(チェックボックス)

QoS ルールに基づいて下り帯域を制限します。

QoS ルールに合致しない通信の下り帯域は 100Mbps(制限無し)になります。

■ 手動上り速度制限を指定 (Kbps)

「自動上り速度制限を有効にする」のチェックを外した場合に設定可能です。

全体の上り帯域の制限値を設定します。

QoS ルールに合致した通信は、QoS ルールの上り帯域に制限されます。

■ 手動下り速度制限を指定 (Kbps)

「自動下り速度制限を有効にする」のチェックを外した場合に設定可能です。

全体の下り帯域の制限値を設定します。

QoS ルールに合致した通信は、QoS ルールの下り帯域に制限されます。

<次ページへ進んで下さい>

■QoS ルール登録

QoS ルールを登録します。

■アドレスタイプ

速度制限の対象とするアドレスのタイプを選択します。

■IP アドレス(範囲)

アドレスタイプで IP アドレスを選択した場合、IP アドレスを入力します。
単一 IP アドレスを指定する場合は、左右の入力欄に同じ IP アドレスを入力して下さい。

■MAC アドレス


アドレスタイプで MAC アドレスを選択した場合、MAC アドレスを入力します。

■モード

速度制限のモードを選択します。
最低帯域保証: 保証する最低速度を設定します。
最大帯域制限: 最大速度を設定します。

■上り帯域、下り帯域

上り、下りの帯域を Kbps 単位で設定します。

	制限無し状態で回線速度を計測し、実際の帯域内に収まるように設定して下さい。
	登録する QoS ルールの帯域の合計で 100Mbps 以内に収まるように設定して下さい。
	手動速度制限を行う場合、手動速度制限に設定した値より小さい値を設定して下さい。 手動速度制限より大きい値を設定すると、手動速度制限で設定した値で制限されますのでご注意ください。 例) 手動速度制限: 30000Kbps QoS ルール: 50000Kbps
	上記の場合、QoS ルールに合致した通信は 30000Kbps で制限されます。


■コメント

登録する設定内容が判別しやすいように、コメントを入力して下さい。

■リストへ登録・設定保存(ボタン)

入力した内容が QoS ルール 登録リストに登録され、動作に反映されます。

QoSルール 登録リスト(64エントリまで登録可能)						
Pアドレス	MACアドレス	モード	上り帯域	下り帯域	コメント	選択
192.168.0.10 - 192.168.0.20	---	最大帯域制限	500	500	Client	<input type="checkbox"/>
---	001038222222	最低帯域保証	1000	1000	Client	<input type="checkbox"/>

	最大 64 エントリまで登録可能です。
---	---------------------

■選択したエントリを削除(ボタン)

登録リストの「選択」にチェックを入れたものが削除され、動作に反映されます。

■全て削除(ボタン)

登録リストの内容全てが削除され、動作に反映されます。

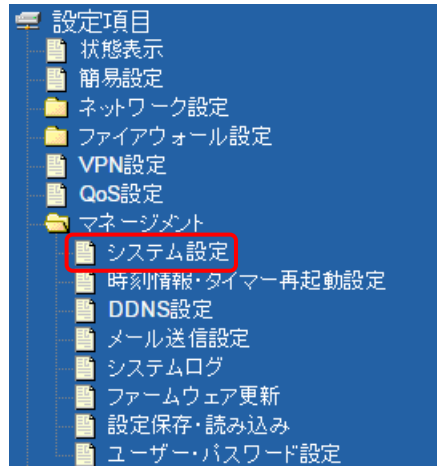
7. マネージメント

本製品のマネージメント(管理)メニューについて説明します。

7-1. システム設定

MR-GM3L の装置名称の設定について説明します。

設定メニューの「マネージメント」より「システム設定」をクリックして下さい。
「システム設定」画面が開きます。



システム設定

装置全般の設定を行います。

装置名称	<input type="text" value="MR-GM3 Lite"/>
<input type="checkbox"/> リモートログに装置名称を表示する	
装置アクセス	
Webポート	<input type="text" value="80"/>
<input type="button" value="設定保存"/>	

■ 装置名称

MR-GM3L の装置名称(ニックネーム)を設定します。

本項目で設定した装置名称は、「状態表示」画面、メール送信機能のメール内容、リモートログに表示されます。

■ リモートログに装置名称を表示する(チェックボックス)

リモートログに装置名称を表示させる場合、チェックを入れて下さい。

リモートログの設定については「7-5. システムログ」(91 ページ)を参照して下さい。

■ Web ポート

設定画面へのアクセスポート番号を「80(www-http)」から変更できます。

本設定は、LAN 側/WAN 側共通となりますので LAN 側からも変更したポート番号でログオンする必要があります。

変更後は「http://192.168.0.1:10000」のように「http://MR-GM3L の IP アドレス:(コロン) 変更したポート番号」の形式で設定画面にログオンして下さい。

確認	ポート番号を変更する場合は、「1025～65534」の範囲(10000 以降推奨)で設定して下さい。 「0～1024」を設定してしまうと、ブラウザソフト側の制限で設定画面にログオンできなくなる可能性がありますのでご注意ください。
	ポート番号を変更する場合、変更後のポート番号を忘れないように注意して下さい。 ポート番号が分からなくなってしまった場合、INIT ボタンによる設定初期化以外に救済措置はありません。
	ポートフォワーディング設定にここで設定したポート番号を登録する、もしくは DMZ ホスト機能を有効にすると、これらの機能が優先され WAN 側から設定画面にログオンできなくなります。

全ての設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

以下の画面が表示されますので、すぐに設定を反映させる場合は[今すぐ再起動]ボタンを、引き続き設定を行う場合は[後で再起動]ボタンをクリックして下さい。

設定は正常に保存されました。

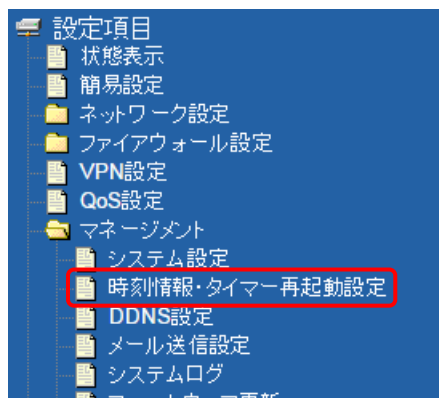
変更を動作に反映させるためには、プロセスを再起動する必要があります。

今すぐ再起動を行いますか？
他の設定を行った後、再起動を行いますか？

7-2.時刻情報・タイマー再起動設定

時刻情報・タイマー再起動設定について説明します。

設定メニューの「マネージメント」より「時刻情報・タイマー再起動設定」をクリックして下さい。



時刻情報・タイマー再起動設定

本機の時刻情報の設定を行います。

NTPクライアント機能を有効に設定する場合、任意の曜日・時間させることが可能です。

現在の時刻 2016 年 11 月 22 日

タイムゾーン (GMT+09:00)Osaka, Sapporo, Tokyo

NTPクライアント機能を有効にする

「時刻情報・タイマー再起動設定」画面が開きます。

時刻情報・タイマー再起動設定

本機の時刻情報の設定を行います。

NTPクライアント機能を有効に設定する場合、任意の曜日・時間に本機を自動的に再起動させることが可能です。

現在の時刻 2016 年 6 月 29 日 14 時 44 分 18 秒

タイムゾーン (GMT+09:00)Osaka, Sapporo, Tokyo

NTPクライアント機能を有効にする

NTPサーバー ntp1.jst.mfeed.ad.jp

0.0.0.0
(NTPサーバーのアドレスを設定)

■現在の時刻

本製品の「現在の時刻」情報を表示します。



システム再起動及びタイマー再起動を実行した場合、現在の時刻は「1970年1月1日9時0分0秒」に戻ります。

■タイムゾーン

日本の標準時間帯「(GMT+09:00)Osaka, Sapporo, Tokyo」が選択されていることを確認して下さい。

■NTPクライアント機能を有効にする(チェックボックス)

インターネット上のNTPサーバーを利用して本製品の時刻情報を調整する場合、チェックを入れて下さい。

■NTPサーバー

NTPクライアント機能を使用する際、参照するNTPサーバーを指定します。

- ntp1.jst.mfeed.ad.jp, ntp2.jst.mfeed.ad.jp, ntp3.jst.mfeed.ad.jp
→インターネットマルチフィード(MFEED)時刻情報提供サービス for Public を参照します。
- NTPサーバーのアドレスを設定
→上記以外のNTPサーバーを参照する場合、アドレスを入力して下さい。

<次ページへ進んで下さい>

再起動機能 曜日時刻指定 ▼

曜日時刻指定 ※

毎日

日曜 月曜 火曜 水曜 木曜 金曜 土曜

再起動実施時刻 0 時 0 分
(0~23) (0~59)

稼働時間指定 0 時 0 分 0 秒 (5分~168時間)

※： 曜日時刻指定による再起動機能は、NTP等により時刻同期された状態でのみ動作します。

設定保存 再読み込み

NTPクライアント状態 時刻同期成功

■再起動機能

再起動機能を設定します。

- ・曜日時刻指定
→スケジュールにより再起動を行います。
- ・稼働時間指定
→システム稼働時間により再起動を行います。

確認	曜日時刻指定の再起動は、「NTP クライアント機能」による時刻情報取得、もしくは「内蔵通信モジュールから時刻取得」が正常に行われた場合にのみ動作します。
-----------	--

■曜日時刻指定

再起動を行うスケジュールを設定します。

- ・毎日
→毎日再起動します。
- ・日曜～土曜
→曜日を指定して再起動します。
- ・再起動実施時刻
→再起動を実行する時刻を入力して下さい。

■稼働時間指定

再起動を行う間隔(システム稼働時間)を入力して下さい。

現在のシステム起動経過時間は、状態表示画面(18 ページ)で確認することができます。

確認	システム起動経過時間は、システム再起動(もしくは電源 OFF/ON)時にクリアされます。設定変更時のプロセス再起動ではクリアされません。
-----------	--

■再読み込み(ボタン)

NTP クライアント状態を最新の情報に更新します。

■NTP クライアント状態

時刻情報の取得状態を表示します。

時刻情報の取得に成功した場合は「時刻同期成功」、失敗した場合は「時刻同期失敗」と表示されます。

全ての設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

以下の画面が表示されますので、すぐに設定を反映させる場合は[今すぐ再起動]ボタンを、引き続き設定を行う場合は[後で再起動]ボタンをクリックして下さい。

設定は正常に保存されました。

変更を動作に反映させるためには、プロセスを再起動する必要があります。

今すぐ再起動を行いますか？
他の設定を行った後、再起動を行いますか？

今すぐ再起動 後で再起動

7-3.DDNS 設定

DDNS(ダイナミックDNS)設定について説明します。



注意

本機能は外部の DDNS サービスを利用します。
そのため、サービス提供元の仕様変更やサービス内容の変更により、利用できなくなる場合がありますのであらかじめご了承ください。

はじめに

現在対応しているダイナミック DNS サービスは以下の 4 つです。

「DynDNS」、「No-IP」、「Dynamic DO!.jp」、「MyDNS.JP」

他のダイナミック DNS サービスはご利用頂けませんのであらかじめご了承ください。

ダイナミック DNS 機能の設定を行う前に、各公式サイトにてアカウント登録とホスト名(ドメイン名)の取得を行って下さい。

DynDNS 公式サイト(英語)

http://www.dyndns.com/

No-IP 公式サイト(英語)

http://www.no-ip.com/

Dynamic DO!.jp 公式サイト(日本語)

http://ddo.jp/

MyDNS.JP 公式サイト(日本語)

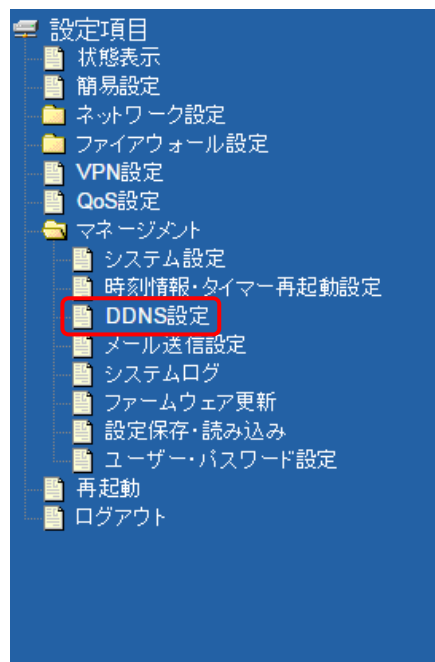
http://www.mydns.jp/

本機能は接続モードが「常時接続」の場合にのみ利用できます。

接続モードが「自動接続・切断」の場合は、本機能を利用することはできませんのでご注意ください。

設定メニューの「マネージメント」より「DDNS 設定」をクリックして下さい。

「DDNS 設定」画面が開きます。



DDNS設定

ダイナミックDNSの設定を行います。

DDNSを有効にする

サービス名

ドメイン名

ユーザー名

パスワード

- ・通信キャリアが付与するIPアドレスがプライベートIPアドレスの場合、DDNSは利用できません。
- ・本機の「モバイルデータカード設定」の「接続モード」が「自動接続・切断」の場合、DDNSは利用できません。

■DDNS を有効にする(チェックボックス)

DDNS 機能を利用する場合、チェックを入れて下さい。

■サービス名

利用する DDNS サービス名を選択して下さい。

■ドメイン名

取得したホスト名(ドメイン名)を入力して下さい。

「Dynamic DO!.jp」の場合は不要です。

■ユーザー名

登録したユーザー名(もしくはメールアドレス)を入力して下さい。

「Dynamic DO!.jp」の場合は登録したドメインを入力して下さい。

■パスワード

登録したパスワードを入力して下さい。

[<次ページへ進んで下さい>](#)

■再読み込み(ボタン)

DDNS 状態を最新の情報に更新します。

■DDNS 状態

DDNS による IP アドレス更新の状態を表示します。

更新に成功した場合は「更新成功」、失敗した場合は「更新失敗」と表示されます。

全ての設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

以下の画面が表示されますので、すぐに設定を反映させる場合は[今すぐ再起動]ボタンを、引き続き設定を行う場合は[後で再起動]ボタンをクリックして下さい。

設定は正常に保存されました。

変更を動作に反映させるためには、プロセスを再起動する必要があります。

今すぐ再起動を行いますか？

他の設定を行った後、再起動を行いますか？

今すぐ再起動

後で再起動

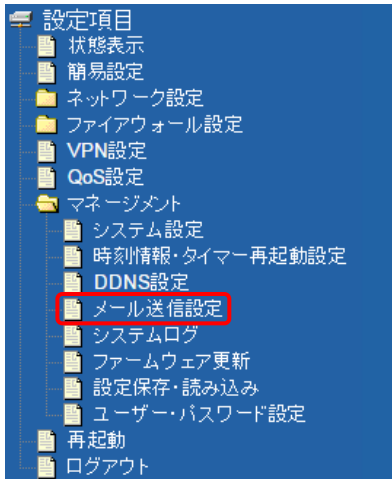
7-4.メール送信設定

メール送信設定について説明します。

確認

メール送信機能を使用する場合、「NTPクライアント機能」を有効にする事を推奨します。
日時情報が合っていない状態でメールを送信すると、送信日時が不正なメールとしてメールサーバーに拒否される事がありますのでご注意ください。
「NTPクライアント機能」については、「7-2.時刻情報・タイマー再起動設定」(84 ページ) を参照して下さい。

設定メニューの「マネージメント」より「メール送信設定」をクリックして下さい。



メール送信設定

メール送信設定を行います。

メール送信機能を有効にする

メール送信サーバー

メール送信サーバーポート番号

送信元メールアドレス

宛先メールアドレス

接続保護

認証方法

「メール送信設定」画面が開きます。

メール送信機能を有効にする

メール送信サーバー

メール送信サーバーポート番号 (1~65535)

送信元メールアドレス

宛先メールアドレス

接続保護

なし

StartTLS(RFC 3207) 拡張をしない

認証方法

なし

ユーザー名

パスワード

メール送信グリーティングメッセージ(EHLO)に送信元メールアドレスのドメインを使用する

WANインターフェース有効時のメール送信を有効にする

定期メール送信を有効にする

送信間隔 0 時 0 分 0 秒 (0~24時間)

時刻指定メール送信を有効にする

メール送信スケジュール

毎日

日曜 月曜 火曜 水曜 木曜 金曜 土曜

メール送信実施時刻 0 時 0 分

装置起動時のメール送信を有効にする

プロセス再起動時のメール送信を有効にする

有線LANのLinkUP/LinkDOWNによるメール送信を有効にする

メール送信テストを行う

設定保存

〈次ページへ進んで下さい〉

■メール送信機能を有効にする(チェックボックス)

メール送信機能を利用する場合、チェックを入れて下さい。

■メール送信サーバー

メール送信サーバーのアドレスを入力して下さい。

■メール送信サーバーポート番号

メール送信サーバーのポート番号を入力して下さい。

■送信元メールアドレス

送信元のメールアドレスを入力して下さい。

メールはここで設定したメールアドレスから送信されます。

■宛先メールアドレス

送信先のメールアドレスを入力して下さい。

メールはここで設定したメールアドレス宛てに送信されます。

■接続保護

SMTP サーバーへの接続保護を選択して下さい。

なし : 暗号化しません

TLS : 暗号化に TLS を使用します。

■StartTLS(RFC 3207) 拡張をしない(チェックボックス)

StartTLS 拡張を行わない場合チェックを入れて下さい。

■認証方法

SMTP の認証方法を選択して下さい。

なし : 認証しません。

平文 : 平文で認証します。

CRAM-MD5 : CRAM-MD5 で認証します。

■ユーザー名、パスワード

SMTP 認証のためのユーザー名、パスワードを入力して下さい。

■メール送信グリーティングメッセージ(EHLO)に送信元メールアドレスのドメインを使用する(チェックボックス)

SMTP 接続時に送信元の名前解決を行う必要がある場合、チェックを入れて下さい。

■WAN インターフェース有効時にメール送信を行う(チェックボックス)

WAN 側回線接続時にメールを送信する場合チェックを入れて下さい。

確認

有線 WAN 接続で IP アドレス固定設定時はメール送信されません。

■定期メール送信機能を有効にする(チェックボックス)

定期的にメールを送信する場合チェックを入れて下さい。

送信間隔秒に送信間隔を入力して下さい。

確認

短い間隔でメールを送信すると、メールサーバーに送信を拒否される可能性がありますのでご注意ください。

送信間隔に 0 時 0 分 0 秒を設定した場合、メール送信は行われませんのでご注意ください。

■時刻指定メール送信機能を有効にする(チェックボックス)

特定のスケジュールでメールを送信する場合チェックを入れて下さい。

・毎日 : 毎日送信します。

・日曜～土曜 : 曜日を指定して送信します。

・メール送信実施時刻 : 送信を実行する時刻を入力して下さい。

確認

「時刻指定メール送信機能」は、「NTP クライアント機能」による時刻情報取得が正常に行われた場合にのみ動作します。

「NTP クライアント機能」については、「7-2.時刻情報・タイマー再起動設定」(84 ページ) を参照して下さい。

■装置起動時のメール送信を有効にする(チェックボックス)

システム再起動時にメールを送信する場合チェックを入れて下さい。

■プロセス再起動時のメール送信を有効にする(チェックボックス)

プロセス再起動時にメールを送信する場合チェックを入れて下さい。

■有線 LAN の LinkUP/LinkDOWN によるメール送信を有効にする(チェックボックス)

有線 LAN ポートのリンクアップ/リンクダウン時にメールを送信する場合チェックを入れて下さい。

■メール送信テストを行う(ボタン)

メール送信テストを行うためのボタンです。

〈次ページへ進んで下さい〉

全ての設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。
 以下の画面が表示されますので、すぐに設定を反映させる場合は[今すぐ再起動]ボタンを、引き続き設定を行う場合は[後で再起動]ボタンをクリックして下さい。

設定は正常に保存されました。

変更を動作に反映させるためには、プロセスを再起動する必要があります。

今すぐ再起動を行いますか？
 他の設定を行った後、再起動を行いますか？

■メールの内容例

件名: MR-GM3 00:10:38:**:** Stauts ←MR-GM3 の LAN ポート MAC アドレス

WAN interface Active ←メール送信のトリガー

Uptime 0days:5:55:19s ←起動経過時間

Version v1.xx.xx(MR001) ←ファームウェアバージョン

Build Tue Nov 15 13:15:45 JST 2016

Config Version Default:xx Current:xx

System MR-GM3L-DK ←機種名

Device Name MR-GM3 Lite ←装置名称

NTP Synchronized ←NTP クライアントの同期状態

WAN

Mode Mobile Card(Built-in MODULE) ←WAN 接続モード

TEL 080***** ←SIM カードの電話番号

IMEI ***** ←内蔵通信モジュールの端末識別番号

LTE 1 ←LTE 通信網の圏内・圏外(1=圏内、0=圏外)

SQ 4 ←内蔵通信モジュールのアンテナ状態

RSSI -51dBm ←受信信号強度

BAND(Frequency) 276 ←LTE の周波数帯(LTE frequency band)

GPS(Standalone) 35.612591,139.741770 ←GPS 機能により取得した位置情報 ※

IP Address ***.**.*.*** ←WAN 側 IP アドレス

LAN

IP Address 192.168.0.1 ←LAN ポート IP アドレス

SubnetMask 255.255.255.0

Mac Address 00:10:38:**:** ←LAN ポート MAC アドレス

DHCP Server Active ←DHCP サーバーの状態

LAN(eth0) Link Up ←ETH0 ポートのリンク状態

DDNS Domain Name *****.example.com ←DDNS のドメイン名

※メール送信時に位置情報が取得できていない場合は「Unknow」と記述されます。

■メール送信のトリガーについて

メールの先頭に、メール送信のトリガー(要因)が記載されます。

WAN interface Active	WAN インターフェースが有効になった
Smtpeexec Power on Started ## seconds ago	##秒前にシステム起動した
Smtpeexec Restarted ## seconds ago	##秒前にプロセス起動した
Periodical	定期メール送信
Schedule	時刻指定メール送信
LAN(eth0) Link Down	LAN(eth0)ポートがリンクダウンした
LAN(eth0) Link Up	LAN(eth0)ポートがリンクアップした

7-5.システムログ

システムログ機能について説明します。

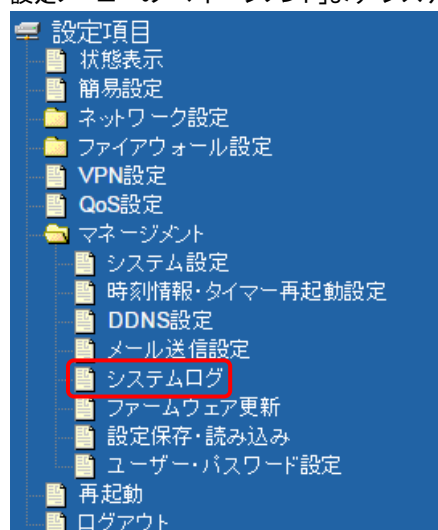
システムログに表示される日時について

システムログに表示される日時は、本製品内部の時刻情報です。
時刻設定を行っていない場合、正確な日時は表示されませんのでご注意ください。
時刻設定については、「7-2.時刻情報・タイマー再起動設定」(84 ページ) を参照して下さい。

7-5-1.システムログ設定

システムログについて説明します。

設定メニューの「マネージメント」より「システムログ」をクリックして下さい。



システムログ

リモートログサーバー設定と、システムのログ情報を表示します。

- システムログを有効にする
 - WAN側からのWeb設定アクセスログを有効にする
 - LAN側からのWeb設定アクセスログを有効にする
- リモートログを有効にする ログ受信IPアドレス

設定保存

```
Oct 18 15:30:33 user.warn kernel: [MAC_REG_8812_n]
Oct 18 15:30:33 user.warn kernel: [PHY_REG_8812_n_hi]
Oct 18 15:30:33 user.warn kernel: [PHY_REG_PG_8812]
Oct 18 15:30:33 user.warn kernel: [AGC_TAB_8812_n_hi]
Oct 18 15:30:33 user.warn kernel: [DefTab_8812_n_hi]
```

「システムログ」画面が開きます。

システムログ

リモートログサーバー設定と、システムのログ情報を表示します。

- システムログを有効にする
 - WAN側からのWeb設定アクセスログを有効にする
 - LAN側からのWeb設定アクセスログを有効にする
- リモートログを有効にする ログ受信IPアドレス

設定保存

```
Oct 18 15:35:58 daemon.info statecheck: Remote confirm receive ping reply from
www.yahoo.co.jp
Oct 18 15:35:58 daemon.info statecheck: Remote confirm receive ping reply from
www.google.co.jp
Oct 18 15:35:58 daemon.info statecheck: Remote comm confirm received reply from any
hosts.
Oct 18 15:36:58 daemon.info statecheck: Remote confirm receive ping reply from
8.8.8.8
Oct 18 15:36:58 daemon.info statecheck: Remote confirm receive ping reply from
www.yahoo.co.jp
Oct 18 15:36:58 daemon.info statecheck: Remote confirm receive ping reply from
www.google.co.jp
Oct 18 15:36:58 daemon.info statecheck: Remote comm confirm received reply from any
hosts.
```

再読み込み ファイルに保存

■システムログを有効にする(チェックボックス)

システムログ機能を使用する場合、チェックを入れて下さい。

チェックが入っていない場合、ログは表示されません。

本画面で表示されるログは、MR-GM3L を再起動すると消去されます。

<次ページへ進んで下さい>

■WAN 側からの Web 設定アクセスログを有効にする(チェックボックス)


WAN 側から設定画面へのアクセスがあった際に、アクセスログを表示します。

■LAN 側からの Web 設定アクセスログを有効にする(チェックボックス)

LAN 側から設定画面へのアクセスがあった際に、アクセスログを表示します。


■リモートログを有効にする(チェックボックス)

リモートログを送信する場合、チェックを入れて下さい。

	リモートログをパソコンで受信するには、リモートログを受信するパソコンに SYSLOG 受信ソフトをインストールする必要があります。
	リモートログを VPN の接続先(IPsec トンネル内)へ送信する事はできません。

■ログ受信 IP アドレス

リモートログを受信するパソコンの IP アドレスを入力して下さい。

	リモートログを受信する IP アドレスを複数設定することはできません。(単一 IP アドレスのみ設定可能)
---	---

■再読み込み(ボタン)

本画面で表示されているシステムログを最新の状態に更新します。

■ファイルに保存(ボタン)

本画面で表示されているシステムログをファイルに保存します。

設定を変更した場合は、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。

以下の画面が表示されますので、すぐに設定を反映させる場合は[今すぐ再起動]ボタンを、引き続き設定を行う場合は[後で再起動]ボタンをクリックして下さい。

<p>設定は正常に保存されました。</p> <p>変更を動作に反映させるためには、プロセスを再起動する必要があります。</p> <p>今すぐ再起動を行いますか？ 他の設定を行った後、再起動を行いますか？</p> <p><input type="button" value="今すぐ再起動"/> <input type="button" value="後で再起動"/></p>

7-5-2.システムログ表示例

■モバイルデータカード(内蔵)接続に関するシステムログ表示例

```

daemon.info ltemd: Within the LTE radio range:1, Signal Quality:4, Received Signal Strengths(RSSI):24(-65 dBm), Band
Frequency:40340 ←LTE 圏内・圏外、アンテナ状態(SQ)、電波強度(RSSI)、LTEの周波数帯(LTE frequency band)
daemon.info statecheck: Start check PPP connection, wait timer 40
daemon.notice pppd[9927]: pppd 2.4.4 started by root, uid 0 ←回線接続開始
local2.info chat[9933]: abort on (NO DIAL TONE)
local2.info chat[9933]: abort on (NO ANSWER)
local2.info chat[9933]: abort on (NO CARRIER)
local2.info chat[9933]: abort on (DELAYED)
local2.info chat[9933]: abort on (COMMAND NOT SUPPORT)
local2.info chat[9933]: send (^M)
local2.info chat[9933]: send (ATZ^M)
local2.info chat[9933]: expect (OK)
local2.info chat[9933]: ATZ^M^M
local2.info chat[9933]: OK
local2.info chat[9933]: -- got it
local2.info chat[9933]: send (ATDT*99***1#^M)
local2.info chat[9933]: expect (CONNECT)
local2.info chat[9933]: ^M
local2.info chat[9933]: ATDT*99***1#^M^M
local2.info chat[9933]: CONNECT
local2.info chat[9933]: -- got it
local2.info chat[9933]: send (^M)
daemon.info pppd[9927]: Serial connection established.
daemon.info pppd[9927]: Using interface ppp0
daemon.notice pppd[9927]: Connect: ppp0 <--> /dev/ttyACM0
daemon.info pppd[9927]: CHAP authentication succeeded
daemon.notice pppd[9927]: CHAP authentication succeeded
daemon.warn pppd[9927]: Could not determine remote IP address: defaulting to 10.64.64.64
user.info syslog: lte module connected
user.info syslog: last lte module power off Mon Nov 9 17:27:04 GMT 2015
user.info syslog: last lte module power on Mon Nov 9 17:27:09 GMT 2015
daemon.notice pppd[9927]: local IP address ***.***.***.*** ←プロバイダから取得したWAN側IPアドレス
daemon.notice pppd[9927]: remote IP address 10.64.64.64
daemon.notice pppd[9927]: primary DNS address +++.+++..+++..111 ←プロバイダから取得したDNSアドレス
daemon.notice pppd[9927]: secondary DNS address +++.+++..+++..222 ←プロバイダから取得したDNSアドレス

```

chat[9933]:	本製品とモバイルデータカードの通信に関するログです。 []内はプロセス番号です。 接続、切断を行う度に、プロセス番号は変わります。
pppd 2.4.4 started by root, uid 0	回線接続が開始されると表示されます。
Terminating on signal 15	回線を手動で切断した場合に表示されます。
Terminating connection due to lack of activity.	無通信自動切断機能により回線が切断された場合に表示されます。
LCP terminated by peer	プロバイダ側から回線を切断された場合に表示されます。

■起動・再起動に関するシステムログ

MR-GM3 Syslog Start.	MR-GM3L 起動時に表示されます。
Router reboot by GUI.	設定画面から再起動した場合に表示されます。 リモートログにのみ表示されます。
Router reboot by timer reboot setting.	タイマー再起動機能により、再起動した場合に表示されます。 リモートログにのみ表示されます。

■回線監視機能に関するシステムログ

Remote confirm receive ping reply from ***.***.***.***	宛先アドレスから Ping 応答が得られた場合に表示されます。
Remote confirm can't receive ping reply from ***.***.***.***	宛先アドレスから Ping 応答が得られなかった場合に表示されます。
Remote confirm receive http reply ### from http://example.com/	宛先アドレスから http の応答が得られた場合に表示されます。
Can't connect http://example.com/	宛先アドレスから http の応答が得られなかった場合に表示されま す。
Remote comm confirm received reply from any hosts.	回線監視機能により、いずれかの宛先から応答が得られた場合に 表示されます。
remote_comm_confirm failed count # remote confirm retry num #	回線監視機能により、全ての宛先から応答が得られなかった場合 に表示されます。

■回線冗長化機能に関するシステムログ

change to wan mode secondays(#####) from primarys(#####)	プライマリ接続からセカンダリ接続への切り替え時に表示されます。
change to wan mode primays(#####) from secondary(#####)	セカンダリ接続からプライマリ接続への切り替え時に表示されます。

■NTP クライアントに関するシステムログ

NTP client successfully.	時刻同期が成功した場合に表示されます。
NTP client fail, retry 30sec later...	時刻同期が失敗した場合に表示されます。30 秒後にリトライします。

■DDNS 機能に関するシステムログ

DDNS update successfully.	DDNS 更新成功時に表示されます。
DDNS update fail, retry 60sec later...	DDNS 更新失敗時に表示されます。60 秒後にリトライします。

■DHCP サーバー機能に関するシステムログ

udhcpd: sending ACK to 192.168.0.3	DHCP のリクエストに対して、IP アドレスを付与したときに表示されます。
udhcpd: sending OFFER of 192.168.0.3	DHCP クライアントからリース延長要求を受けたときに表示されます。

■内蔵通信モジュールに関するシステムログ

Itemd start lte module	内蔵通信モジュールの認識が起動したときに表示されます。
lte module power off	内蔵通信モジュールの電源を OFF したときに表示されます。
lte module power on	内蔵通信モジュールの電源を ON したときに表示されます。

■設定画面へのアクセスログの表示例

```
daemon.info boa: - 192.168.0.2 -- "GET /title.htm HTTP/1.1" 200 0 "http://192.168.0.1:8080/home.htm" "Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1) AppleWebKit/537.36 (KHTML, like Gecko) Chrome/53.0.2785.143 Safari/537.36"
```

IP アドレス 192.168.0.2 から MR-GM3 (LAN 側 IP アドレス 192.168.0.1) の設定画面にポート 8080 でアクセスがあった事を表します。

```
daemon.info boa: - ***.***.***.222 -- "GET /title.htm HTTP/1.1" 200 0 "http://+++ +++ .+++ .111:8080/home.htm" "Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1) AppleWebKit/537.36 (KHTML, like Gecko) Chrome/53.0.2785.143 Safari/537.36"
```

IP アドレス ***.***.***.222 から MR-GM3 (WAN 側 IP アドレス +++ .+++ .+++ .111) の設定画面にポート 8080 でアクセスがあった事を表します。

■メール送信機能に関するシステムログ表示例

```
sSMTP[5073]: 220 castalia.example.com ESMTP
sSMTP[5073]: EHLO ***.***.***.*** ←GM3 の WAN 側 IP アドレス
sSMTP[5073]: 250 DSN
sSMTP[5073]: AUTH LOGIN
sSMTP[5073]: 334
sSMTP[5073]:
sSMTP[5073]: 334
sSMTP[5073]:
sSMTP[5073]: 235 2.7.0 Authentication successful ←メール送信サーバーとの認証に成功
sSMTP[5073]: MAIL FROM:<*****@ example.com> ←送信元メールアドレス
sSMTP[5073]: 250 2.1.0 Ok
sSMTP[5073]: RCPT TO:<+++++@ example.com> ←送信先メールアドレス
sSMTP[5073]: 250 2.1.5 Ok
sSMTP[5073]: DATA
sSMTP[5073]: 354 End data with <CR><LF><CR><LF>
sSMTP[5073]: Received: by ***.***.***.*** (sSMTP sendmail emulation); Tue, 10 Nov 2015 00:31:12 +0900
sSMTP[5073]: Date: Tue, 10 Nov 2015 00:31:12 +0900
sSMTP[5073]: From: <*****@example.com>
sSMTP[5073]: To: <+++++@example.com>
sSMTP[5073]: Subject: MR-GM3 00:10:38:***:** Stauts ←ここからメールの内容
sSMTP[5073]:
sSMTP[5073]: wan active
sSMTP[5073]: Uptime 0days:0:1:54s

<中略>

sSMTP[5073]: DHCP Server Active
sSMTP[5073]: ←メールの内容ここまで
sSMTP[5073]: 250 2.0.0 Ok: queued as 6CB582E39
sSMTP[5073]: QUIT
sSMTP[5073]: 221 2.0.0 Bye
sSMTP[5073]: Sent mail for *****@example.com (221 2.0.0 Bye) uid=0 username=root outbytes=954
daemon.info smtpexec: send mail succeed. ←メール送信成功
```

sSMTP [5073]:	メール送信機能に関するログです。 []内はプロセス番号です。 接続、切断を行う度に、プロセス番号は変わります。
---------------	--

■ PPPoE (有線 WAN) 接続成功時の表示例

```
daemon.info pppd[10887]: RP-PPPoE plugin version 3.3 compiled against pppd 2.4.4
daemon.notice pppd[10887]: pppd 2.4.4 started by root, uid 0 ←PPPoE 接続開始
daemon.info pppd[10887]: PPP session is 4448
daemon.info statecheck: Start check PPP connection, wait timer 40
user.info udhcpd: udhcp server (v0.9.9-pre) started
daemon.info pppd[10887]: Using interface ppp0
daemon.notice pppd[10887]: Connect: ppp0 <--> eth1
daemon.info pppd[10887]: CHAP authentication succeeded ←PPPoE 認証成功
daemon.notice pppd[10887]: CHAP authentication succeeded
daemon.notice pppd[10887]: peer from calling number 00:1E:13:C2:45:C6 authorized
daemon.notice pppd[10887]: local IP address ***.***.***.*** ←ISP から取得した IP アドレス
daemon.notice pppd[10887]: remote IP address +++.+++..+++..+++
daemon.notice pppd[10887]: primary DNS address +++.+++..+++..111
daemon.notice pppd[10887]: secondary DNS address +++.+++..+++..222
```

■ PPPoE (有線 WAN) 接続失敗時の表示例 1

```
daemon.info pppd[15148]: RP-PPPoE plugin version 3.3 compiled against pppd 2.4.4
daemon.notice pppd[15148]: pppd 2.4.4 started by root, uid 0 ←PPPoE 接続開始
daemon.info statecheck: Start check PPP connection, wait timer 40
daemon.info pppd[15148]: PPP session is 5684
user.info udhcpd: udhcp server (v0.9.9-pre) started
daemon.info pppd[15148]: Using interface ppp0
daemon.notice pppd[15148]: Connect: ppp0 <--> eth1
daemon.info pppd[15148]: CHAP authentication failed: permission denied ←PPPoE 認証失敗
daemon.err pppd[15148]: CHAP authentication failed
daemon.notice pppd[15148]: Connection terminated.
daemon.notice pppd[15148]: Connection terminated.
daemon.info pppd[15148]: Terminating on signal 15 ←回線切断
daemon.info pppd[15148]: Exit.
```



「CHAP authentication failed: permission denied」が表示される場合、認証に失敗しています。WAN ポートの設定で設定した認証情報 (40 ページ) に誤りが無いか確認して下さい。

■ PPPoE (有線 WAN) 接続失敗時の表示例 2

```
daemon.info pppd[21212]: RP-PPPoE plugin version 3.3 compiled against pppd 2.4.4
daemon.notice pppd[21212]: pppd 2.4.4 started by root, uid 0 ←PPPoE 接続開始
daemon.info statecheck: Start check PPP connection, wait timer 40
user.info udhcpd: udhcp server (v0.9.9-pre) started
user.notice pppoe:
user.notice Timeout waiting for PADO packets ←PPPoE 接続タイムアウト
daemon.err pppd[21212]: Timeout waiting for PADO packets
daemon.notice pppd[21212]: Connection terminated.
daemon.err pppd[21212]: Unable to complete PPPoE Discovery
daemon.info pppd[21212]: Terminating on signal 15 ←回線切断
daemon.info pppd[21212]: Exit.
```



「Timeout waiting for PADO packets」が表示される場合、WAN 側回線が応答していません。ETH1 ポートに WAN 側回線が正しく接続されているか確認して下さい。

7-6.ファームウェア更新

ファームウェアのバージョンアップ方法について説明します。

ファームウェアバージョンアップ時の注意
最新ファームウェアは弊社サポート&ダウンロードページより入手して下さい。 https://www.mrl.co.jp/support.html
ダウンロードしたファームウェアに同梱されている使用許諾、Readme を必ずお読み下さい。 バージョンアップ作業は、Redame を確認してから行って下さい。
ファームウェアのバージョンアップは、WAN 側から行わないで下さい。バージョンアップに失敗する恐れがあります。
ファームウェアのバージョンアップを行うパソコンでは、セキュリティソフト等、他のアプリケーションは停止して下さい。 他のアプリケーション等が動作していると、バージョンアップに失敗する恐れがあります。

設定メニューの「マネージメント」より「ファームウェア更新」をクリックして下さい。

The image shows a screenshot of a router's web interface. On the left is a navigation menu with '設定項目' (Settings) expanded to show 'マネージメント' (Management), where 'ファームウェア更新' (Firmware Update) is highlighted with a red box. On the right is the 'ファームウェア更新' (Firmware Update) page. The page title is 'ファームウェア更新'. Below the title is the text 'ファームウェアの更新を行います。' (Performing firmware update). A red-bordered box contains '注意事項' (Important Notice) with three bullet points: 'ファームウェア更新中は、本機の電源を切ったりケーブルを抜いたりしないで下さい。' (Do not power off or unplug cables during update), 'ファームウェア更新作業は必ず有線LAN経由で行って下さい。' (Update must be done via wired LAN), and 'ファームウェア更新を行うパソコンと本機を1対1で接続して下さい。(本機に接続されている他のネットワーク機器は、いったん切り離して下さい。)' (Connect PC and router 1:1; disconnect other devices). Below this is '現在のバージョン v1.xx.xx(MR001)' (Current version) and 'ファイルを選択' (Select file) with a 'ファイルを選択' button and the text '選択されていません' (None selected). At the bottom is a 'ファームウェア更新開始' (Start firmware update) button.

「ファームウェア更新」画面が開きます。

This is a detailed view of the 'ファームウェア更新' (Firmware Update) screen. It features the same title and introductory text as the previous screenshot. The '注意事項' (Important Notice) box is more prominent, containing the same three bullet points. Below the notice, it shows '現在のバージョン v1.xx.xx(MR001)' (Current version) and 'ファイルを選択' (Select file) with a 'ファイルを選択' button and the text '選択されていません' (None selected). At the bottom is a 'ファームウェア更新開始' (Start firmware update) button.

■現在のバージョン

現在のファームウェアバージョンを表示します。

■[参照]、または[ファイルを選択](ボタン)

バージョンアップファイルを選択して開きます。

■ファームウェア更新開始(ボタン)

バージョンアップファイルを開いた後、バージョンアップを開始します。

〈次ページへ進んで下さい〉

タイマー自動ファームウェア更新機能を有効にする

ファームウェアダウンロードURL

スケジュール

毎日

日曜 月曜 火曜 水曜 木曜 金曜 土曜

更新実施時刻 時 分
(0~23) (0~59)

確認	「タイマー自動ファームウェア更新機能」を使用するには、別途バージョンアップサーバーをご用意頂く必要があります。
	「タイマー自動ファームウェア更新機能」は、「NTP クライアント機能」による時刻情報取得が正常に行われた場合のみ動作します。 「NTP クライアント機能」については、「7-2.時刻情報・タイマー再起動設定」(84 ページ) を参照して下さい。

■タイマー自動ファームウェア更新機能を有効にする(チェックボックス)

タイマー自動ファームウェア更新機能を使用する場合、チェックを入れて下さい。

■ファームウェアダウンロード URL

バージョンアップサーバーの URL を入力します。

■スケジュール

ファームウェア更新確認を行うスケジュールを設定します。
更新ファイルがある場合はファームウェア更新を実施します。

- ・毎日
→毎日更新確認します。
- ・日曜～土曜
→曜日を指定して更新確認します。
- ・更新実施時刻
→更新確認を実行する時刻を入力して下さい。

タイマー自動ファームウェア更新機能の設定を変更した場合、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。
以下の画面が表示されますので、すぐに設定を反映させる場合は[今すぐ再起動]ボタンを、引き続き設定を行う場合は[後で再起動]ボタンをクリックして下さい。

設定は正常に保存されました。

変更を動作に反映させるためには、プロセスを再起動する必要があります。

今すぐ再起動を行いますか？
他の設定を行った後、再起動を行いますか？

7-7.設定保存・読み込み

設定内容をファイルに保存する、保存した設定ファイルを読み込む、設定を工場出荷値に戻す方法について説明します。

設定メニューの「マネージメント」より「設定保存・読み込み」をクリックして下さい。

「設定保存・読み込み」画面が開きます。

設定保存・読み込み

現在の設定をファイルに保存する、または、保存した設定ファイルを読み込みます。
設定を工場出荷値に戻すこともできます。

設定をファイルに保存

全ての設定をファイルから読み込む 選択されていません

工場出荷値設定をファイルから読み込む 選択されていません

設定を工場出荷値に戻す

■設定をファイルに保存(ボタン)

現在の設定をファイルとして保存します。

■全ての設定をファイルから読み込む

ファイルから全ての設定を読み込みます。

■工場出荷値設定をファイルから読み込む

ファイルから工場出荷設定のみを読み込みます。
設定変更している箇所は設定を残します。

■[参照]、または[ファイルを選択](ボタン)

保存した設定ファイルを選択して開きます。

■[読み込](ボタン)

参照した設定ファイルの内容を設定に反映します。
ボタンを押すと即再起動します。

■設定を工場出荷値に戻す 実行(ボタン)

設定内容を工場出荷状態に戻します。
ボタンを押すと即再起動します。

7-8.ユーザー・パスワード設定

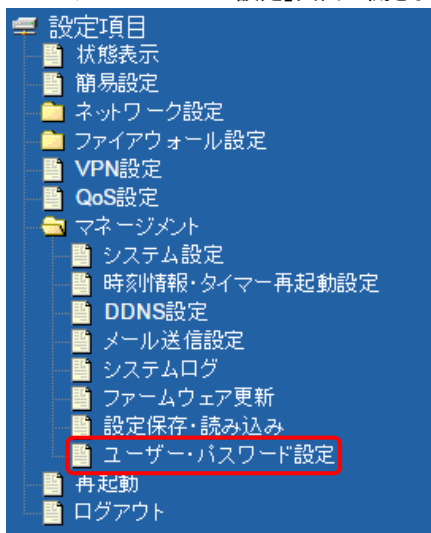
設定画面へのログオンするためのユーザー名、パスワードの設定方法について説明します。



ユーザー名、パスワードを変更する事を推奨します。
特に「WAN 側から設定画面へのログオンを許可する」設定にしている場合、必ず変更して下さい。

設定メニューの「マネージメント」より「ユーザー・パスワード設定」をクリックして下さい。

「ユーザー・パスワード設定」画面が開きます。



ユーザー・パスワード設定

本機の設定画面にアクセスするためのユーザー名・パスワードを設定します。
ユーザー名とパスワードを空欄に設定すると、ユーザー名・パスワードによる保護が無効となります。

新しいユーザー名	<input type="text"/>
新しいパスワード	<input type="password"/>
新しいパスワード(再入力)	<input type="password"/>

※「設定保存」ボタンをクリックすると、本機が即再起動を行います。

■新しいユーザー名

設定画面にアクセスするためのユーザー名を入力して下さい。

■新しいパスワード、新しいパスワード再入力

設定画面にアクセスするためのパスワードを入力して下さい。



工場出荷状態ではユーザー名「admin」、パスワード「passwd」が設定されています。

ユーザー名とパスワードを空欄にすると、ユーザー名・パスワードによる保護が無効になります。

設定が終わりましたら、[設定保存]ボタンをクリックして下さい。
ボタンをクリックすると、即再起動します。

7-9.内蔵モバイルデータカード情報 (MR-GM3L-K のみ)

MR-GM3L-K(KDDI 版)で OTA を行う手順、及び SIM 優先モードの変更方法を説明します。
本設定メニューは MR-GM3L-K(KDDI 版)でのみ表示されます。

確認

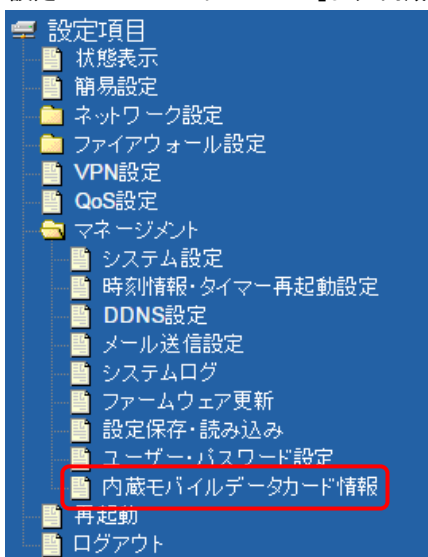
MR-GM3L-K では、OTA システムにより利用開始登録や解約を行う事が可能です。
OTA システムとは、モバイル無線通信を利用して電話番号や ID の書き込み・消去を可能にする機能です。

7-9-1.ICCID の確認

確認

KDDI への申し込み時に ICCID の情報が必要となります。
申し込み方法等は、KDDI へお問い合わせ下さい。

以下の手順であらかじめ ICCID を確認して下さい。
設定メニューの「マネージメント」より「内蔵モバイルデータカード情報」をクリックして下さい。



内蔵モバイルデータカード情報

内蔵モバイルデータカードの情報を表示します。

ICCID	1111111111111111
SIM優先モード設定	SIM カード
SIM優先モード状態	内部 SIM
回線登録状態	未登録
電話番号	未設定

再読み込み

「内蔵モバイルデータカード情報」画面が開きます。

内蔵モバイルデータカード情報

内蔵モバイルデータカードの情報を表示します。

ICCID	1111111111111111	
SIM優先モード設定	内部 SIM	SIM優先モード切り替え
SIM優先モード状態	内部 SIM	
回線登録状態	未登録	
電話番号	未設定	利用開始登録(OTASP)

再読み込み

ICCID を確認して下さい。

確認

本画面の情報が「未取得」となっている場合、少し時間をおいてから[再読み込み]ボタンをクリックして下さい。

■SIM 優先モード切り替え(ボタン)

内蔵通信モジュールの内部 SIM、外部 SIM (SIM カード)どちらを優先するか切り替えるボタンです。

■利用開始登録(OTASP)(ボタン)

利用開始登録(OTASP)の実行ボタンです。

■再読み込み(ボタン)

本画面の内容を再読み込みします。


7-9-2.OTASP(利用開始登録)

■OTASP(利用開始登録)の流れ

1. 事前に KDDI へのお申込みを行って下さい。
2. KDDI より実施時期の連絡があります。
3. 実施時期になりましたら、MR-GM3L-K の設定画面にログインし、「内蔵モバイルデータ情報」画面を開き [利用開始登録(OTASP)]ボタンをクリックして下さい。

IOCID	11111111111111111111
SIM優先モード設定	内部 SIM SIM優先モード切り替え
SIM優先モード状態	内部 SIM
回線登録状態	未登録
電話番号	未設定 利用開始登録(OTASP)


4. 回線登録状態が「登録」に変わりましたら、OTASP は完了です。

 確認	OTASP は内蔵通信モジュールの回線登録状態が「未登録」の場合にのみ行えます。
	OTASP に失敗した場合、再度 OTASP ボタンをクリックして下さい。
	OTASP は電波状況が良好な場所で行って下さい。 電波状況は「状態表示」(18 ページ)で確認する事ができます。
	お申込み方法等、OTA に関する内容は、KDDI へお問い合わせ下さい。

7-9-3.OTAPA(利用解約)

■OTAPA(利用解約)の流れ

1. 内蔵通信モジュールを解約状態にするには、KDDI への申し込みを行って下さい。
2. KDDI より実施時期の連絡があります。
3. 実施時期になりましたら、MR-GM3L-K の電源を入れておきます。
※このとき、MR-GM3L-K の WAN 側接続モードが「モバイルデータカード(内蔵)」に設定されている必要があります。
WAN 側接続モードの設定方法は「3-2.WAN 設定(回線冗長化機能を使用しない)」(32 ページ)を参照して下さい。

 確認	KDDI への解約申し込みを行ったにも関わらず OTAPA を行わなかった場合、以降通信モジュールが使用できなくなりますので、OTAPA は必ず行って下さい。
	OTAPA は通信網側から行われるため、MR-GM3L-K の操作は必要ありません。
	OTA は電波状況が良好な場所で行って下さい。
	解約方法等、OTA に関する内容は、KDDI へお問い合わせ下さい。


7-9-4.SIM 優先モードの切り替え

KDDI の SIM カード(外部 SIM)を使用する場合、SIM 優先モード設定が「SIM カード」になっている事を確認して下さい。
SIM 優先モード設定が「内部 SIM」になっている場合、「SIM カード」に切り替えて下さい。

ICCID	11111111111111111111	
SIM優先モード設定	SIM カード	SIM優先モード切り替え
SIM優先モード状態	SIM カード	
回線登録状態	登録	
電話番号	未設定	利用開始登録(OTASP)

■SIM 優先モード設定の切り替え方法

1. 「ネットワーク設定」→「WAN 設定」を開き、WAN 側接続モードを「DHCP クライアント」等、「モバイルデータカード(内蔵)」以外の接続モードに変更して設定保存して下さい。

	WAN 側接続モードで「モバイルデータカード(内蔵)」が使用されていると、SIM 優先モードを切り替える事はできませんのでご注意ください。
---	---

2. 設定メニューより「再起動」をクリックして、システム再起動を実行して下さい。
3. 「内蔵モバイルデータカード情報」画面を開き、「SIM 優先モード切り替え」ボタンをクリックして下さい。
(ボタンをクリックすると即再起動します。)
4. 再起動後、「SIM 優先モード設定」が切り替わっている事を確認して下さい。

8.GPS 機能について

GPS 機能の設定方法を説明します。

確認

GPS 機能は内蔵通信モジュールでのみ利用できます。

アシスト GPS は、使用するキャリアや SIM により位置情報が取得できない場合があります。

設定メニューの「ネットワーク設定」より「WAN 設定」をクリックして下さい。

「WAN 設定」画面が開きます。

設定項目

- 状態表示
- 簡易設定
- ネットワーク設定
 - LAN設定
 - WAN設定**
 - スタティックルーティング設定
 - 簡易DNS設定
- ファイアウォール設定
- VPN設定
- QoS設定
- マネージメント
- 再起動
- ログアウト

WAN設定

WAN側(ETH1またはUSB)接続モード

プライマリ接続モード	モバイル
セカンダリ接続モード	未使用

- UPnPを有効にする
- IPsecパススルーを有効にする
- PPTPパススルーを有効にする
- L2TPパススルーを有効にする

GPS 機能を使用する[接続モード設定]ボタンをクリックして下さい。

WAN設定

WAN側(ETH1またはUSB)接続モード等の設定を行います。

プライマリ接続モード	モバイルデータカード(内蔵)	プライマリ接続モード設定
セカンダリ接続モード	未使用	セカンダリ接続モード設定

「接続モード設定」画面が開きます。

位置情報取得	行わない
位置情報取得間隔	0 (0~1440分) ※4

■位置情報取得

・アシスト GPS

→基地局からの電波によるアシストを利用して位置情報を取得します。
取得するのは接続している基地局の位置情報です。

・スタンドアロン GPS

→GPS 電波により位置情報を取得します。

確認

GPS 電波の受信感度が悪いと位置情報を取得できない場合があります。

■位置情報取得間隔

位置情報を取得する間隔を分単位で設定します。

「0」を設定すると、回線接続時のみ取得します。

●位置情報の表示について

位置情報は以下に表示されます。

■状態表示画面

モバイルデータカード(内蔵)				
状態	回線接続			
IPアドレス	***.***.***.***	更新		
端末識別番号	*****			
SIM識別番号	*****			
電話番号	080*****			
LTE	圏内			
電波強度(アンテナ)	4			
電波強度(RSSI)	-51dBm			
受信電力(RSRP)	-67dBm			
受信品質(RSRQ)	-6dB			
基地局番号(Cell ID)	***			
BAND(ARFCN)	100			
周辺基地局情報	Cell ID	ARFCN	RSRP	RSRQ
	***	100	-67.60dBm	-6.90dB
	***	100	-77.20dBm	-18.20dB
位置情報 (スタンドアロンGPS)	35.612591,139.741770			
モジュールファームウェアバージョン	11-18			
モジュールキャリア選択値	0,2			

位置情報が取得できなかった場合「不明」と表示されます。

■メール送信機能によるメール内容

```

件名:MR-GM3 00:10:38:**:** Stauts

WAN interface Active
Uptime      0days:5:55:19s
Version     v1.xx.xx(MR001)
Build       Tue Nov 15 13:15:45 JST 2016
Config Version  Default:7 Current:7
System      MR-GM3L-DK
Device Name MR-GM3 Lite
NTP         Synchronized
WAN
Mode        Mobile Card(Built-in MODULE)
TEL         080*****
IMEI        *****
LTE         1
SQ          4
RSSI        -51dBm
BAND(Frequency) 100
GPS(Standalone) 35.612591,139.741770 ←GPS 機能により取得した位置情報
    
```

メール送信時に位置情報が取得できていない場合は「Unknown」と記述されます。

■システムログ

```

get GPS date 2024/2/22 15:24:57 location latitude 35.612591 longitude 139.741770
    
```

位置情報が取得できなかった場合「get GPS location failed」と表示されます。

9.仕様

MR-GM3L 仕様		
分類	仕様	
3G/LTE 通信モジュール	内蔵通信モジュール	MR-GM3L-D : AMP520 (AM Telecom) MR-GM3L-K : KYM12 (京セラ) MR-GM3L-S : AMM5220 (AM Telecom) MR-GM3L-DK : AMM570 (AM Telecom) MR-GM3L-DKS : AMM570 (AM Telecom) MR-GM3L-M : AMM570D (AM Telecom)
	SIM スロット	MR-GM3L-D/K/DK : nano SIM カード(12.3×8.8mm)サイズ MR-GM3L-S/DKS/M : micro SIM カード(15mm×12mm)サイズ
	アンテナ	背面 SMA コネクタ×2 (アンテナはオプション販売)
USB ポート		USB2.0 1 ポート (TypeA コネクタ)
有線 LAN ポート		10/100Mbps 2 ポート (RJ-45・AutoMDI/MDI-X) (有線 WAN 接続の場合、ETH1 ポートが有線 WAN ポートとして動作)
ルーター機能		NAPT (IP マスカレード)、DHCP サーバー ポート開放 (ポートフォワーディング、ポートマッピング、DMZ ホスト) IPsec/PPTP/L2TP パススルー、IPv6 パススルー (有線 WAN 接続のみ) IP フィルタリング、ドメインフィルタリング、MAC アドレスフィルタリング UPnP 機能 (UPnP Forum Internet Gateway Device v 1.0 準拠) QoS 機能、VPN (IPsec) 接続機能 (イニシエータ固定)
電源アダプター		AC アダプター 入力: 100VAC 50/60Hz 出力: DC12V 1A
筐体		143(W) × 97(D) × 26(H) mm (本体のみ・突起部を除く)
重量		約 156g (本体のみ・内蔵通信モジュール含む)
環境条件		温度: 0~45°C 湿度: 25~85% (結露しないこと)
環境対応		RoHS 指令準拠
取得規格		電源アダプター: 電気用品安全法 適合性検査 適合証明書取得

内蔵通信モジュール AMP520 仕様 (MR-GM3L-D)	
無線周波数	LTE (800MHz/1.5GHz/2.1GHz) 3G (800MHz/2.1GHz)
通信方式	LTE/3G
内蔵通信モジュール KYM12 仕様 (MR-GM3L-K)	
無線周波数	800MHz
通信方式	LTE/FDD
内蔵通信モジュール AMM5220 仕様 (MR-GM3L-S)	
無線周波数	LTE (900MHz/2.1GHz/2.5GHz) 3G (900MHz/2.1GHz)
通信方式	FDD-LTE/AXGP/3G
内蔵通信モジュール AMM570 仕様 (MR-GM3L-DK/DKS)	
無線周波数	LTE (800MHz/900MHz/2.1GHz)
通信方式	LTE
内蔵通信モジュール AMM570D 仕様 (MR-GM3L-M)	
無線周波数	LTE (800MHz/900MHz/2.1GHz) 3G (800MHz/900MHz/2.1GHz)
通信方式	LTE/3G

10.Q&A

本製品を使用する上での Q&A 集です。

本製品が正しく動作しないときや、不明な点があるときに参照して下さい。

設定時の Q&A	108
Q. ランプが点灯しない。	108
Q. 設定画面へログオンできない。	109
Q. パスワードを入力しても設定画面へログオンできない。	110
Q. 管理者パスワードを忘れたため、設定画面へログオンできなくなった。	110
Q. ポートを空けたい。	111
Q. サーバーやネットワークカメラを公開したい。	111
Q. インターネット側からの Ping に応答させたい。	111
Q. インターネット側から設定画面へログオンしたい。	111
Q. ETH1 ポートが使用できない。	111
Q. MR-GM3L-K で SIM 優先モード設定が切り替わらない。	111
設定後の Q&A	112
Q. LTE ランプが点灯しない。	112
Q. USB ランプが点灯しない。	112
Q. インターネットへ接続できない。	113
Q. 常時接続に設定しているのに回線が切断される。	114
Q. 常時接続に設定しているのに回線が切断されると再接続しない。	114
Q. 回線の接続・切断・再起動を繰り返す。	114
Q. 回線冗長化機能が動作しない。	114
Q. 回線冗長化機能でセカンダリ接続に切り替わった後プライマリ接続に戻らない。	114
Q. インターネットに接続できるが、速度が遅い。	114
Q. 本体 IP アドレスを変更した後、設定画面へログオンできなくなった。	115
Q. WAN 側から設定画面が開けない。	115
Q. WAN 側からの Ping に応答しない。	116
Q. プロバイダから自動取得した IP アドレスを知りたい。	116
Q. 内蔵通信モジュールで接続した際にプライベート IP アドレスを取得してしまう。	116
Q. UPnP 対応ソフトウェアが動作しない。	116
Q. 固定 IP アドレス付与機能が動作しない。	116
Q. 回線監視監視機能が動作しない。	117
Q. メール送信機能で送信したメールが受信できない。	117
Q. スケジュールによるタイマー再起動が動作しない。	117
その他の Q&A	118
Q. ファームウェアバージョンや MAC アドレスを知りたい。	118
Q. 設定を工場出荷値に戻したい。	118

Q. ランプが点灯しない。

A. 以下の各項目を確認して下さい。

■「Power」ランプが点灯しない。

本製品付属の専用電源アダプターを使用しているか確認して下さい。

他製品の電源アダプターは使用できませんのでご注意下さい。

■「Status1」ランプが点灯しない。

「Status1」ランプは、起動が完了すると点灯します。

回線冗長化機能使用時にセカンダリ接続モードで動作中の場合は、消灯しているのが正しい状態となります。

■「Status2」ランプが点灯しない。

「Status2」ランプは、回線冗長化機能を使用し、かつセカンダリ接続モードで動作中に点灯します。

回線冗長化機能未使用、またはプライマリ接続モードで動作中は消灯しているのが正常な状態となります。

■「LTE」ランプが点灯しない。

LTE ランプが点滅、もしくは消灯している場合、内蔵通信モジュールでの回線接続が完了していません。

・SIM カードが正しく取り付けられているか確認して下さい。

「2-1.各機器との接続」(4 ページ)を参照して下さい。

・内蔵通信モジュール用外部アンテナが正しく取り付けられているか確認して下さい。

「2-1.各機器との接続」(4 ページ)を参照して下さい。

・接続 ID、パスワード、APN、電話番号が正しく設定されているか確認して下さい。

「3-2-1.モバイルデータカード(内蔵)」(32 ページ)を参照して下さい。

■「USB」ランプが点灯しない。

USB モバイルデータカードを認識していません。

WAN 側の接続モードが「モバイルデータカード(USB)」になっているか確認して下さい。

「3-2-2.モバイルデータカード(USB)」(36 ページ)を参照して下さい。

WAN 設定を確認しても認識しない場合は、モバイルデータカードを一度取り外し、再度接続して下さい。

抜き差ししても認識しない場合は、本製品の電源を入れなおして下さい。

■「ETH0」、「ETH1」が点灯しない。

・LAN ケーブルが正しく接続されているか確認して下さい。

接触不良等を起こしていないか確認して下さい。

・LAN ケーブルを交換してみてください。

LAN ケーブルを別の物に交換してみてください。

・本製品とパソコンの間に HUB を経由している場合、パソコンを本製品に直接接続してみてください。

HUB を経由せずに接続できるか確認して下さい。

Q. 設定画面へログオンできない。

A. 以下の各項目を確認して下さい。

■製品付属の専用電源アダプターを接続していますか？

(本製品の電源は ON になっていますか？)

他の電源アダプターを接続した場合、本製品は正しく動作しません。

必ず本製品に付属の専用電源アダプターを接続して下さい。

(パソコンの電源を ON にする前に、本製品の電源を ON にして下さい。)

■本製品が起動中ではありませんか？

本体上面の「Power」ランプ「WLAN」ランプが点灯するまでお待ち下さい。

■パソコンと本製品が正しく接続されていますか？

LAN ケーブルが正しく接続されているか確認して下さい。

■初期設定の場合、ETH0ポートに接続していますか？

初期設定を行う場合、必ず ETH0 ポートに接続して下さい。

ETH1 ポートは工場出荷値、WAN ポートとして動作していますので、ETH1 ポートから設定画面を開くことはできません。

■パソコンのイーサネットポートは正常に動作していますか？

パソコン、またはイーサネットボードのマニュアルを参照し、正常に動作していることを確認して下さい。

■パソコンにネットワークアダプターが複数セットアップされていませんか？

パソコンにネットワークアダプター(無線 LAN も含む)が複数セットアップされている場合は、MR-GM3L に接続していないネットワークアダプターを一時的に無効(未使用)にして下さい。

■本製品の DHCP サーバーを使用する(工場出荷値)場合、IP アドレスが正しく取得されていますか？

パソコンが IP アドレスを正しく取得できているか確認して下さい。

【MR-GM3L が工場出荷値の場合】

IP アドレス: 192.168.0.2~192.168.0.30 のいずれか

サブネットマスク: 255.255.255.0

デフォルトゲートウェイ: 192.168.0.1

プライマリ DNS: 192.168.0.1

■WWW ブラウザが「プロキシサーバーを使用する」設定になっていませんか？

本製品の設定を行う際は、WWW ブラウザを「プロキシサーバーを使用しない」設定にする必要があります。

以下の方法で、WWW ブラウザを「プロキシサーバーを使用しない」設定にして下さい。

■Windows 7/8/8.1/10 の場合

1. Internet Explorer を起動して下さい。
2. [ツール]メニューから[インターネットオプション]をクリックして下さい。
3. [接続]タブをクリックし、[LAN の設定]ボタンをクリックして下さい。
4. 以下のチェックボックスを全て外して下さい。
 - ・設定を自動的に検出する。
 - ・自動構成スクリプトを使用する。
 - ・LAN にプロキシサーバーを使用する。

■Mac OS X の場合

1. [アップルメニュー]から[システム環境設定]を選択して下さい。
2. [ネットワーク]をダブルクリックして下さい。
3. [Ethernet]を選択して下さい。
4. [詳細]ボタンをクリックして下さい。
5. [プロキシ]タブをクリックして下さい。
6. 「WEB プロキシ(HTTP)」にチェックが入っていないことを確認して下さい。

〈次ページへ進んで下さい〉

■WWW ブラウザのキャッシュを削除してみてください。

以下、Internet Explorer11 でキャッシュを削除する例です。

1. Internet Explorer の[ツール]メニューから[インターネットオプション]をクリックして下さい。
2. 「閲覧の履歴」欄にある[削除]ボタンをクリックして下さい。
3. 「インターネット一時ファイルおよび WEB サイトのファイル」にのみチェックを入れ、他のチェックは外して下さい。
4. [削除]ボタンをクリックして下さい。
5. 「Internet Explorer は選択された閲覧の履歴の削除を完了しました」とメッセージが表示されましたら削除は完了です。
6. [OK]ボタンをクリックして「インターネットオプション」画面を閉じて下さい。
7. Internet Explorer を再起動し、再度設定画面にログオンできるか確認して下さい。

■**ファイアウォール/セキュリティ対策ソフトウェア等が起動・常駐していませんか？**

設定を行うパソコンにファイアウォール/セキュリティ対策ソフトウェアがインストールされている・常駐している場合、設定を始める前に、ソフトウェア側の動作・設定を一時的に以下のように変更して下さい。

(ファイアウォール/セキュリティ対策ソフトウェアが、本製品との通信を遮断してしまう場合があります。)

- ・ファイアウォール/セキュリティ対策ソフトウェアのセキュリティレベル設定を「一番低いレベル」へ変更する。
- ・ファイアウォール/セキュリティ対策ソフトウェアをいったん無効にする。

変更方法等について、詳しくはソフトウェアのマニュアルを参照して下さい。

Q. パスワードを入力しても設定画面へログオンできない。

A. 以下の各項目を確認して下さい。

■**パスワードを間違えていませんか？**

正しいパスワードを入力して下さい。

パスワードがわからなくなってしまった場合は、設定を初期化して下さい。

詳しくは以下を参照して下さい。

Q.管理者パスワードを忘れたため、設定画面へログオンできなくなった。(次項)

■**他製品の設定画面を開いていませんか？**

WWW ブラウザに入力しているアドレスに間違いがないか確認して下さい。

本製品の本体 IP アドレスが工場出荷値の場合は「http://192.168.0.1/」を入力しているか確認して下さい。

Q. 管理者パスワードを忘れたため、設定画面へログオンできなくなった。

A. 以下の手順で設定を初期化して下さい。

	設定内容は全て初期化されます。
---	-----------------

- 1) 本製品の電源を入れて下さい。
- 2) Power ランプと Status1 ランプが点灯している事を確認して下さい。
- 3) 本体背面の INIT ボタンを **8 秒以上**押し続けて下さい。
- 4) 8 秒以上たったら INIT ボタンを放して下さい。
- 5) Power ランプ、Status1 ランプが点灯すると初期化は完了です。

Q. ポートを空けたい。

A. ポートフォワーディング設定を行って下さい。

ポートを開ける必要がある場合は、ポートフォワーディング設定を行って下さい。
詳しくは、「4-4.ポートフォワーディング設定」(71 ページ)を参照して下さい。

Q. サーバーやネットワークカメラを公開したい。


A. ポートフォワーディング設定を行って下さい。

詳しくは、「4-4.ポートフォワーディング設定」(71 ページ)を参照して下さい。

Q. インターネット側からの Ping に応答させたい。

A. IP フィルタリング設定を行って下さい。


詳しくは、「4-1.IP フィルタリング設定」(76 ページ)を参照して下さい。


 確認	インターネット上から実行された PING に応答させる場合、プロバイダから付与される IP アドレスが「グローバル IP アドレス」である必要があります。 付与される IP アドレスが「プライベート IP アドレス」の場合は、インターネット上からアクセスする事はできませんのでご注意ください。
---	---

Q. インターネット側から設定画面へログオンしたい。

A. IP フィルタリング設定を行って下さい。

詳しくは、「4-6.WAN 側から設定画面へのログオンを行う場合の設定方法」(74 ページ)を参照して下さい。

 確認	インターネット上から設定画面にアクセスする場合、プロバイダから付与される IP アドレスが「グローバル IP アドレス」である必要があります。 付与される IP アドレスが「プライベート IP アドレス」の場合は、インターネット上からアクセスする事はできませんのでご注意ください。
---	---

 注意	「WAN 側から設定画面へのログオンを許可する」設定にする場合、必ずユーザー名、パスワードを変更して下さい。変更方法は「7-8.ユーザー・パスワード設定」(100 ページ)を参照して下さい。
---	---

Q. ETH1 ポートが使用できない。

A. 以下の各項目を確認して下さい。

■工場出荷設定の場合、ETH1 ポートは有線 WAN ポートとして動作しています。

WAN 側接続モードを「モバイルデータカード(内蔵)」、「モバイルデータカード(USB)」に設定すると ETH1 ポートを有線 LAN ポートとして使用する事ができます。

■回線冗長化設定で、有線 WAN 接続を組み合わせた設定を行っていませんか？

回線冗長化設定で、有線 WAN 接続を組み合わせた設定を行うと、ETH1 ポートは有線 WAN ポート固定動作となります。
回線冗長化設定については、「3-3.回線冗長化機能を使用する」(43 ページ)を参照して下さい。

Q. MR-GM3L-K で SIM 優先モード設定が切り替わらない。

A. WAN 側接続モードが「モバイルデータカード(内蔵)」になっている場合、一度「DHCPクライアント」等に変更して下さい。

WAN 側接続モードで「モバイルデータカード(内蔵)」が使用されていると、SIM 優先モードを切り替える事はできません。
その場合、WAN側接続モードを「DHCPクライアント」等、「モバイルデータカード(内蔵)」以外の動作モードに変更してから切り替えを実行して下さい。

詳しくは、「7-9-4.SIM 優先モードの切り替え」(103 ページ)を参照して下さい。

Q. LTE ランプが点灯しない。

A. 以下の各項目を確認して下さい。

■SIM カードを正しく認識しているか確認して下さい。

状態表示画面で、電話番号、識別番号等が表示されているか確認して下さい。

「2-3-2.状態表示」(18 ページ)を参照して下さい。

電話番号や識別番号が正しく表示されていない場合は、SIM カードを抜き差しして下さい。

■WAN 側接続モードが「モバイルデータカード(内蔵)」になっている事を確認して下さい。

「3-2-1.モバイルデータカード(内蔵)」(33 ページ)を参照して下さい。

■接続 ID、パスワード、APN、電話番号が正しく設定されているか確認して下さい。

「3-2-1.モバイルデータカード(内蔵)」(33 ページ)を参照して下さい。

■MR-GM3L-DK/DKS/M で KDDI 系 MVNO SIM をご利用の場合、キャリア選択で「KDDI MVNO」が選択されているか確認して下さい。

「ネットワーク設定」→「WAN 設定」→「プライマリ接続モード設定」を開き、キャリア選択で「KDDI MVNO」が選択されているか確認して下さい。

「3-2-1.モバイルデータカード(内蔵)」(33 ページ)を参照して下さい。

■内蔵通信モジュール用外部アンテナが正しく取り付けられているか確認して下さい。

「2-1.各機器との接続」(4 ページ)を参照して下さい。

Q. USB ランプが点灯しない。

A. 以下の各項目を確認して下さい。

■USB モバイルデータカードを認識していません。

USB モバイルデータカードを一度取り外し、再度接続して下さい。

抜き差ししても認識しない場合は、本製品の電源を入れなおして下さい。

■WAN 側接続モードが「モバイルデータカード(USB)」になっている事を確認して下さい。

「3-2-2.モバイルデータカード(USB)」(36 ページ)を参照して下さい。

■接続 ID、パスワード、APN、電話番号が正しく設定されているか確認して下さい。

「3-2-2.モバイルデータカード(USB)」(36 ページ)を参照して下さい。

Q. インターネットへ接続できない。

A. 以下の各項目を確認して下さい。

■LAN ケーブルが正しく接続されているか確認して下さい。

本製品の ETH0、ETH1 のリンクランプが点灯しているか確認して下さい。

点灯していない場合は、接触不良を起こしていないか、LAN ケーブルに異常がないか等、確認して下さい。

■本製品の DHCP サーバ機能を使用している場合は、IP アドレスが正しく取得できているか確認して下さい。

以下の手順で確認して下さい。

(本製品の LAN 側 IP アドレス、及び DHCP サーバの設定が工場出荷値の例です。)

■Windows 確認手順

1. コマンドプロンプトを起動して下さい。
2. 「ipconfig」(半角英文字)と入力して Enter キーを押して下さい。
3. 「IPv4 アドレス」欄に「192.168.0.2~192.168.0.254」(どれか 1 つ)が表示されているか、確認して下さい。

■Mac OS X 確認手順

1. [アップルメニュー]から[システム環境設定]を選択して下さい。
2. [ネットワーク]をダブルクリックして下さい。
3. [Ethernet]を選択して下さい。
4. [IP アドレス]欄に「192.168.0.2~192.168.0.254」(どれか 1 つ)が表示されているか、確認して下さい。

■内蔵通信モジュールを使用している場合、LTE ランプが点灯しているか確認して下さい。

LTE ランプが消灯・点滅している場合、回線接続が完了していません。

以下の各項目を確認して下さい。

・SIM カードを正しく認識しているか確認して下さい。

状態表示画面で、電話番号、識別番号等が表示されているか確認して下さい。

「2-3-2.状態表示」(18 ページ)を参照して下さい。

電話番号や識別番号が正しく表示されていない場合は、SIM カードを抜き差しして下さい。

・WAN 設定が正しいか確認して下さい。

「3-2-1.モバイルデータカード(内蔵)」(33 ページ)を参照して下さい。

・MR-GM3L-DK/DKS で KDDI 系 MVNO SIM をご利用の場合、キャリア選択で「KDDI MVNO」が選択されているか確認して下さい。

「3-2-1.モバイルデータカード(内蔵)」(33 ページ)を参照して下さい。

・内蔵通信モジュール用外部アンテナが正しく取り付けられているか確認して下さい。

「2-1.各機器との接続」(4 ページ)を参照して下さい。

・LTE/3G の電波状況が良好か確認して下さい。

電波強度は「2-3-2.状態表示」(18 ページ)で確認することができます。

電波状況が悪い場合は、設置場所を変える等して下さい。

■USB モバイルデータカードを使用している場合、USB ランプが点灯しているか確認して下さい。

・USB ランプが消灯している場合

USB モバイルデータカードを一度取り外し、再度接続して下さい。

抜き差ししても認識しない場合は、本製品の電源を入れなおして下さい。

・USB ランプが点滅を繰り返している場合

WAN 設定が正しいか確認して下さい。

「3-2-2.モバイルデータカード(USB)」(36 ページ)を参照して下さい。

■有線 WAN 接続でご利用の場合、WAN 側回線を ETH1 ポート、LAN ケーブルを ETH0 ポートに接続しているか確認して下さい。

■有線 WAN(PPPoE)接続でご利用の場合、接続 ID、パスワードが正しいか確認して下さい。

Q. 常時接続に設定しているのに回線が切断される。

- A. モバイル回線の場合、通信中であっても一定時間でプロバイダ側から回線が切断されることがあります。
切断されるまでの時間はプロバイダにより異なりますので、詳細は契約プロバイダにお問い合わせ下さい。

Q. 常時接続に設定しているのに回線が切断されると再接続しない。

- A. 回線監視機能を有効にして下さい。

回線監視機能を有効にすることにより復旧する場合があります。
回線監視機能については「3-2-6.WAN 共通設定」(40 ページ)を参照して下さい。

Q. 回線の接続・切断・再起動を繰り返す。

- A. 回線監視機能に誤った FQDN(ドメイン名)・IP アドレスを登録していませんか？

回線監視機能 に登録した全ての宛先への応答確認に連続して失敗すると、回線の接続・切断。再起動を繰り返します。
登録した FQDN・IP アドレスに誤りがないか確認して下さい。
回線監視機能については「3-2-6.WAN 共通設定」(40 ページ)を参照して下さい。

Q. 回線冗長化機能が動作しない。

- A. 回線監視機能が有効になっているか確認して下さい。

回線冗長化機能を使用するためには、回線監視機能を有効にする必要があります。
回線監視機能については「3-2-6.WAN 共通設定」(40 ページ)を参照して下さい。

Q. 回線冗長化機能でセカンダリ接続に切り替わった後プライマリ接続に戻らない。

- A. プライマリ通信確認間隔の設定がされているか確認して下さい。

プライマリ通信確認間隔が「0」で設定されていると、再起動するまでプライマリ接続には戻りません。
プライマリ通信確認間隔設定については「3-3-3.セカンダリ接続の設定」(52 ページ)を参照して下さい。

Q. インターネットに接続できるが、速度が遅い。

- A. 以下の各項目を確認して下さい。

■回線事業者側で速度制限をしていないか確認して下さい。

モバイル通信でご利用の場合、回線事業者側で速度制限をしている場合があります。
速度制限については、ご契約の回線事業者にお問い合わせ下さい。

■内蔵通信モジュール用外部アンテナが正しく取り付けられているか確認して下さい。

「2-1.各機器との接続」(4 ページ)を参照して下さい。

■ファイアウォール/セキュリティ対策ソフトウェア等が起動・常駐していませんか？

インターネット通信を常時監視するソフトウェアが起動・常駐している場合、いったん停止(終了)した後、再度確認して下さい。詳しくはソフトウェアのマニュアルを参照して下さい。

Q. 本体 IP アドレスを変更した後、設定画面へログオンできなくなった。

A. 以下の各項目を確認して下さい。

■パソコンの IP アドレスを自動取得で設定している場合、IP アドレスの開放/再取得を行って下さい。

以下の方法で IP アドレスの開放/再取得を行って下さい。

■Windows の場合

※Windows に管理者権限でログインした後、以下の作業を行って下さい。

- 1) コマンドプロンプトを起動して下さい。
- 2) 「ipconfig /release」と入力して[Enter]キーを押して下さい。
- 3) 「IPv4 アドレス」欄が「0.0.0.0」になります。
- 4) 「ipconfig /renew」と入力して[Enter]キーを押して下さい。
- 5) 「IPv4 アドレス」欄に正しい IP アドレスが表示されているか確認して下さい。

■Mac OS X の場合

- 1) 「アップルメニュー」→「システム環境設定」→「ネットワーク」を起動して下さい。
- 2) 「Ethernet」をクリックして下さい。
- 3) [詳細]ボタンをクリックして下さい。
- 4) 「TCP/IP」タブをクリックして下さい。
- 5) [DHCP リースを更新]ボタンをクリックして下さい。
- 6) 「IPv4 アドレス」欄に正しい IP アドレスが表示されているか確認して下さい。

■パソコンの IP アドレスを固定で設定している場合、本製品と同じネットワークに設定されているか確認して下さい。

■WWW ブラウザのアドレス欄に変更後の IP アドレスを正しく入力しているか確認して下さい。

Q. WAN 側から設定画面が開けない。

A. 以下の各項目を確認して下さい。

■WAN 側からの設定画面へのログオン設定が正しく行われているか確認して下さい。

「4-6.WAN 側から設定画面へのログオンを行う場合の設定方法」(74 ページ)を参照して下さい。

■アタック検出設定を確認して下さい。

アタック検出の値が少なすぎないか確認して下さい。(推奨 30 以上)

アタック検出の設定については「3-2-6.WAN 共通設定」(40 ページ)を参照して下さい。

■「ポートフォワーディング設定」、「DMZ ホスト設定」を確認して下さい。

「ポートフォワーディング設定」、「DMZ ホスト設定」を確認して下さい。

「4-4.ポートフォワーディング設定」(71 ページ)

「4-5.DMZ ホスト設定」(73 ページ)

ポートフォワーディング設定の宛先ポート番号に設定画面へのアクセスポート番号と同じ番号を登録する、もしくは DMZ ホスト機能を有効にすると、これらの機能が優先され、「WAN 側から設定画面へログオンする」設定は無効になります。

■プロバイダから付与される IP アドレスがグローバル IP アドレスか確認して下さい。

インターネット上から設定画面にアクセスする場合、プロバイダから付与される IP アドレスが「グローバル IP アドレス」である必要があります。付与される IP アドレスが「プライベート IP アドレス」の場合は、インターネット上からアクセスする事はできませんのでご注意ください。

付与される IP アドレスが「グローバル IP アドレス」かどうかは、ご利用のプロバイダに確認して下さい。

Q. WAN 側からの Ping に応答しない。

A. 以下の各項目を確認して下さい。

■WAN 側からの PING に応答を返す設定が正しく行われているか確認して下さい。

「4-7.WAN 側からの Ping 応答を返す場合の設定方法」(76 ページ)を参照して下さい。

■アタック検出設定を確認して下さい。

アタック検出の値が少なすぎないか確認して下さい。

アタック検出の設定については「3-2-6.WAN 共通設定」(40 ページ)を参照して下さい。

■「ポートフォワーディング設定」、「DMZ ホスト設定」を確認して下さい。

ポートフォワーディング設定、「DMZ ホスト設定」を確認して下さい。

「4-4.ポートフォワーディング設定」(71 ページ)

「4-5.DMZ ホスト設定」(73 ページ)

ポートフォワーディング設定に ICMP を登録する、もしくは DMZ ホスト機能を有効にすると、これらの機能が優先され、「WAN 側からの Ping に応答を返す」設定は無効になります。

■プロバイダから付与される IP アドレスがグローバル IP アドレスか確認して下さい。

インターネット上から実行された PING に応答させる場合、プロバイダから付与される IP アドレスが「グローバル IP アドレス」である必要があります。付与される IP アドレスが「プライベート IP アドレス」の場合は、インターネット上からアクセスする事はできませんのでご注意ください。

付与される IP アドレスが「グローバル IP アドレス」かどうかは、ご利用のプロバイダに確認して下さい。

Q. プロバイダから自動取得した IP アドレスを知りたい。

A. 設定画面トップの「現在の動作状況」で確認することができます。

設定画面トップの「状態表示」から「モバイルデータカード」欄の「IP アドレス」で確認することができます。

詳しくは「2-3-2.状態表示」(18 ページ)を参照して下さい。

Q. 内蔵通信モジュールで接続した際にプライベート IP アドレスを取得してしまう。

A. モバイルデータカード(内蔵)設定の CDC タイプが「イーサネット」になっていないか確認して下さい。

CDC タイプが「イーサネット」になっていると、WAN 側の IP アドレスはプライベート IP アドレスになります。

CDC タイプを「モデム」に変更してお試し下さい。

「3-2-1.モバイルデータカード(内蔵)」(33 ページ)を参照して下さい。

Q. UPnP 対応ソフトウェアが動作しない。

A. UPnP(ユニバーサル・プラグ・アンド・プレイ)機能を有効にして下さい。

「UPnP を有効にする」にチェックを入れて下さい。(工場出荷値:無効(チェック無し))

「3-2-6.WAN 共通設定」(40 ページ)を参照して下さい。

Q. 固定 IP アドレス付与機能が動作しない。

A. 以下の各項目を確認して下さい。

■固定 IP アドレス付与機能が有効になっているか確認して下さい。

LAN 設定画面の DHCP サーバー 固定 IP アドレス付与設定が「有効」になっているか確認して下さい。

「3-1.LAN 設定」(29 ページ)を参照して下さい。

■固定付与する IP アドレスが DHCP サーバーの付与範囲に含まれている事を確認して下さい。

固定付与する IP アドレスは、MR-GM3L の DHCP サーバー機能が付与する範囲に含まれている必要があります。

「3-1.LAN 設定」(29 ページ)を参照して下さい。

■DHCP サーバー 固定 IP アドレス付与リストに登録した MAC アドレスが正しいか確認して下さい。

イーサネットアダプターのマニュアル等を参照し、登録した MAC アドレスに間違いがないか確認して下さい。

Q. 回線監視監視機能が動作しない。

A. 回線監視機能は、接続モードの設定が「常時接続」の場合に動作します。

「WAN 設定」画面の接続モードで「常時接続」が選択されていることを確認して下さい。
詳しくは「3-2.WAN 設定(回線冗長化機能を使用しない)」(32 ページ)を参照して下さい。

Q. メール送信機能で送信したメールが受信できない。

A. NTP クライアント機能が有効になっているか確認して下さい。

MR-GM3L の内部日時が実際の時間と大きく食い違っている場合、メールサーバー側に不正なメールとして拒否される事があります。

■内蔵通信モジュールを使用している場合

→「ネットワーク設定」→「WAN 設定」→「プライマリ接続モード設定」を開き、「内蔵モジュールから時刻取得を行う」にチェックが入っているか確認して下さい。

詳しくは「3-2-1.モバイルデータカード(内蔵)」(33 ページ)を参照して下さい。

■「NTP クライアント機能」を使用している場合

→「時刻情報・タイマー再起動設定」画面を開き「NTP クライアント状態」が「時刻同期成功」と表示されているか確認して下さい。

詳しくは「7-2.時刻情報・タイマー再起動設定」(84 ページ)を参照して下さい。

Q. スケジュールによるタイマー再起動が動作しない。

A. スケジュールによるタイマー再起動は、NTPクライアント機能で時刻取得に成功した場合に動作します。

■内蔵通信モジュールを使用している場合

→「ネットワーク設定」→「WAN 設定」→「プライマリ接続モード設定」を開き、「内蔵モジュールから時刻取得を行う」にチェックが入っているか確認して下さい。

詳しくは「3-2-1.モバイルデータカード(内蔵)」(33 ページ)を参照して下さい。

■「NTP クライアント機能」を使用している場合

→「時刻情報・タイマー再起動設定」画面を開き「NTP クライアント状態」が「時刻同期成功」と表示されているか確認して下さい。

詳しくは「7-2.時刻情報・タイマー再起動設定」(84 ページ)を参照して下さい。

Q. ファームウェアバージョンや MAC アドレスを知りたい。

A. 設定画面トップの「状態表示」で確認することができます。

詳しくは「状態表示」(18 ページ)を参照して下さい。

Q. 設定を工場出荷値に戻したい。

A. 以下の手順で設定を初期化して下さい。

- 1) 本製品の電源を入れて下さい。
- 2) Power ランプと Status1 ランプが点灯している事を確認して下さい。
- 3) 本体背面の INIT ボタンを **8 秒以上**押し続けて下さい。
- 4) 8 秒以上たったら INIT ボタンを放して下さい。
- 5) Power ランプと Status1 ランプが点灯すると初期化は完了です。

11.ユーザーサポート

ユーザーサポートについて



お問い合わせ頂く前に、サポート規定をご確認下さい。
MRL 製品サポート規定 <https://www.mrl.co.jp/supports/support-policy/>

本製品のユーザーサポートは以下で行っています。

株式会社マイクロリサーチ ユーザーサポートセンター

■サポート直通電話番号：03-3458-9031

土日、祝日を除く 10:00～12:00、13:00～17:00

■サポート直通 FAX 番号：03-3458-9030

■インターネットホームページ

URL：<https://www.MRL.co.jp> (トップページ)

当社からのお知らせ、最新情報の提供を行っています。本製品のファームウェア等、こちらで提供しています。

お問い合わせ頂く際のお願い

お問い合わせ頂く際は、以下の各項目についてあらかじめご確認(メモ等)して頂くことで、よりスムーズなサポートを受けることが出来ます。

- ◆お名前
- ◆製品名(型番)
- ◆ファームウェアバージョン
- ◆接続されているパソコン等の台数
- ◆使用しているイーサネットボードのメーカー名・型番
- ◆使用しているパソコンの OS 及びバージョン
- ◆使用している SIM のキャリア名やご契約プラン名等
- ◆使用している USB モバイルデータカードのメーカー名・型番
- ◆具体的な症状(エラーメッセージ等も含め、できる限り詳細に。)
- ◆ご住所/電話番号・FAX 番号
- ◆製造番号
- ◆設定内容
- ◆使用しているパソコン等のメーカー名・型番



お問い合わせ頂く前に、Q&A 集 の内容を確認して下さい。

本製品の修理について



修理をご依頼頂く前に、修理規定をご確認下さい。
MRL 製品修理規定 <https://www.mrl.co.jp/supports/repair-policy/>

本製品が故障してしまった場合、以下の項目をご確認のうえ、弊社修理センターへ送付して下さい。

(修理品送付に伴う送料は、送り主負担とさせていただきます。)

- 修理品には必ず、使用環境、故障状況等を詳しくお書き添え下さい。
- 修理期間中の代替機のお貸し出しは行っておりませんので、あらかじめご了承下さい。
- 修理品の設定内容は動作確認のため初期化されますので、あらかじめご了承下さい。
- 保証期間中は無償で修理を行います。
ただし、以下の場合は有償修理となりますのでご了承下さい。
 - ◆保証書が同梱されていない場合。
 - ◆保証書の所定事項が未記入の場合。
 - ◆誤った操作等により発生した故障や破損の場合。
 - ◆落雷、火災等の事故により発生した故障や破損の場合。



分解・改造が行われた製品については、一切のサポートおよび修理サービスをお断りさせていただきます。

- 修理品の送付先は以下の通りです。

株式会社マイクロリサーチ 修理センター

〒140-0004 東京都品川区南品川 2-2-10 南品川 N ビル 2F

株式会社マイクロリサーチ